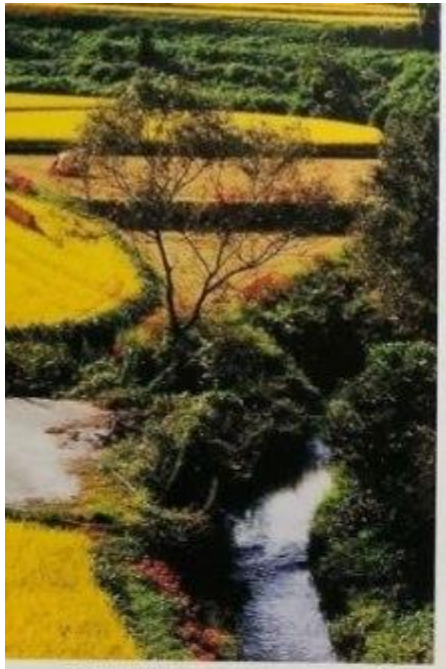


飛鳥川（稲源）

秋色に染まる飛鳥（あすか） 稲淵（いなぶち） 栢森（かやのもり）
西の稜線に日が入ろうとするとき
赤い光線は幾筋も大きくひろがり
棚田の稲穂は黄金の頭（こうべ）を垂れる
畦（あぜ）を埋め尽くす曼珠沙華（まんじゅしゃげ）は
赤々と火を焚いているように輝く
曼珠沙華は彼岸花
彼岸にあわせて花の盛りを迎える
どこからか郷愁が漂い
幻想の世界へと誘いこまれてゆく
数多くの案山子（かかし）さん達が登場し
案山子のコンテストが行われる
幸せそうな表情の案山子
とぼけた顔の案山子
労（いた）わりあう夫婦の案山子

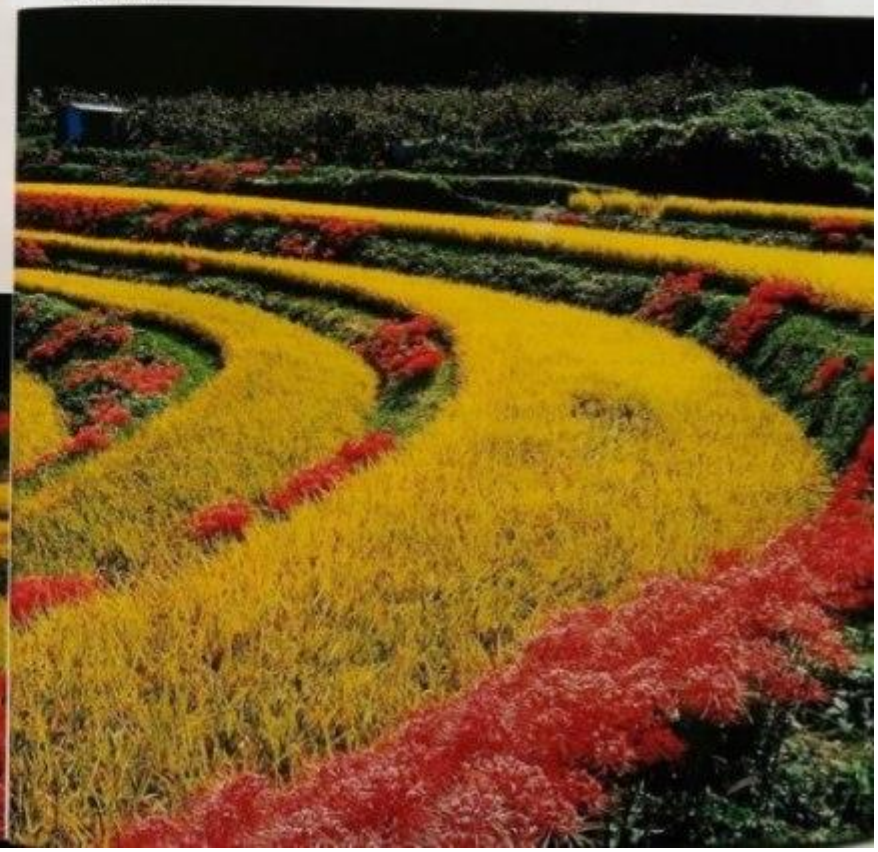
稲を守る案山子

Photo essay

棚田

題字　中田蘭石
撮影　由井　収
文　松永恵一

棚田（稲源）



季節の実景

白川郷

初秋

撮影　武市通治

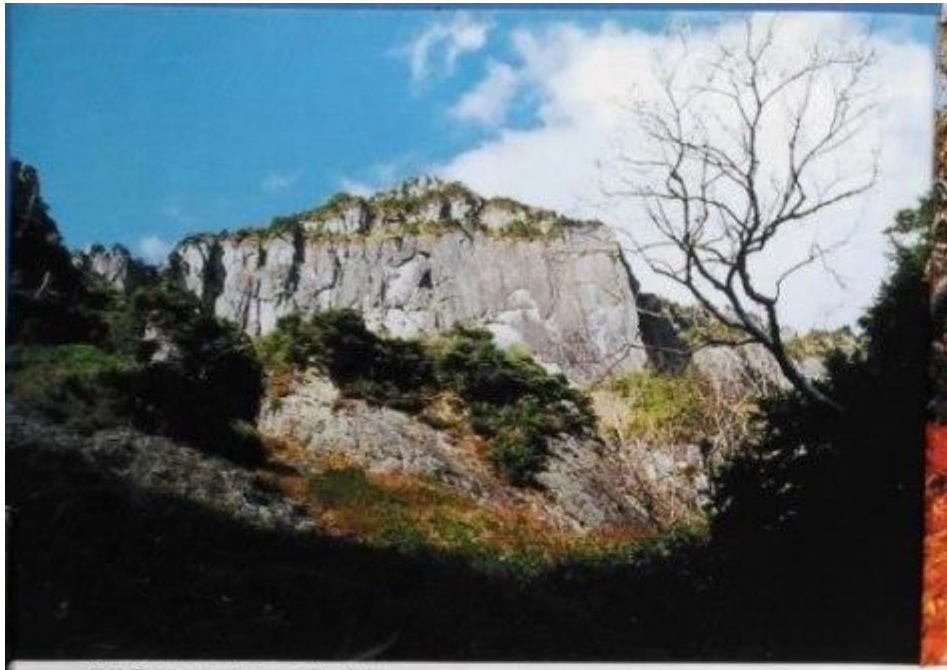
赤い実

秋雨

コスモス

ふくべの滝

刈田



鎗杖岳（北アルプス）　一芝　義雄

白山（大倉道より）　松田　峻男

瀬沢カールを眼下に（北アルプス）　三浦　弘幸

阿弥陀岳（八ヶ岳）　中川　光郎

●目次

表紙：松田敏男「常念岳より黎明の槍ヶ岳を望む」（北アルプス）

●作者プロフィール●1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1987年より山岳版画、山旅画の個展を開催。（京都写友画廊、南アルプス仙水小屋、東京ギャラリー青弓、他）京都山と渓に親しむ会代表、日本山岳会会員

新ハイキング 8月号 関西の山
'94年9・10月 初秋 第78号

●グラビア
初秋の北安曇野 …… 撮影 由井 収 文 松永 恵一
季節の実景（初秋）「白川郡」…… 武市 通治 4
（口絵）松田敏男 中川光郎 一芝義雄 三浦弘幸 奥田英一郎 2
随想（山のエッセイ）
森とブナ科の樹木 …… 鷲見 守康 10
近江の分水嶺を歩いて思う …… 長宗 清司 11

紀行
気ままな車での山旅（信州） …… 生駒 嶺峰 13
乗鞍連峰（北アルプス） …… 鷲見 守康 18
天生峠から猿ヶ馬場山へ（飛騨） …… 山田 明男 22
竜門ヶ岳（吉野） …… 木村 太郎 24

連載 標高による山の紹介シリーズ 18 △△78対の山
猿又山・赤沢岳・乳頭山・馬ノ鞍峰 …… 松田 敏男 28
笹峠・ヨコタニ峠・シロタ谷峠（比良） …… 小山 誠次 30
岩湧山の秋花巡り（紀泉） …… 田中 明 34
琉球島の安徳帯（鹿児島） …… 多摩 雪雄 38

連載 三角点を訪ねて ⑲
古の信仰の山、安蔵山へ（湖北） …… 礒部 純 50

●エリヤ別総合研究 高野参詣道を歩く（第七回 最終回）
⑱女人堂 ㊲相ノ浦口・『紀伊続風土記』『紀伊国名所図会』 …… 長坂 文男 42

●旅振り通信の研究 ㊲
旅振り通信の資料Ⅱ …… 柴田 昭彦 54

●文学歴史探訪ハイク ㉖
高野山壇上伽藍へ詣でて（高野） …… 松永 恵一 62

●〈山のレポート〉「糸魚岳」 …… 西尾 寿一 66
●〈山のレポート〉人山・詩・夢♡ 国破レテ山河在リ …… 紀平 能雄 69

コースガイド
[1] 臥竜（横山） 丘陵縦走（湖北） …… 長宗 清司 72
[2] 恵那山周辺の山々（東濃） …… 山形 歳之 74
[3] 飯降山（福井） …… 金谷 昭 76
[4] 蟻ヶ滝から比叡山（比良） …… 松尾 一郎 78
[5] 水舟ノ池（鈴鹿） …… 礒部 純 81

沿線ハイキングガイド …… 新ハイ関西山行計画 …… 84
サービスチェーン …… 新ハイ関西山行報告 …… 88
せせらぎ …… 編集後記・広告案内 …… 112

巻頭言

先月号で述べたとおり「紀伊山地の霊場と参詣道」が、世界遺産に登録が決定しました。このことは、昔からの霊場とその参詣道がいまに引き継がれ、今日もその役目を立派に果たしているからだろうと思います。霊場には電車・バス・車で簡単にお参りできますが、参詣道は歩く以外にたどるのは不可能です。霊場のみが登録されたのではその価値は半減しますが、参詣道が同時に登録されたことに意義があるように思います。

しかし、昔の参詣道がそのまま残っているのはわずかに山岳地帯の一部の道（登山道として）だけで、多くは車道なり林道に開発され、町や村の人々の生活を支える道に変わってきました。古道歩きといっても車道ばかりでつまらないとよく聞きます。また辺鄙な峠越えのルートは廃道に近いほど荒れてきています。

この際、もう一度昔の人々の暮らしを思い返し、これらの古道を時間と日数をかけてのんびりとたどってみたいものです。地元の市町村も古道整備などは歩く人の身になって昔からの自然の道に復元してほしいものです。

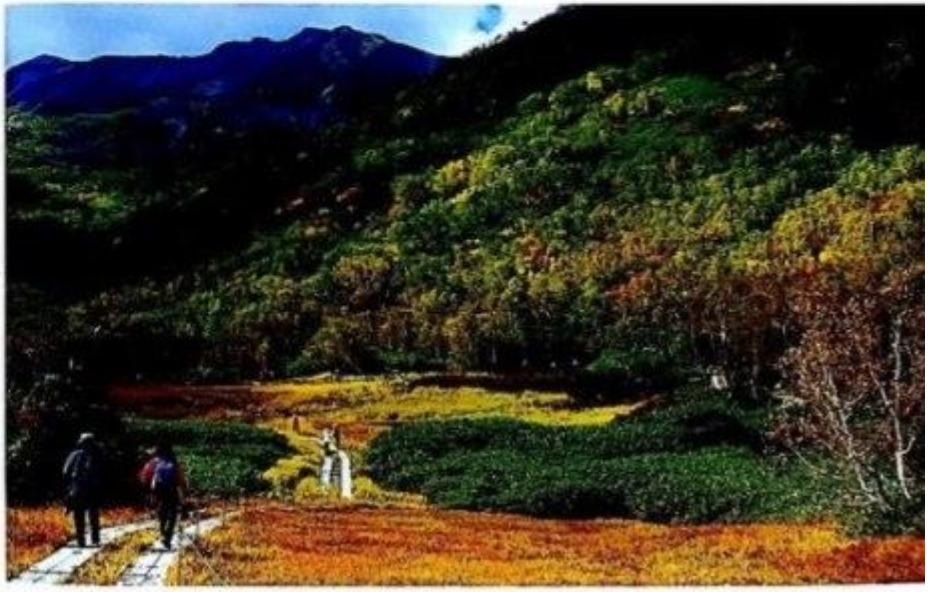
新ハイキング関西（代表）村田 智俊

初秋の北安曇野

奥田 英一郎

茅葺農家の庭に咲くシュウメイギク（大出）

郷愁の山村にひっそりと咲くコスモス（青鬼）



くさもみじの栂池自然園を行く

森とブナ科の樹木

鷲見　守康

ブナ科の樹木といえば「ブナ」が有名で、山を歩いている人はもちろん、山や植物に関心のない人でもブナの名ぐらいは知っている。白神山地のブナ林が「世界遺産」に登録されてから、にわかに注目されてきました。

けれど、ブナはブナ科ブナ属の樹木の一つであり、ブナ以外にブナ科の樹木はわが国に23種もあって、例えばクリの木もその一つだと言うと、驚く人はけっこう多い。

ブナ科の樹木とは、親しみやすくいえば「どんぐり」の木のことで、ほとんどの人は、子供の頃から馴染んでいると思います。どんぐりとはブナ科樹木の果実の総称で、クリも広い意味ではどんぐりの仲間と考えていいでしょう。

そんなブナ科の樹木は、現代ではともすれば雑木として見過ごされがちですが、実は、わが国の自然林を代表する樹木なのです。

わが国の自然林は、大きくいって照葉樹林、雑木林、ブナ・ミズナラ林、さらに亜高山帯針葉樹林に分けられます。ブナ科の樹木は、亜高山帯針葉樹林を除き、それらの森の主要な構成種なのです。

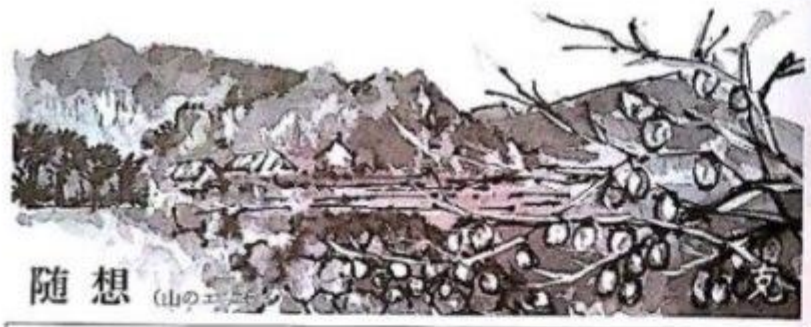
関東地方以南の平野・低山部は、気候的に暖温帯（暖帯）に属し、シイ・カシなどの常緑広葉樹を本来の植生とする地域と考えられています。これら常緑樹の葉は厚く、てかてかとした光沢をもっているため照葉樹とも形容されています。例会山行で歩いた山では、岐阜市の金華山で原生照葉樹林に出合いました。

照葉樹林は、丘陵地に多いシイ林、山地に多いカシ林と大別できますが、シイ・カシもブナ科の樹木です。

ブナ科シイ属シイ（シイ類）はカシよりも比較的暖かい気候の所、ブナ科コナラ属アカガシ亜属（カシ類）は、暖かい気候の地方から比較的涼しい地方へ、アカガシ、アラカシ、シラカシ、ウラジロガシというように分布していくようです。

雑木林は照葉樹林が何らかの理由で中断した跡に、二次的に自然に出現します。里山は、植林の山を除けばほとんどが雑木林です。例会山行で歩いた山では、美濃地方の山の麓から中腹あたりで、さわやかな雑木林に出合いました。

雑木林には、ブナ科コナラ属コナラ亜属（ナラ類）のコナラ・アベマキ、クリ属のクリ（ヤマグリ）などのブナ科の落葉樹が出現します。ただ関東地方では、アベマキに変わってクヌギが出



随想（山のエッセイ）

現します。アベマキは西日本に多いようです。

中部地方においては、おおよそ標高700㍍を超えるとミズナラやブナが出現し、気候的に冷温帯（温帯）に属すると考えられます。

冷温帯落葉広葉樹林は四季の変化が最も美しく、夏緑広葉樹林とも呼ばれ、ブナ属ブナやコナラ属コナラ亜属ミズナラなどが出現します。例会山行で歩いた山では、白山山系の山々で美しいブナ・ミズナラ林に出合いました。

山の自然は、懐に抱く森がどのような森であるかによって、いろいろな表情を見せるので、ブナ科の樹木を通して、その森の表情を読みとり、その森に育つ草花や生息する昆虫や動物たちを知ることができれば、山歩きの楽しさもずいぶんと広がってきます。

山行の際、ブナ科の樹木に気を配り、ブナ科の樹木に親しみながら森を歩けば、今まで以上に「森が見えてくる」のは間違いありません。

自然観察とは、決して草花の名を一つ一つ覚えることではなく、「森を知る」ことであると、改めて思うのです。

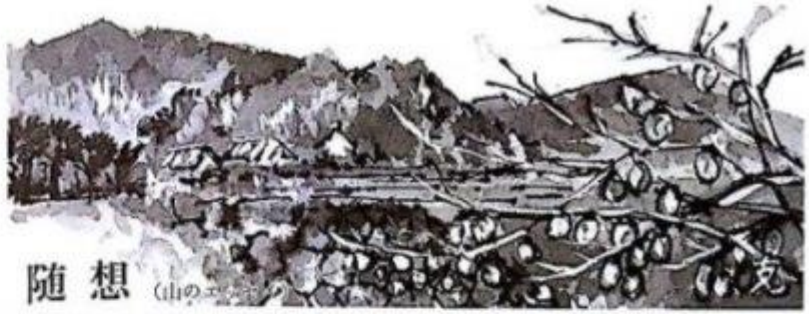
近江の分水嶺を歩いて思う

長宗　清司

近江は典型的な盆地である。地表に降った雨や雪は県境尾根を分水嶺として、川となり、やがて琵琶湖に注ぐ。

比叡・比良・三国・伊吹・鈴鹿など琵琶湖を囲む美しい山系から流れ出る河川は、古くから「命の水」として、地域の人々と密接なかかわりをもち、古代から人々の居住を容易にさせてきた。琵琶湖周辺に数々の遺跡が残っていることからみても明らかである。

総延長61㌔の野洲川をトップに、安曇川・日野川・姉川・犬上川など、滋賀県下には琵琶湖に水を提供する百を超える河川がある。全般的に滋賀県の川は水量に乏しく、流域住民はしば



随想（山の

しば用水確保に悩まされ、方々で水争いが起こった。一方、上流から流出する土砂の量が多く、それが川底に堆積し、天上川の様相を呈し、そのためたびたび大雨による洪水の被害をもたらした。

度重なる水不足や洪水による被害を解消しようと、昭和20年代以降、野洲川・日野川・愛知川・宇曽川・犬上川・芹川などの上流には水を調整するダムが建設された。

しかし現在は、環境の変化によって川のもつ本来のイメージが次第に様変わりしつつある。

地球の温暖化による気候の変化で、降雪量の減少、少雨や局地的に激しく降る雨、平地の砂漠化現象など、人類の身勝手な行動から環境破壊が進んで自然体系を壊して、違った被害をもたらしている。

私は今、好んで琵琶湖周辺の山々を徘徊している。ほとんどが分水嶺の、県境尾根を歩きながらため息の出ることがしばしばである。

景観として見る山は美しいが、実際、山に足を踏み入れてみると、手入れをしない山は荒れ放題で倒木が目立つ。せっかく植えた杉や檜などの用材が間伐されず、昔ヒョロヒョロでとても役に立ちそうにない。

谷の源頭も「枯山水」の庭のように岩ばかりで、湧き水やコケの間から染み出る水も見当たらない。積もった落ち葉が水気をなくして乾燥し、「粉」になって埃として舞い散る。以前なら、山で霧雨に出合うのは嫌だったが、近頃は、あたりにしっとりと湿気が満ちているほうがむしろ心地よい。

最近、湖西「比良」への足の便が失われた。観光レジャーの名の下に開発された施設が、経営不振を理由に閉鎖された。少々不便でも、本来の登山にはさほど影響はない。しかし10年後、施設が全部撤去されたとしても、あとに残った傷跡はどうなる？

一度壊した自然はもう元には戻らない。山の緑は水源であり水の貯水槽である。このまま手をこまねいていると、さっとしっぺ返しを食らう。今、琵琶湖の湖底の酸素が著しく低下して生物が生息できない状況に追い込まれているという。冬場、降雪が少なくなったことや、地に潜った伏流水が琵琶湖にまで達しないことも一因だと聞く。

いずれにしても、山の緑と湖は密接な関係にあり、「水」に生きる私たちは、身近な河川に対してもっと目を向け、美しくきれいな水の流れを取り戻す努力をしたいものだ。

少しでも琵琶湖の水質悪化を食い止め、浄化に助力することが必要である。

信濃路に黄葉を求めて

気ままな車での山旅

生駒聳峰

信州

前年の秋は北海道や東北に黄葉を求めたので、今年は信州に秋を求める。幾つかの山や温泉、滝や湖、名所なども訪れるつもりである。もっとも私は山が一番の目的であることには変わりはない。気楽に登れる山々を選んでガイドブックを持参する。また滝・名水・温泉なども調べておく。交通機関は利用しないし、宿に泊まることもない。日時に縛られない行き当たりばったりのいつもの車の旅である。

天気のよい10月初旬、毎日見ているNHK朝の連続ドラマを見てから腰を上げる。登山といえば朝暗いうちに出発するのが常だが、今回はのんびりした旅を心がけよう。

名神ハイウェイから中央道に入り、恵那インターで降りる。その後は木曽谷沿いを北上し、「馬籠宿」「妻籠宿」「奈良井宿」などの宿場町、「田立の滝」や「殺賃めの床」も見て廻る。どこの観光地も大勢の人で賑やかで、妻はいろいろとお土産を物色するのに忙しい。これも旅の楽しみの一つである。

下諏訪では御柱祭で有名な春宮・秋宮の神社を見学する。鄙びた温泉街のそぞろ歩きも優雅なものである。懐が豊かでないので旅館に泊まることはないが、220円の外湯でたっぷりと本物の温泉を楽しんだ。

白馬三山

茅野市を抜けて小淵沢へ。この周辺は八ヶ岳・南アルプスの登山口も近く、夢中で登っていた若き日々を思い出す。あの頃は元気だったなあ。

今や軽井沢を凌ぐ観光地の清里は、八ヶ岳南麓に広がる高原地帯で、ペンションが立ち並ぶリゾート地である。駅前には瀟洒な商店が軒を連ね、観光客が大勢行き交っている。若者向きの店が多く、

私たち老年夫婦にはあまり関係がなさそうだ。

松原湖から佐久市へ抜けて、「小諸なる　古城のほとり……」と島崎藤村が歌った小諸市の「懐古園」を見学する。「藤村記念館」や「美術館」がある。今夜の泊まりは道の駅「マルメロ長門」にしよう。街路に植えられたマルメロが黄色く色づいている。果物の街路樹は珍しい。

鹿教湯温泉・別所温泉と有名な温泉地を巡る。さらに軽井沢に向かうと大渋滞。

きょうは連休最後の日であった。毎日サンデーの私には祝日の意識がなく、軽井沢が東京圏の車でこんなにも埋まっているとは知らなかった。車を停めることもままならず、軽井沢観光を諦めて小諸に引き返す。今夜は武石の道の駅に泊まろう。浅間連峰が夕日に輝いていた。

翌日は曇り空の下、地蔵峠に登る。登るに従って周辺が黄色に染まってくる。その中でもカラマツの黄葉がすばらしい。黄葉といえば落葉樹と思っていたが、針葉樹の黄葉がこんなにすばらしいとは思いもしなかった。一面のカラマツ林が一際に黄葉している様は、言いようもない美しさを見せていた。

地蔵峠には広い駐車場があり、数軒の店舗が立ち並んでいるが、シーズンオフで人影はない。きょうは湯の丸山に登ろう。スキー場からの山はすっかり冬支度で花一つない。ただ黄葉のカラマツ林が続くのみである。休憩舎を過ぎると、道は急坂になって山頂は近い。ガレ場の南峰に立つと冷たい風が吹き抜け、身体にしみる。急いで北峰の大岩の陰に駆け込んだら、パラパラと霰が顔を打った。山では冬がもう始まっている。展望はよく、北アルプスの槍ヶ岳や白馬岳が同定できた。南には黒斑山の肩から浅間山が盛んに噴煙を上げている。地蔵峠の樹林帯は、帯状に刈り払われたスキー場が痛々しい。

山頂から5～6分もくだると、風もやみ寒さも和らぐ。少しのことでこんなにも違うものだろうか。嬬恋村にくだる林道の周辺もすっかり黄葉に埋まり、助手席の妻が幾度も歓声を上げる。下り坂の空はついに雨となり、きょうの泊まり場を求めて草津の道の駅に走った。ここは

もう群馬県である。

翌朝、雨はやんだが空は雲がいっぱい。まず無料の外湯で休をほぐす。小さいが設備も良く、1人で独占する湯は最高。朝湯は一番の贅沢だ。小原庄助さんの気持ちがよくわかる。

白根山は霧が立ち込めている。ライトを点けてゆっくりと車を走らせる。山頂が近づくと霧が晴れ、山は青空の下にあった。下界は雲海に包まれている。火口の駐車場にはすでに数十台が駐車し、遊歩道には人の列が続いている。私たちはまず芳ヶ平湿原を訪ねる。湿原までは林道を歩く。一般車は入れない。火口へは人の行列だが、こちらは人影もない。火山礫の原には一本の木もなく、黒こげた倒木が散らばっているだけで、下草は紅葉していた。芳ヶ平湿原もすっかり冬枯れで見る影もない。しかし、周囲の山肌は黄と緑に染まっていた。

白根山の火口を覗いて見る。広い駐車場もいつの間にか観光バスで埋まっていた。山も車が入れると、歩かない客で溢れる。

志賀高原も黄葉が真っ盛り。泊まり場が見つからず、湯田中の道の駅までくだった。

次の日は雲一つない快晴。志賀高原に引き返す途中で「龍蔵の滝」を眺め、猛烈に吹き上げる温泉を見学。熊の湯のリフト下に車を停める。まだ9時前だがリフトに人の姿が見える。きょうは志賀山だ。志賀山よりは山麓の四十八池のほうに人気があり、山に登る人は少ない。登山道はあまりよくないが、四十八池が望まれる。ここの湿原もすでに冬枯れていた。

丸池から野沢温泉にのびる奥志賀林道に入る。有料だった林道も今は開放され自由に通行できる。スキー場を過ぎると車も少なく、全山黄葉の山がこれでもかこれでもかと続く。所どころで三脚を立てるカメラマンも忙しそうだ。本当にフイルムがいくらあっても足りないだろう。信州にこんな所があるとは全く知らなかった。黄葉といえば東北の八甲田や十和田湖が有名だが、ここの黄葉も東北に劣らない。観光バスが入らず人も少なく、黄葉を楽しんで走るには最高である。

黄葉は秋山郷の分岐までで、その後も林道は野沢温泉まで延々と続く。それにしても約50㎞の林道は長かった。

野沢温泉はスキー場で有名で、見上げる山の斜面には縦横にリフトが走っている。しかし温泉街の人は、ここはリフト代が高いので客が少なくなってきているとも話していた。

温泉街には数ヶ所の外湯があり自由に入れる。湯は透明で熱い。無料の駐車場で泊まり、無料の外湯を何ヶ所か巡る。もちろん朝湯にも入って十分に温泉の雰囲気を楽しませてもらった。しかし、こんな客（客とは呼べないかも）では地元には歓迎されないだろう。

JR妙高高原駅前の観光案内所でパンフを買い、燕温泉に向かう。関・燕の温泉は、若かりし頃スキーに通った所で、登山の折にも何回か訪れている。燕温泉の奥に日本百名滝の「惣滝」があり、観光客が大勢訪れる。ここの渓谷も今紅葉黄葉の真っ盛りで、スケッチする人の姿も見かける。25分程遊歩道をたどると、まずは立派な滝が現れる。その遊歩道の途中から分岐する谷川に「河原の湯」の表示があり、大きな岩壁を廻り込むと、白濁した露天風呂が現れた。簡単な脱衣場があり、人の姿も無かったので、妻と2人でしばし露天風呂を楽しんだ。燕温

松本城

泉には登山客に親しまれている「黄金の湯」という露天風呂があるが、この河原湯は知らなかった。

池の平の「いもり池」は周辺一番の見所、池には数十羽のカルガモが泳いでいて、妙高山が浮かぶ。ここでもスケッチする人、三脚を立てる人。秋本番の美しさだが、惜しむらくは人が多い。

戸隠山の登山口戸隠奥社の駐車場に車を停める。登山者や観光客の車が多く停まっているが、この奥社は簡単にはお参りできない。何しろ神社まで2㎞近くを歩くことになる。往復4㎞では時間もかかるし、ハイヒールでは辛いだろう。戸隠山の登山口に登山道の険しい岩場の写真が貼られている。初心の登山客はこれを見て緊張することだろう。駐車場背後のダケカンバの林越しに、戸隠連峰の鋭い岩峰が夕陽に輝いていた。

白馬に向かって鬼無里越の道に入る。戸隠西峰が荒々しい姿を朝日に晒している。いったいこの山はどこを登るのだろうか。鬼無里には水芭蕉の名所「奥裏花公園」があるが、今はシーズンオフなので割愛する。

峠のトンネルを抜けると、白馬連峰が巨大な迫力で圧倒する。山にはまだ雪は無いが、雪が降ればもっとすばらしいだろう。

白馬村にくだり、一番の見所の「大出の吊り橋」に行く。吊り橋を俯瞰にした山は絵に描いたよう。かなりの人が画台を並べていた。

大町の「山岳博物館」でヒマラヤ登頂時の装備などを見学する。「付属動物園」のカモシカやフクロウも可愛いかった。大町周辺には幾つもの美術館・博物館がある。私を山に惹きつけた写真家の「田淵行男館」で写真を見ていると昔の感動が蘇る。私の最初の白馬岳登山が、すでに半世紀前とはわれながら恐しい。その他にも彫刻の「碌山美術館」、漫画の「夢永一朗館」等々。もちろん温泉でもつくろぐ。大町は山岳以外にも楽しめる所が多くある。

安曇野のリンゴ畑を走る。もう真っ紅に色づき、摘果したのかたくさんのリンゴが落ちて散らばっている。妻は歓声を上げてそれを拾おうとする。私はリンゴ畑に無断で入れば泥棒と思われると引き止める。暫して女は心臓が強く、男は気が弱い。

松本城に近づくと銃音が響く。きょうはお祭りで、お城で火縄銃の演技が行われていると言う。急いでお城に向かうと、鎧兜に火縄銃を持った人たちがいろいろの撃ち方を見せる。その発射音は凄まじい。わけても大筒といわれる銃は、爆弾の破裂音に近かった。天守閣も人の行列。全くお祭りを知らずに来たのだが、見学できて幸運であった。

明日は上高地に行くので、安曇野の道の駅を目指す。ラジオは、上高地方面は下山して来る車が列をなして大渋滞と報じている。明日が心配だ。

上高地はマイカー規制され、沢渡でバスに乗り換える。駐車料は一日500円。バスは往復1800円で15分毎に発車する。国道は平湯温泉の分岐の釜トンネル口から規制され、バス・タクシー以外は通れない。「大正池を見る人は先に下車し、帰りは上高地で乗ってください。帰りの大正池は満員で乗れません」と言われ、大正池で下車する。池の枯木は面影もないが、池に写る焼岳の姿に変わりはなかった。「ウエストン像」は大方の観光客は見向きもせず通り過ぎる。河童橋の人込みはご承知の通り。明神池では、池畔に行くのに金250円。たくさんのイワナが遊泳している。上高地一帯は禁魚区なのに、傍の嘉門次小屋でイワナの塩焼きが名物なのも、何か変な感じだ。

上高地のバス停は長蛇の列。予想して早目に並んだのに1時間半程も待たされた。「駐車場が狭く入れない観光バスが車道に並び、シャトルバスも通行できないほどで、それでもきょうは平日で通行量は少ない。きのうの休日は大変だった」と係員が話す。帰途、車道に並ぶバスを数えてみたら50台を超えていた。こうなればバスも規制の必要があろう。昔は登山客の姿しかなかったのに、これも時代というものか。

乗鞍高原の大湯の駐車場に車を停める。下の沢に無料の良い湯があると聞いて行ってみる。きれいな男女別の浴室が建っていた。4～5人くらいの浴槽にぬるめの白い湯が満れている。屋根はあるが壁は開放で、のんびりと浸っていると本当の温泉の良さを実感した。表示が全く無く、地元の人しか知らないようだ。観光客に知られたら大湯温泉は上がったりになるだろう。

乗鞍スカイラインもマイカー規制され、乗鞍岳へはバスでしか行けない。下から見上げる乗鞍岳に雪は無いが、道路が凍結していて山頂の畳平までは行けず、肩の小屋下までとのこと。

マイカーは「三本滝」の入口まで入れた。ここも百名滝で、遊歩道を20分ばかり歩くと、三筋に流れ落ちる滝が見られる。少し下の「善五郎滝」は乗鞍高原のポスターに利用されている滝で、背後の乗鞍岳に雪が無いのが寂しい。雪は11月を待たねばならない。

安房峠トンネルを抜け、平湯温泉から栃尾温泉に出る。河原の露天風呂「神の湯」は男女別に整備され、少し離れた駐車場には十数台の車が停まっていた。入ってみたかったが雨が降り出したので諦めた。

上宝村・神岡町と走り、白川郷を目指す。国道360号は細い林道で大型車は通行不能。天生峠から朝陽山に登ろうと思っていたが、この雨では断念のほかない。峠から白川村に下る周辺も黄葉の波に埋まる。雨でもこの景観、すばらしい山々である。

翌日、白山スーパー林道に入る。雨は上がったが霧が立ち込めている。3150円の通行料は高いが、霧の晴れ間から見える景色はすばらしかった。三方岩岳の駐車場に着く頃には晴れ間も覗いてきた。三方岩岳は40分程の登りで、まだ雪が多かったが、天生峠あたりの山々が浮かんでいた。

「ふくべの滝」「姥ヶ滝」と見ながら石川県側にくだり、中宮温泉のゲート出口でひと息入れると、後は一路大阪を目指した。

（平成15年10月歩く）

新ハイ例会・自然観察山行

乗鞍連峰

鷲見守康

北アルプス

乗鞍連峰は北アルプスの南端に位置し、いつくものピークをもつ大山塊である。3000㍍を超える標高でありながら、頂上部の畳平まで車で行けるとあって観光地化しており、登山の対象としての魅力はないと考えている人は多いかもしれない。

しかし、山麓からの登山は標高差も大きく距離も長い。自然景観も多彩で、乗鞍連峰の奥深さを味わうことができる。ルートは数ヶ所知られているが、今回はそのうちの野麦ルートを登り、乗鞍高原に下山した。

「女工哀史」で世に知られる野麦峠には宿泊と食事処の「お助け小屋」があり、早朝の食事を依頼しておいた。

お助け小屋の歴史は古く、江戸時代の天保十二年に創設されている。当時、野麦街道は「鰊街道」とも呼ばれ、富山湾で獲れた鰊を飛騨高山のボッカが冬でも信州に運んだそうで、積雪期の通行は困難をきわめ、命を落とすこともあったという。そんな事情で、お助け小屋は避難小屋として設けられたのだ。

朝食後、5時40分に出発。高根村の方へ下り「野麦の館」でバスを降りた。早速、館から地元のAさんに電話した。

下調べ段階で野麦集落内の登山口がわかりにくく、役場に電話で問い合わせたのだが、説明に苦慮したのか野麦の館を紹介してくれた。ところが、電話に出た館のAさんも「電話では説明できません。当日館に寄っていただけませんか」と言う。けれど、早朝6時という私たちの予定時刻を告げると困った様子なので、「ともかく説明してください。登山口の標識などありませんか」と聞いても、「標識など絶対にわからない」と言うの

肩の小屋から仰ぐ剣ヶ峰

だ。結局、Aさんはこちらを見捨てるわけにもいかず、館に着いたらAさん宅に直接電話することとなった次第である。

しばらくして、犬の散歩をかねた男性が現れた。Aさんのご主人だった。手土産を渡し丁重にあいさつをし、登山口を案内してもらう。

登山口は集落内の畑の畦道のようなものだった。一つ古びた木片が立っているのだが、標識などとはとうてい思えない。なるほど、これでは初めての登山者にはわかるはずがない。仮に推量して歩き出しても、標識はほとんどなく枝道も多いので、不安でならないだろう。

畑の中からカラマツ林に入り、つづら折れに登って尾根中間の台地に着く。そこから尾根の左側を巻くように進むと、林道終点跡の広場に出た。前方に剣ヶ峰・屏風岩・大日岳と思われるピークを望んだ。ルートは林道から右手に登って行くのだが、ここでやっと標識を見た。

野麦の森尾根は、シラカバの点在する牧歌的な所で、実に雰囲気がいい。快適な歩きと言いたいところだが、道沿いのササの葉が水滴をたっぷり含んでいるため、先頭の私のズボンはどんどん濡れていく。雨具のズボンを着用すればいいものの、雨具がいたって嫌いな私はそのまま進み、ついにズボンはずぶ濡れとなってしまった。

季節は晩秋、キク科・キキョウ科・リンドウ科の花が咲いている。春から夏の野麦の森尾根はどんなだろう。きっと華やかにちがいない。途中、ボッカと一緒、背丈の高い黄花があった。名前を尋ねられるけれども答えられない。初見の花であった。キク科のオグルマの仲間なのだろうがわからないのだ。帰宅後調べてみたら「カセンソウ」のようだった。

やがて、標高1700㍍を超えると、オオシラビソ・ウラジロモミ・コメツガの林立する亜高山針葉樹林となり、岳沢を渡る。対岸の尾根に移って急斜面を登ると、まもなく視界が開け岳谷本沢だ。水に鉄分が含まれているため岩全体が赤くなっているが、見応えのある滑滝が幾筋も流れ、平地ならいっぱしの観光地になりそうだ。大休止をとって周囲を見渡すと、御嶽・恵那山・中ア・南アが展望できた。

ここまで比較的歩きやすいコースだったせいか、1700㍍という高度差をあまり感じなかったが、やはり疲労は蓄積していた。バテ気味のメンバーとこむら返りを起こした人が遅れがちになった。

さらに進むと沢は次第に広がり、焼石原に出た。真ん中に小川が流れ、高山植物に彩られた地形は印象的な景観だ。ガイドブックに黒部五郎のカールを連想させると紹介されているが、まさにその通りだ。

水が潤れ、岩が大きくなってルートがとりにくくなってくると、標識は尾根へと導き、高天ヶ原へ登る。このあたりはコマクサの群落で有名だ。なるほど残雪のような株があちこちに見られる。花の季節はどんなにか見事だろうと思う。

コースはクライマックス、剣ヶ峰への最後の登りだ。だが、高天ヶ原から見上げた剣ヶ峰は呆然とするほど高く、疲れが一気に出て、登高意欲もペシャンコになりそうだった。溶岩の斜面は一歩踏み出しても、二歩ずり落ちそうでかなり辛い。けれど、登るしかない。めいめい少しでも歩きやすい地面を探しながら、細かく足を運ぶ。

登り出してまもなく、私の下半身に電撃のような痛みが走った。脚がつったのだ。痛みはふくらはぎから太もも内側へ上がり、やがて脇腹まで上がってほぼ全身になった。身動きができない。仕方なく、大半のメンバーには先へ進んでもらい、私は休みながら、四ん這いのような有様で少しずつ登った。

13時40分、剣ヶ峰に立った。遅れていたメンバーも14時すぎには到着した。天候は晴れなのに上空に寒気が流入してガスが巻き、見晴らしはきかない。頂上で遅い昼食をとりながら、私はひとり感慨にひたっていた。

乗鞍連峰は、家族全員で登った唯一の3000㍍峰であり、娘たちがまだ小学生だったその当時のことを思い出す。

7月末のその日、畳平から肩の小屋まで、機嫌よくおしゃべりもはずんで歩いてきた2人の娘は、溶岩礫で歩きにくい斜面になるや次第に不満を洩らすようになり、前方にそびえる剣ヶ峰の高さと威容にたじろいでしまったのか、とうとう足も止まって、うつ向いたまま動こうとしなくなった。へたに叱咤激励してもいい結果が出ないことは御嶽登山で経験済み。先に進みながら「登頂をあきらめるしかないかな……」と、振り返って様子を見ていた。

ところが、娘たちはいつの間にか大きな集団に追いつき、その輪に包まれていた。集団は中学生くらいの若者たちだが、その様子からすると知的障害の子供たちのようだった。養護学校か福祉施設の集団登山らしく、子供たちにまじって教師と思われる顔も見えた。

紅葉の位ヶ原

大きな声で自らを奮い立たせようとする子がいるかと思えば、泣き声を上げて坐り込んでしまう子もいて、集団の輪のなかはとてもにぎやかなのだ。泣きながら坐り込んでいる子には同級生たちが懸命に励ましの声をかけ、手を引き尻を押す。それらのやりとりはどこかユーモラスな感じなのだが、その様子を娘たちはまじろぎもせず見つめていた。そして突然、中学生たちといっしょに歩き出し、やがて剣ヶ峰に登頂してしまったのだった。よく晴れ上がった日で、剣ヶ峰からの展望はまさに絶景だった。

翌日は、畳平のJR乗鞍山荘を7時に出発。乗鞍山荘はきれいな風呂もあり、山小屋とは思えぬ快適さだった。

いったん、きのうのコースを肩の小屋まで戻り、肩の小屋からくだった。エコーラインに出合ったら、車道をもう少しくだり、ガードレールに印がある所から谷川に沿う。この下りコースはとても気持ちがいい。振り返れば、剣ヶ峰が青空を背にして輝くようにそびえていた。

やがて、コース一番のビューポイント、位ヶ原に至る。カメラマンが多い所で、乗鞍の紅葉の見所ともいえる。

乗鞍高原への道は、県道エコーラインに寸断され、2002年までは車の往来に悩まされたが、マイカー乗り入れ禁止となったこの年からは実に爽快だった。

位ヶ原を抜け、乗鞍連峰の森ともいえる垂高山針葉樹林の鳥居尾根を軽快に歩いて、11時過ぎ、乗鞍高原の三本滝に降りた。（平成15年9月26日～28日歩く）

《参考タイム》

〈26日　晴れ〉（集合）JR岐阜駅23・00（バス）

〈27日　晴れ〉（バス）野麦峠お助け小屋3・15（朝食休憩）5・40（バス）野麦の館6・00～15―林道終点広場7・00～05―匠谷徒渉点9・30―岳谷本沢滑滝10・35～50―剣ヶ峰13・40（昼食）14・35―肩ノ小屋15・10～25―JR乗鞍山荘16・00（泊）

〈28日　晴れ〉乗鞍山荘7・00―肩ノ小屋7・30～40―位ヶ原8・45～9・00―三本滝11・10～35（バス）ジョイフルほうの木12・45（入浴・昼食）14・05（バス）岐阜駅17・10（解散）

《地図》昭文社＝「乗鞍高原」

オリジナルザック
登山用品専門店
山と山道具のアドバイザー
神戸ザック
http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac
中型ザック紹介
◆ワイルドミュウ◆
山小屋2～3泊。シンプルで、フロントポケット、雨蓋にも耐えるようにシングルプレートフレームを内蔵し、アクティブな山行に最適。立体裁断で身体にフィット。
＊カラー　レッド×モノクロ
ネイビー×モノクロ
マゼンダ×モノクロ
ミント×モノクロ
＊容量　40ℓ
＊重量　1800g
＊素材　高密度ナイロン
＊価格　¥16,000
イモックと呼んでください
IMOCK.
KOBE
イモック山道行くらぶ
春夏秋冬、シーズンを気にせず登山、低山、名山を訪ねます。
詳細はお問合わせ下さい。
〒653-0039 神戸市長田区日吉町3丁目1番30号
カナゾノビル2F
TEL(078)621-5851
FAX(078)621-3528
営業時間/10:30～20:30　定休日/日曜日・不定休

猿年に「猿の山」

天生峠から猿ヶ馬場山へ

山田明男

飛騨

猿年の正月3日は愛知県の「猿投山」（1等三角点）へ登ったが、岐阜県の猿の山といえば「猿ヶ馬場山」で300名山になっている。一昨年籾糠山へ登って初めて猿ヶ馬場山の姿を眺め、ぜひ行きたくなった。

この山には登山道が無く、籾糠山から行くにしてもやぶがきついと聞いていた。残雪期に白川村側から歩かれているが、テント持参で1泊が普通だ。私は寒さに弱く、体力的にもテントを担ぐより、やぶには慣れているので、身軽に1日で往復できる無積雪期に歩こうと思っていた。

猿年こそはぜひチャレンジしようと、6月5日に籾糠山から入ってみた。われわれ夫婦2人だけでと思っていたが、同行者が増えて6人で歩くことになった。

天生峠には飛騨市側から9時過ぎに着いた。白川村方面へは国道が工事通行止めで、今夜の泊まりは白川村平瀬なので、清見インターから荘川村経由で行かざるを得なかった。

昨秋から天生湿原・籾糠山には入山料が必要になり500円を払った。歩き始めてすぐ追いついてきた3人は新ハイの仲間で、よく見知ったYさんとS夫妻だった。

季節は昨年よりも二週は早く蕗み、ヒメイチゲは無く、ミズバショウの白い花も少なくなっていた。入口で入山料を払った時に貰った案内書によれば、尾根コースもありそうだ。Yさんも初めて登ると言われたのでいっしょに尾根道を行ったが、谷道よりもきつかった感じだった。それでも私たちは籾糠山山頂へは2時間少々で到着し、11時30分には猿ヶ馬場山へ向けて歩き出せたが、Yさんら3人は籾糠山山頂手前で遅れた。

猿ヶ馬場山山頂

猿ヶ馬場山途中までは道があるが、その先はひどいやぶだと聞いていた。しかし夏場でも入る人が多くなったようで、踏み跡はほぼ猿ヶ馬場山まで付いていたし、単独の男性2人とも出会った。

12時近くになって、食事をどこでとろうかと思案したが、なるべく先まで歩きたいとの声が強く、猿ヶ馬場山へのちょうど半分の地点の尾根の鞍部でとって、すぐに出発した。

猿ヶ馬場山は籾糠山から西方に見えていても谷が深く、最初はいったんくだって谷から行こうと思っていたが、長くはなったものの尾根伝いを行って正解だった。

天生峠・籾糠山・猿ヶ馬場山付近略図

いったん南へ尾根伝いに歩いて、1818㍍のピーク（「もしもしジャンクション」と札に書いてある）の下から北に歩けば、P1の表示がある猿ヶ馬場山・南峠1850㍍に到着した。同行のBさんは疲れたようでここで待たれた。

13時33分に猿ヶ馬場山山頂（最高点1875㍍）に到着し、記念写真を撮った。

三角点はたぶんP2と表示された北峰にあるはずだが、最高点からさらに500㍍は離れている感じなので、今回は探すのを諦めた。残雪期に来た人は三角点は雪の下で見られていないので、次回には探してみたいと思う。最高点東の見晴らしの良い所から籾糠山がすぐ近くに見え、昔で叫ぶが声が届いたであろうか？　籾糠山山頂には数人の姿が見られた。

P1に戻って休憩し、6人そろって13時55分に出発した。一部でまだ雪が残り、カミさんは行きも帰りも同じ場所で滑って（遊んで？）いた。

籾糠山からの下りは少しきつく、登り返したくないとの声があったので、籾糠山をトラバースして、谷の源頭からくだって行った。谷にはけっこう雪が残っていて、トンネル状の所もあって危ないので、尾根に戻ったり谷を歩いたりして最終的には谷から尾根への上り口の所へ出て、後は登山道をくだった。

天生峠には16時50分に帰着、猿ヶ馬場山から3時間かからずに戻れた。

朝と同じ道を走って荘川村に戻って食事をし、平瀬の温泉へ向かった。他の4人は平瀬湿泉橋の民宿に案内し、私達夫婦は白川の道の駅に移動して寝た。

猿ヶ馬場山は残雪の時に行く山ではなくなった。籾糠山を経由して行けばわずかなやぶ漕ぎで山頂に到達できる。鈴鹿のやぶ山を歩ける人なら、十分に春から秋まで行ける山になっていた。

（平成16年6月5日歩く）

△コースタイム▽

天生峠（2時間）籾糠山（1時間50分）猿ヶ馬場山P1（20分）猿ヶ馬場山最高点（20分）猿ヶ馬場山P1（3時間）天生峠

△地形図▽2万5千＝平瀬

『万葉集』歌枕紀行

竜門ヶ岳

吉野

木村太郎

大和国の飛鳥と吉野とを隔てる竜門山地、その最高峰の竜門ヶ岳を踏むことはかねてよりの念願だった。名所の竜門滝には、三十六歌仙の伊勢や俳聖芭蕉なども訪れており、古典の歌枕の地として興味をひかれてきたわけである。

津風呂湖北口から竜門ヶ岳へ登り、当初は大峠から不動滝、または竜在峠から多武峰へのコースを考えていた。奈良交通バスに問い合わせたところ、竜門ヶ岳登山口の山口を通る近鉄大和上市駅から笛吹行きバスが廃止されていた。

登山口へのバスが無くなったので、桜井側へ足をのばすことをあきらめる。マイカー登山に切り換え、山口神社から竜門ヶ岳へ登り、往路を引き返すことにした。

南阪奈道から大和高田バイパスに乗り継ぎ橿原へ廻る。藤原京跡を抜けて県道15号を走り、飛鳥路のドライブを楽しみ登山口を目指す。

途中通過する稲淵から栢森あたりは、明日香川源流に近く、川岸に緑が迫った山間に清流の波立つ風景が美しい。万葉集では、明日香川は最も多く詠まれており、明日香川は飛鳥人の心の故郷として流れを絶やさないでいる。

飛鳥川瀬々の玉藻のうちなびき
心は妹に寄りにけるかも
（巻十二〜三二六七）

多武峰を始め、高取山地や竜門山地に降りきた天水も、神々の采配を頒う勧請縄の下に集まり、明日香川の清流になるのだろう。切り通しになった芋峠を越えると吉野郡に入る。芋峠はその昔「疱瘡峠」ともよばれ、都へ疫病が及ばないようにとの祈りが捧げられ、峠名になったという。

式内大社で大山祇命をまつる吉野山口神社の境内に車を置く。農道を抜けて沢

竜門ヶ岳の小祠

沿いの林道をたどり、菅生寺への分岐を過ぎる。山辺にはノアザミ、沢辺には白いシャガの花が季節を演出している。吉野川辺で若き女が衣を洗う姿を見たために、飛んでいた空から落ちてしまう、伝説の久米仙人が修行した竜門滝へは、林道から階段の小道をくだる。

菅公菅原道真や関白藤原道長らの殿上人も参詣した竜門寺は、三段からなる竜門滝を中心に隆盛を誇っていた。今では滝上の広場に礎石を少し残すだけで、大寺の面影は失せている。伝説華やかな女流歌人の伊勢が、竜門滝を訪れた時代は、浄土変相の荘厳なる大寺院の伽藍に迫えられたはずである。

裁ち縫はぬ衣きし人もなきものを
なに山姫の布さらすらん
（古今集巻十七〜九二八）

藤原仲平との初恋に破れた伊勢が、大和守となった父の元に身を寄せ、大和の寺めぐりを続けていた頃の歌である。縫目のない衣を着るという仙人もいないのに、なぜか山姫は滝の水で布をつくりあげていると、竜門寺の仙人についての古伝をもとに、女性らしい歌いぶりで竜門滝の飛瀑を詠んでいる。大和の寺へ救いを求めた伊勢の悩みを、竜門滝は聞き届けたのであろうか。

走り梅雨のためか、滝壺も激を大きくしていた。植林帯の暗い林道が本格的な山道に変わっても、いつ降り出してもおかしくない曇天のせいで暗いことには変わりはない。沢音が急に激しくなり、新たな山滝を見つけたと思ったが、よく見ると左手の堰堤が水流を落としていた。

堰堤直下に丸太を組んだ木橋が渡してあり、一瞬堰堤の巻き道かと錯覚してしまいそうだったが、対岸の道は山腹を捲いて逆方向にのびていた。左岸沿いの山道を突き進み、山靴を濡らして徒渉し、右岸に渡って渓流から離れると山道の傾斜が増した。

樹林帯から抜け出し、植林が大規模に伐採された場所に出る。伐採跡に植えられた幼木を守るネットが張り巡らされている。ビルの吹き抜けから空が覗けるように、暗闇から解放された雰囲気で頭上に大空が広がる。

ネット沿いに登山道を進んで行くと道標があり、山口から3㌔、竜門岳まで1㌔を切った地点であった。振り返ると吉野方面の山々が曇天に浮かんでいた。大峰山脈は影絵ほどにも定かには見えなかった。最も手前の小高い妹山だけが唯一はっきりと緑の姿を見せていた。

景観に慰められたのも束の間、ネットが無くなるとまた暗い樹林の道になってしまう。加えて駒近くまでのびたササが道を歩きにくくさせる。あきらめに似た気持ちで急坂に付き合って歩いていたが、

やがて山道のほうが気の毒がったらしく水平道をくれた。再度道が急傾斜に転じた後に古い社が見え、竜門ヶ岳（904㍍）の頂上に飛び出した。

山頂の社は、山口神社に遥座した高鉾神社の元宮らしい。春日造檜皮葺の山口神社本殿とは比べようもない小さく質素な造りだが、古色蒼然としたなかに厳かな雰囲気が漂っている。いまでも地元の人たちは竜門ヶ岳への岳参りをしているのか、記念の植樹をして連名の登頂札を奉納している。名札を読むと、山口と西谷村落の人たちであった。

1等三角点に触れてから、三津峠の方に向かって少しくだり、見晴らしのよい北面の伐採地へ足を運ぶ。関電の無線反射板の立つ切り開かれた広場からは、西に吉野の山々、北に音羽山塊など、山頂で得られなかった眺めがあった。あいにくの曇り空だったが、鉄塔そばの草原に腰を下ろし、立ち去りがたい気持ちでひと息つけた。

大峰や竜在峠の方へ足を向けたいが、不完全燃焼気味に竜門ヶ岳へ引き返す。山頂から山口方向へ、苦労して登った道をどんどんくだる。登りに通った堰堤のある場所までくだって来た時に、天の邪鬼な好奇心が胸を占有してしまう。まだ時間が早く、このままっすぐに車を置いた山口神社に帰るのは惜しい気がしてきた。

山口の人たちは竜門滝の道で岳参りをしているが、堰堤の下に架けられた丸木橋を渡った先には、西谷の人たちの岳参りの道があるように思えた。丸木橋を渡って、チープを目当てに九十九折りに山腹を捲いて登り始める。尾根に登り切ると反対側に道はない。西へくだる道があると決めてかかっていたのだが、山道は尾根通しに北へ続いている。

チープに導かれて歩いて行くが、これはどうやら竜門ヶ岳への尾根道のようである。地形図では西南にくだる道が記されているので、左手を気にしながら歩いていくと細い道が見つかった。もう一度竜門ヶ岳へ登る意欲や、そこから桜井側へ廻る気力はない。西谷への下山路がわからなければ、堰堤まで戻るつもりでいたが、少し安堵してその細い道をくだることにした。

細い道端には道が崩れないよう丸太が

新刊

近江 湖西の山を歩く

草川 啓三著　A5判並製　一九九五円

若狭へとつづくいくつもの峠道、壮快な気分で歩ける高原状の山、巨木の残る山深い山、山スキーの出来る山稜など、関西の奥座敷的な山域を美しいカラー写真とエッセイで紹介する。

好評発売中

新刊

おれ にんげんたち

——アルスー・ウザラーはどこに——

岡本武司著　四六判上製　一八九〇円

黒澤 明も感動したウスリーのタイガに、探検家アルセニエフの足跡をたどり、先住民アルスーとの友情、自然と人間の関わりを豊富な資料で探究する。

★表示の価格は5%税込です

ナカニシヤ出版

http://www.nakanishiya.co.jp/

京都市左京区吉田二本松町2

☎075-751-1211　〒606-8316

埋められてあり、地元の人たちが守り抜いてきた山道のようだ。尾根を離れると沢沿いの道になり、小さな細い流れが西谷であると確信でき、足どりが軽くなる。道標もテープも何もない沢道だが、渓流の小橋や岩場の桟橋は、真新しい番線で補修してあった。

西谷の渓流は美しく目に鮮しい。沢地の草むらから小鳥が飛び出し空へ逃げていった。私自身も驚いたが、自然と睦んでいた小鳥も、突然闖入してきた人間にびっくりしたのだろう。西谷の清流が西谷川となり、棚田を潤して余った水は吉野川に注ぐ。その昔、吉野川に寄せた大宮人のあこがれが離宮を築かせ、たびたびの吉野への御幸をさせてきた。

神代より吉野の宮にあり通い
高知らせるは山川を良み
（巻六～一〇〇六）

聖武天皇の詔命に応えて山部赤人が詠んだ歌である。神代の昔から吉野の宮にたびたび通って、高々と宮殿を造ってこられたのは、山川が良いからでございますと、み吉野への礼讃が歌われている。

大和には鳴きてか来らむ呼子鳥
象の中山呼びぞ越ゆなる
（巻一～七〇）

持統天皇が吉野宮へ御幸時に、高市黒人の詠んだ歌である。万葉学者の堀内民一氏によれば、「象の中山」とは芋峠であると自説を述べている。吉野離宮から大和へ鳴いて越えゆくホトトギスという歌の内容から考えて、吉野と飛鳥を隔てている芋峠を象の中山と見ることに違和感はないだろう。

象の中山を芋峠と仮定するならば、万葉集に詠まれている「象の小川」は、いま歩く西谷川であるかも知れないし、竜門川かも知れないという仮説も成り立つ。ただ私自身は、吉野と大和の間に横たわる竜門ヶ岳の上を、呼子鳥が啼えていく風景が見えてくるのである。

西谷の細い流れがだんだんに水量を増していき、小暗い沢道が明るさに包まれてくる。多武峰から廻路トンネルを抜けて吉野へくだる国道の西谷川の小峠大橋に出たのだった。国道をくだり、「右よしの　左ひらお」の石標がある判次川原橋で村道に曲がり、山口神社へ帰り着いた。

帰路、車で津風呂湖畔に廻り、行宮があった宮滝方向から竜門ヶ岳を眺めてみた。どうにか雨に遭わずに下山できたが、湖面の向こうに竜門ヶ岳は幻想的なたたずまいを見せている。高市黒人が呼子鳥を目で追いかけた、大和飛鳥の空は憂いに沈んでいた。

（平成16年5月18日歩く）

津風呂湖より竜門ヶ岳を望む

△コースタイム▽

吉野山口神社（25分）竜門滝・竜門寺跡（35分）堰堤（55分）竜門ヶ岳（10分）電波反射板塔（15分）竜門ヶ岳（30分）堰堤（50分）小峠大橋（20分）村道分岐（30分）吉野山口神社

△地形図▽2万5千＝新子・古市場

標高による山の紹介シリーズ18

松田敏男

新ハイ関西78号

標高△△78mの山

猫又山（2378メートル 北アルプス）
赤沢岳（2678メートル 北アルプス）
乳頭山（1478メートル 東北）
馬ノ鞍峰（1178メートル 台高山脈）

猫又山

猫又山は鍋岳の北方の毛勝三山の一山である。最近は無雪期でも登れるようになりつつあると聞くが、以前は残雪期でないとなかなか登りにくい山だった。それもしっかりとしたリーダーがいなくては近寄り難い山だった。私は山の会の大山さんと石崎さんに連れていってもらったから登れたという山だ。

5月の連休に馬場島よりブナグラ谷の雪渓を登った。広い雪渓で非常に開放的な気分を味わった。雪解けが早いと下の方では雪が切れてしまって厳しかったと思うが、その年は難なくブナグラ峠に着き、テントを張った。鹿島槍ヶ岳をはじめとした後立山連峰が夕日に染まって美しい眺めのテント場だった。

しかし、峠からすぐに始まる猫又山への取り付きはかなりの急斜面で、下山はこの斜面をくだるのかと思うと、気が重かった。

猫又山はいちばん手前の山で、その奥の釜谷山から毛勝山への稜線は楽に行けた。山頂の感慨もそこそこに往路を引き返し、問題の急斜面の上に出た。アイゼンは一回で強く蹴り込むだけのほうが安定がいいはずなのだが、不安が先行すると、思わず二度三度と蹴り込んでしまう。恐怖でどうしても腰が引けてしまい、不安定なのはわかっていても、頭で描くように体が反応できなかった。

2人のサポートのおかげで無事テント場に戻った時は、単独山行では味わえない充足感に満たされた。

（平成元年5月3日～4日歩く）

≪コースタイム≫
馬場島（5時間）ブナグラ峠（往復9時間15分）猫又山経由毛勝山

≪地形図≫2万5千＝毛勝山・鍋岳

赤沢岳

北アルプスの爺ヶ岳と針ノ木岳とを結ぶ主稜線には有名な山がなく、登山者がやや少な目である。しかし鍋岳を望むにはすばらしい山域なので、鍋岳の絵を描くことも目的のひとつとして入山した。

鍋岳から別山、そして立山へと続く東面の姿は岩と雪のコントラストが実に美しく、快晴続きで夏山山行が思う存分堪能できた。爺ヶ岳より南西方向へ岩小屋沢岳、鳴沢岳と越えて赤沢岳に着くと、立山が最も近くなって、とても大きかった。立山は鍋岳のような特徴のある姿で

赤沢岳より立山（左）・別山（中央）・鍋岳（右）

はないが、残雪が豊富で実に堂々としていた。

（平成12年7月31日～8月1日歩く）

≪コースタイム≫
種池山荘テント場（3時間）新越山荘（2時間30分）赤沢岳（3時間30分）針ノ木小屋テント場

≪地図≫昭文社＝「鹿島槍・五竜岳」

乳頭山

大学生の時に同級生たちと登って以来、29年ぶりに登った。初めての乳頭山は孫六温泉より雨と霧のなかを登って滝ノ上湿原へ抜けただけで、湿原のなかを通ったという印象しか残っていない。

今回は天気もよく、秋田駒ヶ岳からの稜線上にいくつも現れる湿原の美しさを楽しみながらの山行だった。

乳頭山から北西へ30分ほどくだった所の田代岱山荘は、水場へ15分ほどもロープを伝ったりしてくだらないといけない不便さはあったが、小屋に泊まることによって、田代平湿原を早朝と夕刻の最も美しく輝く時にゆっくり探勝できたのが印象深かった。

（平成13年8月5日歩く）

≪コースタイム≫
秋田駒ヶ岳八合目小屋（8時間）千沼ヶ原、乳頭山経由、田代岱山荘

≪地図≫昭文社＝「八幡平・岩手山・秋田駒」

馬ノ鞍峰

山の会のメンバー5人で馬ノ鞍峰から北へ明神平まで縦走した。三之公川明神谷に懸かる明神滝は豪快な滝で一見の価値があるが、そのあたりは植林化が進んでいるので暗くて平凡な印象だった。しかし、馬ノ鞍峰山頂の手前より池木屋山までの稜線はすばらしかった。

古木が林立しているなかにアケボノツツジが少し咲き始めた風情は山深い渋い魅力が横溢していた。テント場で夜中にコノハズクが鳴き通しだったことも忘れ難い思い出だ。

（平成11年5月2日歩く）

≪コースタイム≫
三ノ公川林道明神谷出合（2時間）馬ノ鞍峰（3時間）弥次平峰手前のテント場

≪地図≫昭文社＝「大台ヶ原」

高島町側から北稜へ、古い笹峠道登行

笹峠・ヨコタニ峠・シロタ谷峠

比良

小山誠次

10月4日の滋賀県の降水確率は午前・午後共に、北部は10%、南部は0%だった。

今回の比良登山の第一目標は、かねてから笹峠と決めていた。実は前々回（8月3日）、釣瓶岳北西尾根を登行した後、笹峠を経てコメカイ道から下山したが、その時笹峠から直接高島町側に下山する道はないものかと、ふと疑問を抱いたことによる。

山と渓谷社刊『比良・朽木の山を歩く』（平成10年）には、「この稜線（筆者注：北稜）は、古来から高島町と朽木側（安曇川）との交流が盛んで、多くの峠道が発達した。現在、峠の名がつくものにボボフダ峠、植谷峠、ヨコタニ峠、地蔵峠、笹峠などがある」と記されている。

笹峠以外の峠には、それぞれ高島町側からと安曇川側からの道が、かなり難路であっても地図に記載されている。ただ、笹峠だけは安曇川からのコメカイ道が利用されるものの、高島町からの道が記載されていない。しかし、古来の歴史的事情からは存在しないはずはないのである。そこで、本日の第一目標を高島町側からの笹峠登行と決定した。

8時14分京都駅発のJR新快速に乗り、近江高島駅で下車した。8時58分発の畑行きの江若バスは2分遅れで発車し、車窓から彼岸花が満開から色褪せつつある景色を見ている間に、2分遅れで9時21分黒谷に到着した。

北稜との登行ルート出合

黒谷からは集落を抜け、八淵の滝に向かう道を約20分間歩き、「ベ林橋」の手前約30㍍で右手の分岐路をたどった。分岐点入口はススキが生い茂っているが、そこを通り過ぎると、後は車でも通行できるような古い簡易舗装路が続く。右側は頭上少々切り立った崖で、左側は「ベ林橋」の下を流れる谷川に沿った急坂を見下ろす。やがて、その谷川に架かるコンクリート製の橋を渡った所で、右手にまた分岐路があり、赤いテープが木に括りつけてある。

今回の笹峠への道順は全く手探り状態なので、その赤いテープを追跡することにした。この山道は古めかしくてしっかりしている。すぐ左手に石垣で固められた杉の棚田を見ながら、道は杉の植林のなかを確実に登っている。そのまま登ると、右側はブナ科樹木の自然林となり、やがて両側共に自然林になった。さらに

笹峠・ヨコタニ峠・シロタ谷峠
付近略図

進むと、今度は右側が杉の植林となり、そして最後には周囲全体が植林帯となって、造林公社の大きな看板の前にやってきた。手前の石柱には000との標示がある。高度計は530㍍位を指している。

実は、ここまでは9月15日に歩行済みであった。今回の計画は9月15日の再挑戦なのである。前回、まず集落の古老に笹峠のことを尋ねたが、知らないと言う。そこで、山の向こうに抜ける道という表現をしたところ、先のコンクリート製の橋の手前で右に折れると教えてもらった。しかしながら、筆者の選んできた道は橋を渡って右に曲がってきている。

さて、前回は大きな看板の前までたどり着いて、ここではたと困った。実はこの看板の左右に、ちょうど三角形の頂点から二辺を走るように、それぞれ立派な道が設けられている。そこで、二辺の内で、ここから笹峠の方向と思われる西北西に近い左の道をまず選んだ。しばらくたどると山腹のトラバース道となり、しかも片足の幅だけしかない道となったり、また普通の道に戻ったりしながらも、最終的には土城谷に出合ってそこで道が無くなってしまっている。土城谷を登行することも考えたが、歴史的古道をたどるという基準には合致しないと判断し、元来た道を引き返し、看板の前に戻った。

次にもう一つの右側の道をたどることにした。実は赤いテープはこちら側に続いている。この道は先程の道よりも安定していて歩きやすいが、やがて手越谷のユリ道となり、谷と出合ってやはり道が消失している。それでもなお、赤いテープが谷を越えて続くので、もう少したどってみたが、予想通り道は不明瞭となってしまった。しかし、そもそも笹峠への道が手越谷を越えて北側に向かうことはないと考えられたので、また元の看板の所まで戻った。どうもこの赤いテープは仕事用のものと思われた。

9月15日はこの二つの道を追求するだけで1時間余りを消費し、すでに正午を回っていたので、この日の笹峠到達を断念した。その後、自宅であれこれ考えて、次回はこの看板の所からまっすぐ西北西を目指して、目前の山を直接登行する計画を立てた。

そこで本日は、予定通りに第一は西北西方向、第二に山道という基準を設定した。即ち、山道は所どころで分岐するので、方角を重視した。

ところが、登行し始めるとすぐに古めかしくてしっかりした山道が現れ、ジグザグに西北西に向かっている。これ幸いとジグザグ道をたどりつつ、絶えず磁石を注視した。人は通っていないようで、右手のストックは蜘蛛の巣を払うのに有効であった。

登行開始後約30分でピーク702㍍に到達した。今までは植林帯の斜面をジグザグにたどるのが主であったが、ピーク702㍍からは、尾根筋をたどるようになり、傾斜もゆるやかになった。

実はここで、無粋にも仕事上のことで携帯電話が鳴った。要件を把握し、電話が聞きにくいなか、他と連絡をとるために電話をかけたりし、約15分間俗世に引き戻された。

開放されて間もなくの11時半、北稜に到着した。ここまでの印象では、地図には笹峠への道は記されていないが、それほど難路とも思えなかった。笹峠の名のわりにはクマザサは繁茂していない。

さて、到達した地点は笹峠の道標の北側か南側か、どちらなのかが問題となった。そこで、先ず南方向にちょっと行って様子をみることにしたが、むしろイクワタ峠に近づいているという印象をもったので、元の到達点に戻った。今度は北方向に歩を進めたところ、意外にも約100㍍で笹峠の道標に到着した。それ故、先の造林公社の看板からの道は、部分的に崩壊していても、おそらく昔の高島町側からの笹峠道であると確信した。

昼食は地蔵山の山頂でと決めていたので、休憩後、再び北稜を北方向に歩き始めた。この間の山道は筆者の最も嫌いな場所である。縦走路の左半分は枝打ちされない杉の密集地で、奥へはさらに鬱蒼とした暗がりが続いている。おまけに、空模様もあやしくなってきたのでなおさらである。

12時16分、地蔵山に到着した。本日の最高地点である。ただし、地蔵山西側にも鬱蒼地が続いているので、東側に寄って、岩阿沙利山や伊吹山を眺めて昼食タイムとした。しかし、空模様だけは本当に心配になってきた。

約30分間の休憩後、地蔵峠にくだり、四本の松に囲まれたお地蔵さんを拝んだ後、ヨコタニ峠を目指した。ヨコタニ峠までの縦走路はむしろ先の鬱蒼地とは逆に、ヒノキの植林帯に沿う気持ちのいい道が続く。途中、鹿によるまだ新しい樹皮の剥がされた傷痕を見つけた。古い剥皮痕はよく見かけるが、まだ濡れている新しい傷痕はあまり見たことがない。

ヨコタニ峠からの下山路は一部急坂の連続だったが、道はよく整備されているように思えた。ただし、いつものことながら林道鵜川村井線は不快である。

一昨年（平成13年）、筆者は栗原から音羽まで比良縦走路を13時間かけて歩き通したことがあったが、そのときも鵜川越で山道が寸断され、苦しい足どりが一層重くなったのを覚えている。

さて、コヨタニ峠からの山道は林道を越えて谷川に沿い、畑集落の琳明寺前まで通じている。ここでひと休みした後、寺の前で周囲の山容を見回した。琳明寺から南東の谷間はバス路線で黒谷に通じている。もう一方、南西方面にも谷間らしき最色が観察される。これが今から目指すシロタ谷峠である。

といっても、周囲に尋ねる人影も見か

けないので、琳明寺からそのままっすぐ南に道をたどり、南西方向に足を向ける道を選んでいたところ、たまたま畑仕事をしている人がいたので尋ねると、この道でいいとのことだった。それから数10㍍進むと、「ガリバー村へ至る」標識を確認した。

しかし、これからが大変だった。ここからは標識もテープも全くなく、道なりに進んでいると、かなり古びた木橋を渡り、小さな祠で祀られた石仏にお参りした後、間もなく道は不明瞭となった。どこをどう登行したのか、今となっては文章では再現し難い。

このとき、磁石を全く気にせずにいたので、そこそこ登った所で左手の開けている場所から最色を眺めると、なんと琳明寺が見えているではないか。やれやれ、左向きにカーブし過ぎてしまったかと気を取り直した。おまけに、降水確率10％による霧雨が降ってきた。

急ぐ気も加わって、これからは本腰を入れて磁石を頼りに南方向に直進することにした。今いる山は標高531㍍で、山の東斜面を通って南に向いていることになる。アップダウンを何回か繰り返した後、ふと前方20㍍を見ると、立ち止っていた鹿の親子が突如駆け出す姿を目撃した。やはりこの山域はあまり人の踏み込まない場所なのであろう。霧雨はまだ続いている。そこそこ南進した後、小さな支谷の源頭を発見した。大まかに見当をつけ、この支谷に沿って下山することとした。

しばらく沿って行くと、踏み跡らしきものを見つけた。さらに急坂をくだると、いよいよ明瞭な踏み跡となった。このあたりで支谷は充分水を貯えた流れとなり、同時に踏み跡から道らしき程度にまで格上げできるようなった。最後は立派な山道となり、間もなく最初のコンクリート製の橋に下山した。15時25分である。かなり寄り道をしたことになる。

この地点は、住路のコンクリート製の橋を渡る手前である。9月15日に集落の古老が教えてくれた「コンクリート製の橋の手前で右に折れる」のは、まさに今筆者が下山して来た道のことである。古老はシロタ谷峠への道を教えてくれたのだった。

曲がりなりにも、シロタ谷峠道の最初と最後だけは辻褄の合った峠越えだったが、どちらかと言えばおもしろかった。

霧雨はいつの間にかやんでいた。往路を戻っているとき、曇天の北の空に幅の広い虹を発見した。天使の階段とはよく言ったものである。感激してすぐカメラに収め、帰宅後ひとり悦に入っていた。

16時19分黒谷発の江若バスは、午前中と同じく2分遅れで発車した。16時46分近江高島駅発の電車で京都に戻った。

笹峠は喜色満面、ヨコタニ峠は普段顔、シロタ谷峠は苦笑いの一日だった。

（平成15年10月4日歩く）

＜コースタイム＞

黒谷バス停（19分）べ林橋手前分岐点（16分）コンクリート製の橋（24分）造林公社の看板（30分）ピーク702㍍（18分）北稜（6分）南方向へ（5分）元の地点（1分）笹峠（17分）地蔵山（1分）地蔵峠（36分）ヨコタニ峠（34分）林道出合（8分）琳明寺（10分）「ガリバー村へ至る」標識（5分）祠のある石像（26分）琳明寺を見る開けた場所（35分）コンクリート製の橋（30分）黒谷バス停

＜地図＞昭文社＝「比良山系」

ゆっくりのんびり野草観察

岩湧山の秋花巡り

田中　明

紀泉

早春の花が気になる3月下旬のことだった。一ヶ月後に行われる小出リーダーの新ハイ山行へ参加するため、ネット上で岩湧山の花情報を調べようと検索してみた。「岩湧山の花」サイトへアクセスしたところ、すぐに管理人のNさんから詳細な地図上での花の開花場所、花名等の情報が届いた。

初めてにもかかわらず、相当手の込んだ資料までが送信されてきてびっくり仰天した。同時に岩湧山を愛するすばらしい人がおられることに惚れ込んだ。そのNさんたち主催の「岩湧山の自然観察会」へ秋9月になって、ようやく参加することができた。

Nさんばかりでなく、会の代表Uさんも植物に関する造詣が深く、熱心な姿勢は半端ではなかった。また、スタッフのOさんも真面目な態度ですばらしい運営の手助けぶりがうかがえた。

活動の目的は

1　参加者の交流によって互いの自然に関する知識を豊かにする。

2　自然観察を通じて自然を愛する心を育てる。

3　その結果自然の保護や保全に向かう輪を広げる。

自然を愛することのすばらしさを身をもって体感しようと、以前から参加されている新ハイ仲間の花好きなIさんにもお願いし、河内長野市が管理運営する野外活動エリア「岩湧の森」の四季彩館に出向いた。

四季彩館にも自然を愛する親切で心やさしい自然解説員の方の出迎えが待っていた。

もっともこの山の観察会のページはUさんやNさんのサイトで春以来何度も拝見していたため、初めてのような感じはしない。雰囲気もすこぶるよく、すぐに馴染むことができたのである。

岩湧寺に咲くシュウカイドウ

目的にもあるように一人ひとりが自己紹介をして交流を深め、さらにはそれぞれが自然に対する知識を補完しつつ、五感を研ぎ澄ませて、和気あいあいと和やかな一日が進むのであった。

初秋の本日は運よくベゴニアの仲間のシュウカイドウが今は見ごろで所狭しと咲き誇り、あたり一面をピンク一色に染め上げていて何ともいえない雰囲気をかもし出している。この花は樹木花のバラ科カイドウに似ており、秋のお彼岸の頃に咲くことからシュウカイドウと伝えられているようだ。一方、「雨に濡れたる秋海棠」といい、憂いを秘めた美女に喩えて四季彩館では案内している。

前日に「読売新聞」でこの花の満開の記事が報じられていたためか、カメラを向ける人の何んと多いことか。我らも同じようにその花びらに釘付けになってしまった。

可愛いのはシュウカイドウだけではなかった。「いわわきの道」コースから登り始めると、次々と山野草の登場である。タデ科のミゾソバ・ミズヒキ・ハナタデの花もピンクや白色のグラデーションで、ルーペの世界が広がる。

またバラ科のキンミズヒキ・ヒメキンミズヒキ・ダイコンソウに、イラクサ科のヤマミズ・ムカゴイラクサ・ヤマトキホコリの一つひとつの花や葉、それに茎までも触ったりルーペを取り出して毛の状態を調べたりし、いろいろな角度からの観察が続いた。はたまた花期は峠を越したようだが、ナデシコ科で半球形の雪と反り返った白い花弁が特徴のナンバンハコベに、みんなは童心に返ってわいわいと賑やかである。

ヤマゴボウ科のヨウシュヤマゴボウ・マルミノゴボウも咲き、近畿地方では南部方面にしかお目にかかれないキク科のモミジハグマの近縁種であるテイショウソウが、細く長く五裂した線形の花弁で、薄暗い林床にカメラ泣かせでひそかに咲いている。

さらにはホトトギスも花柱の上部に斑点がつき、花被片の基部に黄色の斑紋のあるセトウチホトトギスまで見られる。また、ナス科のヤマホロシ・ヒヨドリジョウゴが咲き、ツルリンドウも咲き初めのようだ。

伊吹北尾根で見慣れているウマノミツ

バ・クサアジサイはそろそろ出番も過ぎるころのようだ。伊吹山の大群生で知られているシソ科のフジテンニンソウと違い葉裏の中肋に開出毛はなく、シベを暗紅色に染めて花外に突き出しているミカエリソウも随所に見られる。

9月といえば「秋の七草」を見たいのは人情だろう。きっちりとはいかないまでも代用も含めて、ススキ・マルバハギ（七草はヤマハギ）・オミナエシ・ヒヨドリバナ（七草はフジバカマ）・キキョウ・カワラナデシコ・クズのすべてが観察でき、897㍍の岩湧山頂上のカヤ原は秋本番といえそうだ。このように七草すべてが見られる山は今ではめずらしくなった。

頂上のススキの高原は頗なでる爽やかな風も心地よく、そのうえ北東側には大阪府下最高峰の金剛山も手にとるように眺められる。この景色はいつもネット上で見慣れたものだが、実際に目の当たりにすると、自然はやっぱり大きい！　こんな場を与えてくれた自らの健康に感謝の念でいっぱいになった。

背丈ほどにものびているススキに囲まれた登山道を歩き、ふと前を行く人のザックに下がる温度計を見ると、40度を指していた。その高温にもかかわらず花盛りに気持ちが傾いていると、へとへと感はまったくなかった。

ツリフネソウ・ツルニンジンなどだれでもが知る秋の花たちにも、あぁ今年も会えたねとひと安心でき、なぜかほっとできた。

頂上ではジンチョウゲ科の樹木、コガンピという聞いたこともない低木の花に出会えた。私の第一印象はツルアリドオシの対に咲く白色に花弁が似ているように思えたが、後日調べると葉はラセン互生でややめずらしい。同じ科のミツマタは和紙の原料として利用されるようだが、こちらは樹皮がもろく紙の原料にもならないため、犬雁皮との別名をもらっているらしい。

キク科のオヤマボクチは見慣れていたがハバヤマボクチは初見であった。残念ながら開花はもう少し時間がかかりそうだ。すらりとのびた茎の上部に大きな薄茶色のイガイガのようなこっけいな花をつけるようであり、共に鍾形の頭花でオヤマボクチとの違いは少ない。葉は三角状のほこ形で基部は横に張り出すハバヤマボクチに対し、オヤマボクチはやや三角状の卵形で基部が心形になるようである。

コオニユリも残っていたが、さらに圧巻は、ササ原のなかにシラヤマギクとオミナエシが混生して思い出に残るほど多く咲いていた感動のシーンであった。

下り道は「きゅうざかの道」と名付けられているとおりの急なザレた道を足元に注意しながらくだる。登り道でも見たテイショウソウがまたも見られた。

ママコナは伊吹北尾根で、ミヤママコナはアルプスで見ているが、東海地方から中国地方東部・四国・九州に産するといわれるシコクママコナがここ岩湧山で登場した。先生役のUさんの話に参加者は一斉にカメラを向け、花冠内部に黄色の斑点が広がり毒が有毛だとの説明にペンを走らす。また囮のふちに刺毛状の歯牙が散生するともつけ加えられた。

群生するツルシキミも青い実から赤く変わろうとしているところだ。初夏にはペアで白色の清楚な花をつけていたツルアリドオシは真っ赤な果実をいっぱい散らばせて、鳥たちに食べてもらうのを待っているかのようだ。

逢瀬がちに咲くコウヤボウキも地味だが、ルーペで観察すると面白い頭花で、筒状花の花冠は五裂し、裂片は反り返るのがよくわかる。

最後の花はキク科のショウブンソウである。ヤブタバコに似ていて雑草とも言えなくはないが、どんな草でも花として観てしまうUさんの心意気には学ぶべきことが多く、意義ある自然観察会ともなったのである。

下山後、四季彩館に集まり花合わせをしたところ、38科85種の草花が観察できたようである。低山ではあるが高山植物帯の山に負けない種類の多さに、まだまだ自然が残る岩湧山を見直さなければならないと感じたのは私だけではないだろう。

最後に各人の感想を聞きながら、自然を愛する心はいつでもどこでも一つなんだと嬉しくなったが、代表のUさんが「ともに岩湧山を愛し、自然のすばらしさを学ぶことを通じて、自然を大切にする人たちの輪を広げたいと思っています」と締められ、晴れやかな気持ちで散会となった。

私はどちらかといえば日本海側が主体の山歩きのため、観察している植物も偏りがあることにも気づいた。これからは一年を通した観察会への参加も必要であろう。できれば花々だけでなく、自然を愛する多くの人たちと出会いたいものである。

（平成15年9月7日歩く）

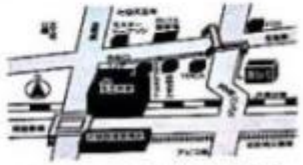
岩湧山頂上で見られるハバヤマボクチ

▲参考コースタイム▼

四季彩館9・00―いわわきの道―展望デッキ―ダイトレ合流―巻道12・30（昼食）13・00―ダイトレ合流―岩湧山―きゅうざかの道―四季彩館16・30（解散）

▲地形図▽2万5千＝岩湧山

私達におまかせ下さい。待っています！



●詳しくはホームページを見て下さいネ。

http://www.yoshimisports.co.jp/

登山用品専門店

山とスキーのヨシミ

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀4-70

TEL 06（6772）7231

JR天王寺駅北出口より東へ強歩5分

南の国の離島

硫黄島の安徳帝

多摩雪雄

鹿児島

船が硫黄島長浜港に近づくと、鉄分を含んだ温泉が海中から湧き出していて、港内は茶褐色に染まって濃紺の外海に浸透してゆく。9時35分着岸。美形の女将が出迎えていて、港すぐ前の旅館「木田」に入る。

10月初旬、無風、早朝霧、その後高層雲10、高曇、暑い。11人乗りのハイエースワゴンを借り、弁当を受け取って1時間後の10時40分出発。走行わずか7～8分。採鉱跡の広場に着くと、車止標示と堅固なゲートがあり、そこへ駐車。

舗装車道をうねり登りながら1時間後に駐車場もある小広い展望台に着く。車行すれば10分もかからないであろうが、ここは平坦な場所故にゲートの設置が不可能に近い。ここは標高320㍍地点。三角点埋設地の硫黄岳頂上は見えないが、その周辺の岩峰が手の届くごとく頭上に連なっていて、この先立入禁止の表示板が大きい。

木柵に囲まれた中央に木製の頑丈な展望台がある。暑い陽差しをよけて、その台下方の日陰で昼食後、登山隊10名が出発したのは11時50分。私とひとりの婦人が残って見送る。

私がゲート前の駐車場に戻ったのが13時10分。その5分後、トランシーバーに頂上着の通信が入る。と、間もなく4人の隊員が戻ってきて「舗装路が陥没して渡れず、山側を危うくへつって若手6人だけが向こう側に着いた」と言う。

登山隊が帰着したのは15時15分。4人が引き返した陥没地点後も亀裂・崩壊・落石等の危険箇所があり、有毒ガスの中の歩行で大変でした。とのことであった。

私が所持している資料のうち、一等三角点研究会の会報「蜂蜜14号」の坂井久光さんの記録が、その後の各氏の記事より優れているので抽出する。

硫黄岳頂上と噴煙

「硫黄島は黒島と竹島の三島の中間にあり、硫黄カルデラの中央火丘で、竹島や黒島は外輪山の一角が残存したもので、九州の四大カルデラの一つで、硫黄岳は今尚噴煙を上げる霧島火山脈の一活火山であり、港に鉄や硫黄を湧出させて黄褐色に海水を濁らせ、黄海島と昔は言ったのが鬼界ヶ島と宛字されたもので後寛治都の島流しになった島であり、寿永の昔壇の浦で二位の尼に抱かれて入水された安徳帝は身代りの平清盛七歳で、平家の大将資盛以下の一党と船でこの島に逃れ、黒木の御所に住まわれたその子孫が長浜家で、33代目の当主は南島オパール㈱の社長となり、系図も三種の神器もあり、古い墓石を見て真実性が感じられた。其処には遣唐使として長安に渡った軽之大臣の墓もあり、標示によると悪者に毒を飲まされて唖になった彼の父が指を切った血で書いた和歌によって父と知り、日本へ連れ帰る航海で難破して硫黄島に流れ着き、この地で亡くなった由。また、昭和48年ヤマハがリクリェーション施設として、ホテルに50羽の孔雀を放し飼いしたのが逃げて野生化繁殖して畑荒しするので捕えて小学校裏の畑地で飼育している。」

(註) 現在どこでも飼育していない。

「安徳帝を奉じて硫黄島に来た資盛を将とする一党は帝に忠誠を尽し、薩南各島に分れたが、毎年貢物を送り、後奄美大島、沖之永良部島やトカラ列島から沖縄にまで勢力を延ばして北山王国を作った。」(註) 昔、沖縄には北山・中山・南山の三王国が鼎立した三山時代も1430年頃南山王尚巴志により統一された。

「新ハイキング関西」12号(平成5年9・10月号)の山形歳之さんの記事もおもしろい。

「1月15日の祝日は、島では小正月の行事で厄払いのお祭りがあり、厄年の人が村人に振る舞いをする。老若男女の村人がゾロゾロと山道を歩いて硫黄岳近くの岳神社に集まってくる。神社では厄年の家族が村人に焼酎を振る舞う。村人でもない私も例外ではなく、本人が不在でも家族が行なう。5～6家族の杯を受けて酔いが廻った頃、お金が撒かれる。120人余の人々が集まり、厄年の人が先ず神社に一投してから村人の頭上にバラバラと投げる硬貨は100円、50円、10円、1円がアメ玉も混じえて降ってくる。何とも凄まじい光景であり、ひとり当り10万円位撒くと云い、その夜がまた大変で、厄年の家では村の全員、約70家族の人を家に招待し、料理を出し、千円札まで撒いて供応する。村人は厄年の家を全部廻らねばならぬので或る年、厄の人が多く、幾つもの折り詰めを貰い、各家が貰っているので逃望する先が無く、折から入港して来た船員に配った。という笑い話もある。興味深い行事である。」

登頂の記録

平成5年1月の山形さんの記録では「山で硫石を採集している南島バール(例)」の所長からガスマスクとヘルメットを渡され、所長が運転して降ろされた登り口で指差された所は、白い蒸気が吹き上げている。息をつめて煙を通り抜けると一面瓦礫の斜面が続き、所々から蒸気を噴出している。火口からも巨大な白煙が立ち昇り、風の隙間を通して火口壁最高点の1等三角点703・73㍍（点名硫黄島・昭和22年11月遠藤・鶴岡以後の点の記に記載なし）に到着すると、朽ちた木杭に囲まれた標石はガスに磨かれて黒く光っていた。僅かに10分の登りだったが大変長く感じた。

下りがまた大変で、一面白いガスに包まれて方向が分からない。ガスの彼方から聞こえる鉱山の重機の音を頼りに、あちこち彷徨ってやっと車道に出た。」

平成6年1月号「新ハイキング」459号の冨田弘平さんは平成5年5月初旬、標高500㍍辺りに崩壊箇所があって車は通れず、標高300㍍辺りに駐車して頂上往復を試みる。ピークへの登頂はガスと噴煙に囲まれケルンを積みながら、濡れ手拭で口を覆って13時55分に歩き始め、15時35分に頂上に立った。山肌は泥土状でところどころ亀裂が走っており、亜硫酸ガスも吹き出していて、黒色花崗岩の18㌢角の砂礫に磨かれたピカピカの三角点標石を確認した。

安徳帝の子孫

宿のすぐそばに日用雑貨店があり、パン類とアイスクリームを購入してひと息つく。ここの御番所跡の表示には「島津藩政時代の中頃、元禄三年の記録には御船手奉行伊集院賢吉の名が見え、各島の貢租は・硫黄島―硫黄十四俵（1920斤）。木綿八十反。・竹島―大名竹五十束（一束二十五本）。木綿二十反。・黒島―木綿二十三反。」とある。

反対側は熊野神社の広い神域である。東温泉（硫黄明ばん泉）の駐車場に16時に着き、天然岩盤で築造した湯槽は三個あるが、まず女性。そして男性がゆっくり湯に浸ったのは50分。帰路俊寛堂の静寂のなかに孔雀のつがいを見、椿ロードでは白孔雀のつがいも見た。

翌8時50分、宿発。永良部崎を目指すと7～8分で飛行場分レの広大な牧草地のなかに、三島村唯一の電子基準点960723を探査。現在日本全国に10000点余あるが、徐々に増やして12000点にするというGPSの普及によって、より精度の高いものが得られることになる。

ここからまた6～7分、西端の南に突き出た永良部岬を恋人岬という。その駐車場から一段高い展望台に登ると、アズマヤと多くのベンチがあり、小広い草丘の隅に京大の基準点が埋設してある。この細長い半島は離れ島が海中で本島につながったのが盛り上がったもので、高い橋脚を立てて細長い鉄橋を渡してある。この橋上からの眺めもすばらしい。

灯台入口から飛行場に行ってみる。きれいに整備してあるが管理棟は無住で、予約機のみの発着に供している。という。

大浦湾上の駐車地から階段で海辺に急降する。ここは避難港である。

駐車場を取り囲むように峭り立った断崖上の平家城には10時40分着。正面間近に連なる硫黄遠峰の左の一番高いピークが1等三角点峰である。11時発。

ある資料に「汚ない」とあった坂本温泉（食塩泉）には10分後に着いた。なるほど、満潮時に岩峭の割れ目から流入する海水が運び込むらしい木片や廃船には無数の舟虫が蠢き、断崖下にある二槽は空で、上部の二槽のうち一つは火傷する程熱く、もう一槽は火山灰が沈殿してはいるが、湯はきれいである。

ここは夏季キャンプ場となるらしく、管理棟がある。入浴・休憩2時間の後、椿園を一巡してみたがたいしたことなく、この頃一片の雲もない大快晴となるが、やはり風無く暑い10月である。

私が、この硫黄島に思いを馳せたのは、坂井久光さんが16年前に安徳帝の事蹟を記した一文（前出）を見てよりで、永い間の懸案がやっと実現したのである。

壇の浦で二位の局に抱かれて入水された後、諸説が流布されて、四国奥地や南海の各小島に安徳帝の墓石があり、帝を奉じてそれらの島に迫り着いた平家の子孫が現存しているのを見聞する。

平成2年8月25日付「東京新聞」には泰恒平氏の軍になる幼帝を奉じた「門脇宰相教盛、伊賀平内左衛門家長らの一隊は日本海を東進して鳥取に至り、更に但馬の御崎海岸に上陸し、門脇中納言の与党の多くの子孫が現存しており、多くの史跡もあるし、伊賀氏の子孫も現存しておる。」という記事もある。

平家の落人は枚挙に暇のないほど各地に散在するが、ここには安徳帝の確たる子孫はいないらしい。

硫黄島には安徳帝の子孫が現存し、坂井久光さんは当主（オバール会社社長の長浜氏一家は鹿児島本島に移住された）と会見して、三種の神器の有無を糾されているが、長浜氏縁りのバアさんひとりが郵便局裏の小さな家を守っている。

安徳帝墓所には「元暦二年三月長門壇の浦における源平の一大決戦の果て平家はついに滅び去ることとなった。

この時、清盛の妻二位の尼に抱かれ千尋の海に入水された害の幼帝は、実は硫黄島に逃げのび、しかも後年資盛の嫡嗣厘の局を后として隆盛親王が誕生し、その子孫は多くの証拠品を伝え持ち、この地に生きている。

寛元元年六十六歳まで隠遁生活を送ったこの地を御前山と云い、安徳天皇と従臣の墓が建てられている。

櫛匣局は建久九年平資盛と荻野内侍との間に生まれ（中略）建保五年春二十歳で后となり、承久三年六月一日隆盛親王誕生。文永二年六十八歳亡。長れ多いと、帝の墓域から離れて躙らる。

長浜家の祖は正二位内大臣左大将平吉賢で資盛の嫡男として建久元年四月二十三日生誕。建長二年七十二歳亡。母は荻野内侍。現在の長浜邸跡に住す。

熊野神社（社記序略）元暦二年・安徳帝が居住され三種の神器を内陣に祭って三種権現と称し、慶長三年朝鮮役のおり、安徳帝の末裔長濱権之丞吉延が島津義弘の危機を救った礼として事後島津氏の崇敬を受ける（後記略）。」とあり、長濱氏に二流あることが判明した。

硫黄島は、孔雀が飛び白煙を吐く勇壮なる活火山と椿と伝説の島。周囲14・5㌔、面積11・65㎢平方、人口150人（平成13年）。

旅荘「本田」☎09913（2）2102は、ほんとの旅館といえる調理士による数々の上品で美味な料理。また訪れたい島と旅荘だった。

△地形図▽2万5千＝薩摩硫黄島

（問い合わせ先）

三島航路みしま待合所

☎099（227）1664

エリア別徹底研究

高野参詣道を歩く（第七回　最終回）

⑯ 女人道

長坂文男

弘法大師（空海）が高野山を開いてのち千年余りは女人禁制であったが、明治五年（1872）政府により女人禁制は解かれた。しかし高野山は解除後も「山の規則」を盾に、女性の山内居住を認めず、宿泊も厳しく制限された。明治二十年ごろから隠れて住む女性が現れ、請願巡査による「女狩り」が行われたという。山内居住が認められたのは、「山の規則」が廃止された明治三十九年（1906）になってからである。

女人道は、高野山内に入ることが許されなかった女性が、壇上伽藍、奥の院を巡拝するための道で、「内の八葉、外の八葉」と呼ばれる峰々を伝い、高野七口の女人堂を結ぶ山道である。女性だけが歩いた特別な道と思われがちだが、弁天岳の「嶽弁財天社」への道を除いて、高野七口の熊野道（大滝口・小辺路）・龍神口・大峰口・黒河口の一部、及び他の一般道を利用した巡拝道である。

アップダウンがあり、一巡するのに休憩を含めて7～8時間かかるため、健脚向きコースといえる。山内の宿坊に一泊し早朝出発するか、あるいは二回に分けて歩くようにすれば余裕をもって歩ける。女人堂は最近ガイドブックによく紹介されるようになったが、今回は従来あまり採り上げられなかった箇所を中心に、コースガイドする。

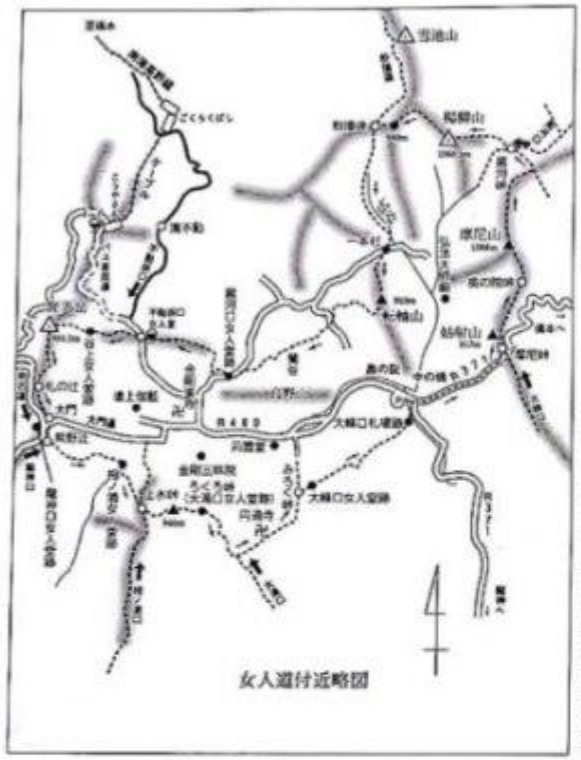
コースガイド

嶽弁財天社（弁天岳山頂）

高野山ケーブルの山上駅、高野山駅前から南海りんかんバスに乗車、女人堂バス停で下車する。不動坂口女人堂の向かい側に、「お竹地蔵」と呼ばれる高さ約5㍍の大きな地蔵菩薩の銅像がある。江戸中期の延享二年（1745）に、江戸の横山竹という女性の浄財によって建てられたものである。

銅像の右横に弁天岳の登り口があり、

スギやマツ・モミなどの針葉樹のなかを登り、尾根に出る。尾根伝いに少し進むと、平坦な鞍部の所に「谷上女人堂跡」の標識を見る。『紀伊国名所図会第三編』の高野山絵図や、江戸後期と推定される「高野山古絵図」に女人堂の名が見え、江戸後期から末期にかけて存在したと思われるが、詳細は不明で謎の多い女人堂である。



やや急な山道を登り、赤い鳥居が見えてくると、スギの巨木が残る弁天岳（984・5㍍）に着く。弘法大師が宝珠を埋め、宝瓶を安置して弁財天を勧請した所と伝えられ、東西に細長い山頂の東寄りに、一間社春日造の「嶽弁財天社」が建っている。

西端にある3等三角点の横から南へくだると、すぐ西側に伐採地跡があり、天狗岳や長峰山脈・荒門山系の山々が眺望できる。しばらくして「札の辻」に出る。江戸初期に大門下の急坂を避けて、大門口（町石道）の二十四町石横から開かれた新道と、女人堂が出合う所である。谷上（壇上伽藍の北側）へくだる問道があり、制札場が設けられたことからこのように呼ばれた。

赤い鳥居が続く参道をくだり、高野山の総門である大門の前に出る。龍神口女人堂跡に建つ大門案内所横から、砂利道を南へ150㍍ほど歩くと熊野辻で、熊野道と龍神道が分かれる。「助の地蔵尊」と呼ばれる地蔵石仏を祀った小堂と、古い石道標二基がある。

左をとり、檜林の尾根の南側を捲いて進み、いったん車道に出る。100㍍先で再び右の山道に入り、和歌山放送の無線中継塔の横を通り、小谷沿いにくだると霊宝館の南側に出る。南谷と呼ばれるこのあたりが相ノ浦口女人堂跡である。右の用水路に架かる木橋を渡り、「左く

円通寺参道、右結界石

まの道」と刻まれた石道標の所から尾根伝いに登り、上水峠に出る。相ノ浦口の笠松峠付近からの林道が横切る十字路で、江戸中期、明和二年（1765）の銘が刻まれた小さな道標地蔵を見る。

左へ登り尾根道を進むと、鉄塔跡の基礎が残るコブの先に、946㍍ピーク（最新の地形図に標高表示はない）がある。「高野山内ビューポイント」の案内板があり、女人道のコース整備（平成15年春）の折、周囲の樹木が刈り払われ、高野山内が眺望できるようになった。南側も奥高野の重畳とした山並が一望でき、実にすばらしい。無線中継塔の横を通り5分ほどくだると、明るく開けたろくろ（轆轤）峠に出る。

江戸期に大滝口女人堂があった所で、千手院橋と大門からの熊野道が出合う所である。峠名は高野山内を見ようとして、ろくろ首のように長くして眺めたことから生じたという俗説があるが、木地屋（師）の使う道具（轆轤）に由来すると思われる。それを物語るように明治、大正の頃まで高野山の南、奥高野と呼ばれる山々には、大勢の木地屋が入っていたという。

南へ林道を30㍍歩いた所、左に女人堂跡から見つかった上半部が欠損した不動明王石仏や、小さな一石五輪塔が祀られている。展望のよい林道から、道標にしたがい左の細い山道をくだり、円通寺前の参道に出る。

円通律寺・新別所・真別処とも呼ばれ、修行道場のため、境内への立ち入りは禁止されている。参道の両側に結界石があり、右に「大界外相」と刻まれた江戸期のものが、左に最近建てられた「不許常酒入山門」と刻まれたものがある。高野山の町並から離れたこの寺は、いつ来ても静寂で、凛とした雰囲気が漂っている。

参道に続く別所谷林道を東へ歩き、左の小谷沿いの山道に入る。登り切った所がみろく峠で、弥勒菩薩石仏を祀った小祠がある。台石に江戸後期、文政四年（1821）の銘が刻まれている。峠から北へ10㍍ほどくだり、右へ進むと大峰口女人堂跡、五大尊堂跡の小平地がある。五大尊堂は五大明王（不動明王ほか四明王）を祀っていた堂で、明治中期までここにあったという。

南側の伐採跡から陣ヶ峰や荒神岳が見える尾根道を東へ進むと、やがて下りとなり、中の橋の手前で「大峰口札場跡」に出る。「女人禁制」の制札が建っていた所で、女性はここより山内に入ることが許されなかった。参詣者や観光客の多い中の橋を抜け、国道371号を東へ歩く。摩尼トンネル手前で左の山道に入り、急登して摩尼峠に出る。小さな地蔵石仏と、側面に明治五年（1872）の銘が

刻まれた石道標がある。高野山奥の院と立里荒神社を結ぶ荒神道の道標であるが、裏面を上にして放置されている。

峠から姑射山（917㍍）の東側を捲くよく踏まれた道を進む。姑射山は、『紀伊続風土記』に「……人間不通の山とす。もし登る者は帰る事なしといふ。」とあり、江戸期には畏れられた山であった。北側の鞍部から踏み跡があり、5分ほどで登れるが、樹林に囲まれたやぶ山で少しガッカリさせられる。

大峰口の道標石仏（役行者坐像）のすぐ先が奥の院峠である。弘法大師坐像を祀る小祠横からツガ・モミ・コウヤマキ・スギなどの巨木が繁る原生林のなかを急登し、摩尼山（1004㍍）に着く。如意輪観音石仏を祀った小祠があり、その前の石標に「如意輪観世音菩薩、天保五年（1834）甲午三月」と刻まれている。楊柳山・転軸山の小祠前にある石標も同じ年号が刻まれ、この年に三山の石仏が同時に安置されたものと思われる。

木の間越しに楊柳山を眺めながら摩尼山をくだり、平坦な植林の尾根道を北へ進む。やがて山道は西へ向きを変え、くだって行くと黒河峠で、子安地蔵を祀った小祠がある。右から高野七口の黒河口が合わさるが、ブッシュ混じりで荒れている。さらに尾根道を西へ進み、急登して楊柳山に着く。

高野三山の最高峰で、楊柳観音を祀る祠の後ろに3等三角点（1008・5㍍）がある。山頂付近にはリョウブ・ヒメシャラ・ブナ・モミ・ツガなどの自然林が残り、学習展示林となっている。

楊柳山から北西にくだった鞍部に、「すぐ下る奥之院・転軸山近道」と刻まれた石道標を見る。高野三山には六基ほどの石道標が残っているが、刻まれた内容・書体から大正から昭和初期のもので、古いものは見当たらない。雪池山への踏み跡を右に見送り南へ進む。980㍍ピークから西に折れ、急な木の階段道をくだり、粉撞（子撞）峠に出る。

黒河口の脇街道、粉撞道が右から合流し、片隅に子安地蔵を祀った小祠がある。南へ広谷をくだって行く。やがてその名のとおり明るく開けた谷となり、山道から未舗装の林道に変わる。しばらくして一本杉と呼ばれる奥の院裏の車道に出る。転軸山の登り口は、車道を右へ50㍍歩いた所にあり、植林の尾根を登り、転軸山（912㍍）山頂に出る。

弥勒菩薩石仏を祀った祠と新しい宝篋印塔のある山頂は、植林に囲まれ展望はない。尾根を南へ進み、途中で北西に向きを変え急坂をくだる。転軸山森林公園のなかを通り、池の横から車道に出て左へ進む。鶯谷の集落を通り抜けると、ちょっとした鞍部があり、このあたりが黒河口女人堂跡である。

車道の左側、コンクリートブロックの上に案内板がある。すぐに右に折れて民家の間を進み、途中で道標にしたがい左をとる。赤い小堂が印象的な千手院明神の横を通り、尾根を急登する。小ピークから尾根道を西へ進み、出発地の不動坂口女人堂に帰り着く。

（平成11年11月、14年3月、16年5月歩く）

＜コースタイム＞

不動坂口女人堂（30分）弁天岳（20分）大門（1時間）大滝口女人堂跡（50分）大峰口女人堂跡（40分）中の橋（1時間）摩尼山（40分）楊柳山（1時間）転軸山（50分）黒河口女人堂跡（30分）不動坂女人堂

＜地形図＞2万5千＝高野山

エリア別徹底研究

高野参詣道を歩く

⑰相ノ浦口

『紀伊国名所図会』に、「相浦口（南谷にあり。相浦村まで四十余町）この道当山南方の入口にして、相浦郷より登詣す。」とあるとおり、有田川上流の御殿川沿いにある、相ノ浦集落からの高野参詣道である。

龍神口と大滝口（小辺路・熊野道）に挟まれた中間尾根を登り、上水峠（相ノ浦口）から高野山内に入る道で、高野七口のなかで最も距離が短い。江戸初期の正保三年（1646）の高野山古絵図では、峠にこの名称が記され、地蔵堂（女人堂）が描かれており、古い参詣道であることがわかる。

昭和40年代初頃、高野山から一ノ枝川沿いに、相ノ浦を経て花園村までバスが開通し、内子谷川沿いにも車道が出来たため、この道を歩く人はほとんどいなくなった。現在この古道は、相ノ浦山を捲く所が荒れており、枝道も多くルートファインディングが必要である。

登り口の相ノ浦集落は、御殿川の河岸段丘上にあり、江戸期から蒟製造が盛んであったが、昭和30年以降衰亡する。現在はコウヤマキ（枝葉を仏前に供える）を、高野山に出荷している家が多いという。また平成4年7月、相ノ浦に高野槙の湯温泉が開業する。日帰りの入浴客や宿泊客で、結構賑わっているようで、地域の活性化に寄与している。

コースガイド

登り口の相ノ浦集落

高野山千手院橋の郵便局前から、12時5分発（平成16年4月現在）、花園行きの有田鉄道バスに乗車する。内子谷川沿いの町道を通り、約20分で相ノ浦バス停に着く（以前は一ノ枝川沿いの国道経由であったが、平成15年1月から路線変更になる）。

分校跡や相ノ浦の氏神、丹生神社を右に見ながら、国道を北へ約600㍍歩き、大きくカーブする峠の所が登り口である。

左にあるコンクリートの階段から取り付く。3年前の冬にこの古道を歩こうとしたが、登り口がわからず相ノ浦で道を尋ねたところ、親子熊が出没して危険だと、老夫婦に強く引き止められ中止した経緯があり、今回は熊避けの鈴をザックにぶら下げた。

左下に相ノ浦集落を見ながら、コウヤマキの植栽されたなかを進み、モノレールと出合う。このモノレールは、高齢化した山林作業員を運ぶために敷設されたもので、相ノ浦山の急峻な尾根に向かってのびている。ここから相ノ浦山の東側山腹を捲く道に入る。

スギの植林地を進み、山抜け跡を過ぎると、小滝が連続する谷に出る。昔は桟道があったらしいが今はなく、濡れた斜面の踏み跡を慎重に通過する。相ノ浦山から東にのびる尾根を廻り込み、再び捲き道となる。部分的に足場の悪い所があり気が抜けない。しばらくして尾根に出ると、よく踏まれた山道となり、ホッとひと息つく。

相ノ浦口付近略図

木の間越しに龍神口の通る尾根を左に見ながら尾根上をゆるやかに登って行く。次第にササが道を塞ぐようになり、やがて背丈を超すササの笠松峠に出る。

昔は笠の形をした大きな松があり、『大峰・大台・奥高野』（伊西敬一郎著 昭和46年）にも、「途中にあった笠松峠の老松が近年台風で倒れたのはおしい。」とある。峠の左寄りにある踏み跡は、内護山（内子山）に登るもの。古道はやや右寄りからの道で、内護山の東側を捲いてくだっている。

左に「鳥獣保護区」の赤い標識と、頭部が赤く塗られた高野山営林署の標石を見て、少しくだると未舗装の林道に出る。平坦な林道を歩き、946㍍ピークあたりで東側が少し開ける。大滝口（小辺路）の通る尾根が見え、薄峠の右に、関西電力の無線中継塔が白く輝いている。上水峠手前まで来ると伐採地があり、今度は西側が開け、重畳とした紀北の山々が一望できる。

上水峠は、女人堂（熊野道）が横切る変形十字路で、「相ノ浦口」の案内板がある。江戸初期はこの峠に地蔵堂があり、女性が参籠したというが、江戸後期に入り、女性の参籠や宿泊に便利なように、峠をくだった南谷（霊宝館の南）に移され、女人堂と呼ばれるようになった。峠からは簡易舗装された林道、あるいは女人道のいずれをくだっても、霊宝館の南に出る。大門通りから千手院橋バス停に戻る。（平成16年4月3日歩く）

▲コースタイム▼

高野山バス停（20分）相ノ浦バス停（10分）登り口（50分）尾根（30分）笠松峠（10分）林道（50分）上水峠（20分）千手院橋バス停

▲地形図▼2万5千�分の1・梁瀬・高野山

（問い合わせ先）

有田鉄道バス ☎0737（52）3034

高野槙の湯温泉 ☎0736（56）5050

エリア別徹底研究

高野参詣道を歩く

『紀伊続風土記』『紀伊国名所図会』

「高野参詣道を歩く」の連載も今回が最終回、単なるコースガイドではなく、各参詣道の歴史・地理・民俗なども簡潔に紹介してきたつもりである。拙稿を書くにあたり、市町村誌や郷土史などの地誌、古い参詣記や紀行文、古地図や明治の5万分の地形図をはじめ、諸々の史料に一通り目を通した。

特に『紀伊続風土記』『紀伊国名所図会』は、座右の書として引用した箇所も多い。いずれも紀伊国（現在の和歌山県と三重県の一部）全域の地誌で、和歌山県の歴史・地理研究の基本文献である。二つの地誌の概要を紹介して連載を終えることとする。

『紀伊続風土記』

江戸後期の文化三年（1806）、江戸幕府の命により、紀州藩が編纂に着手した紀伊国一国の地誌である。仁井田好古を総裁に、本居太平・本居内遠・加納諸平などが調査編纂に携わった。

総裁の仁井田好古（1770～1848）は紀州藩に仕えた儒学者で、通称は模一郎、南陽と号する。幼い頃から学問を好み、第十代藩主徳川治宝に、学問を教える侍読に抜擢され、その後家老を補佐する参政となり、深く藩政に関与した重臣である。

調査編纂に携わった3人は、いずれも紀州藩に仕えた著名な国学者である。本居太平（1756～1833）は伊勢国（三重県）松阪の人、国学四大人の一人である本居宣長に学び、のち宣長の養子となり、その学風の普及に努めた。本居内遠（1792～1855）は、太平の娘婿で同家を継ぐ。のちに紀州藩江戸藩邸古学館の教授となる。加納諸平（1806～57）は遠江国（静岡県）の人。和歌山の加納家の養子となり、医術を修めるかたわら太平に国学を学ぶ。

『紀伊続風土記』は全195巻という大著である。文化十二年（1815）に、紀北の四郡（名草・海部・那賀・伊都）の編纂が完了したが、その後中断される。財政的理由によるものと推測され、長い中断ののち、天保二年（1831）に編纂が再開され、天保十年（1839）に全巻が完成する。

内容は若山（和歌山）城下の町々、および紀伊国の七つの郡（名草・海部・那賀・伊都・在田・日高・牟婁）ごとに、荘別に村単位で記述された地誌である。村々の田畑の石高・戸数と人口・歴史・地勢・社寺・名所旧跡・産物などが詳細に記述されている。高野山に関しては、別に「高野山之部」が設けられており、その内容は極めて精細で、学問的価値が高いという。

活字本としては明治43年（1910）に、和歌山県神職取締所から全五冊本として刊行され、昭和45年（1970）に歴史図書社、平成2年（1990）に臨川書店から、その復刻本が出版されている。

『紀伊国名所図会』

紀伊国全域の大部な名所図会で、五編二十二巻から成る。初編三巻は、文化八年（1811）に、第二編三巻は文化九年（1812）に相次いで刊行される。著者は紀州藩の書物御用達であった。帯屋の七代目高井志友（1751～1823）である。

和歌山市細工町に生まれ、八歳の時江戸浅草の薬種屋に奉公し、帰国後は藩の書物御用商として商売に励むかたわら、薬種商も営んでいた。志友は俳諧をよくした趣味の人でもあったが、第三編を準備中、文政六年（1823）七十三歳で亡くなる。

第三編六巻は、志友の子志文が、『紀伊続風土記』の調査編纂に携わった加納諸平の協力を得て、志友の遺稿を基に校訂加筆して、天保九年（1838）に完成する。その後加納諸平によって、後編六巻が嘉永四年（1851）に刊行されるが、牟婁郡（熊野地方）は手つかずのままであった。

このことを憂えた志友の子孫、高市志直は祖先の遺徳を彰すため、志友の遺稿を校訂増補して熊野編四巻として、活版印刷で昭和十二年（1937）から逐次刊行する。昭和十八年（1943）に最後の第四巻が刊行され、『紀伊国名所図会』はここにようやく完成する。初編刊行から、実に百三十年余り要したことになる。

内容は若山（和歌山）城下と七つの郡別に、名所旧跡だけでなく、山や川などの自然地名や社寺など広範に採り上げ、その故事来歴を、古文献を引用して詳細に記述している。挿絵も多く、私のような素人にもわかりやすい内容の地誌となっている。

活字本としては熊野編を除き、大正10～11年（1921～22）に、大日本名所図会刊行会から全四冊本として刊行されている。昭和45年（1970）には、歴史図書社から熊野編を含めた復刻本が刊行される。さらに昭和60年（1985）に出版された『日本名所風俗図会12　近畿の巻』（角川書店）に、『紀伊国名所図会』の約半分程が、「高野山之部」を中心として抄録されている。

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発㈱へ!!

・小型（20人・24人）
・中型（28人乗り）
・中2階（45人乗り）
・大型（55人・60人）
いずれもサロンカーからデラックスまで
スキーバスもあります
〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

連載

三角点を訪ねて ㉚

古の信仰の山、安蔵山へ

湖北

礒部 純

2万5千分の一の地形図「中河内」を開いて見ると、滋賀県内にまだ訪れていない三角点峰が五つもあった。その中の一つである安蔵山へはこの春に登る計画を立てたが、当日の降水確率が高く登る前日になって中止。いつかは登ってやろうと思っていたのが、この9月になって、やっと登ることができた。

安蔵山は高時川とその支流の奥川並川、尾羽梨川に囲まれた山である。この山は信仰に関係ある山で、明治17年に己高山の麓足寺から観音像をもらい受けて、安蔵山の山頂に奉り、毎年9月17日を参拝の日とした。前日の16日に登山道の整備をしたというが、昭和18年頃から人手が減り、参詣道の整備が出来なくなったので、観音像を田戸の寺に移したという。それ以来、標高点467㍍の北の鞍部へ登り、安蔵山へとのびる尾根に付いていた参拝道は廃道と化し、歩く人がいなくなったので、自然に還ってしまったと聞いている。今では登山道の無い山の一つといってよい。

6時50分、山科で大兄の車に乗り、湖西道路を北へ走る。和邇で彼らと待ち合わせていたのだった。何んでも「やぶ漕ぎの好きな人をあと2人連れて行く」とのこと、だれが来るのか？　私は脚力が落ちているだけに気にかかる。

7時40分、待っていた車がやって来た。彼の車に乗っていた2人は見たことのある顔。何と新ハイ仲間の大阪と吹田の彼女だった。これでこの日のメンバーは見知った人ばかりの5人。どんな人といっしょに歩くのかと、心中穏やかでなかったが、これでホッとひと安心。

161号線から303号線を通り、木之本へ抜ける。下余呉から東へ入り、上丹生へ来ると、目の前に七七頭ヶ岳が横たわっている。その麓を廻り込んで走ると菅並の集落だ。この近くにある三角点峰の七七頭ヶ岳・妙里山・東妙里、それに点名桑樹谷は2年前に訪れている。この日の安蔵山は菅並のさらに奥にある。

菅並を過ぎると道には「通行止」の看板があり、工事の車がいっぱい。平成7年に菅並の奥の小原に、高さ145㍍の丹生ダムを建設することが決まり、そのための道路を建設中だとか。一瞬、「安蔵山へ登るのは諦めなくては……」と思ったが、作業員に頼んでみると、「田戸までは行ってよい」との返事をもらい大助かり。今ではこの丹生ダムは一応建設中止となっているが、もしダムが完成すれば、登山基地である田戸はダムの底に沈んでしまって、簡単に登れない山になってしまう。その意味からも、この時期に安蔵山へ登れるのはうれしい。ただ、最初の計画の「安蔵山へ北西の尾羽梨川分岐から尾根を登り、南にのびる尾根をくだる」というルートは変更を余儀なくされてしまい、田戸からの往復ルートをとることにした。

田戸の時高川と奥川並川分岐の橋のたもとに車を置く。安蔵山を取り巻く斜面を目の前に見ると、地形図で想像する以上に急過ぎるほどに急で、取り付くのが嫌になるほどだ。地形図を検討して、南にのびる尾根先端の標高点467㍍を廻り込んだ所で、鞍部から北東へのびているゆるい小尾根を登るのがよさそうだと決めて歩き始めた。

安蔵山付近略図

歩き出してすぐ、左の斜面に登山路を示す赤のビニールテープが下がっていたが、標高差400㍍もある急斜面を直登する気はサラサラなく、その道を無視する。道脇にはセンニンソウ・ツリフネソウ・アキチョウジ・ムラサキツユクサ・ミツバフウロなどの花が開いていた。

林道が右にカーブし、左に廻り込む手前の急斜面に金属の階段が取り付けられていた。大兄が様子を見に登ってみると、かなり上まで階段がのびているとのこと。あまり期待はできなかったが大兄に引きずられ、ここから斜面へ取り付くことになった。

何のためにつくられた階段なのか、わからぬままにその階段を登る。階段は急斜面を上へ上へとのびていた。高度100㍍も登ったろうか、やがてテラス状に金属が組まれた所まで来ると、窯の定、階段はそこまで。テラスの裏には横穴があり、地層を調べた穴らしい。その上は見上げるような急斜面が続いている。

いまさらくだるわけにもいかずに、その斜面を登ることになった。斜面はガレ岩が多く、足を出すたびに足元から岩が崩れ落ちていく。絶えず「落石！」の声が飛ぶ。枝につかまり岩にすがって、後に続く人の位置を気にしながら、一歩一歩身体を持ち上げて登る。ちょっとでも気を抜くと滑り落ちてしまいそうな急斜面だった。やがて、幾分斜面がゆるくなると、右手からテープの付いている尾根に合う。サンショの木を掻き分けながらその斜面を登り切ると標高点467㍍ピーク。山頂広場には「近畿地方建設局　高時川ダム　2級基準点」と彫られた銅丸盤が埋められていた。

ピークに着くやいなや坐り込んで水を一杯。頭からは玉のような汗が落ちてくる。それを拭う間もなく、朝から調子の悪かった腹具合に、こらえ切れずにマーキングに走る。ひと心地ついた後でもらって食べた冷えた梨の美味かったこと。

切り開かれたゆるい尾根を北北西へくだる。これまで花に関心のなかった和邇の彼が、めずらしくも、花があるたびに名前を聞いては真新しいデジカメで撮っている。少しくだると尾根鞍部。鞍部は深い溝状になっていたが、両側は切り立つような急斜面。昔この鞍部に参拝道が

ブナの下で休憩

来ていたとは思えない地点だった。そこから北の尾根へのるとすぐ、岩盤調査のボーリングのものかプラスチックの筒が立っていた。あたりは静かな雑木の林。

尾根を北へ登って行くと、次第に太いブナやミズナラの木が現れてくる。尾根には昔の参拝道の名残か、所どころに道らしき踏み跡も残っていた。いや、何種類ものテープが下がっているのを見ると、最近かなりの「物好き」がこの山へ登っているかもしれない。尾根にはカワミドリ・アキノキリンソウが咲き、花の終わったヤブレガサが点々と続く。登るにつれ、ブナの木が目立つようになってきて、深山へ登った感が一層強くなる。至る所にホッツジが立派な花を開いていた。

標高650㍍を超えると尾根は広くなり、いつしか踏み跡は消えてしまった。尾根の上方には濃いやぶだけが広がっている。そのやぶを避けて右へ左へ方向を変え、上へ上へと登って行く。そこで尾根の広さとやぶの深さに、トップがテープを付け出した。余程しっかりと地形図と磁石で方向を定めないと、この尾根を戻る時に違った方向へくだってしまいそうなのだ。やがて、右からの尾根を見て、勾配がゆるくなった地点がCa（約）700㍍。左の急斜面を登ってきた人がいるのか、そこら中にピンクや赤のテープが下がっている。ベル山岳会の赤と黄色のテープもある。おそらく、林道の入口にあったテープの地点から急勾配の斜面を登ると、ここへ登り着くのだろう。

幾分ゆるくなった尾根を北へ登る。登るにつれいつしかササが姿を現し、周りに情緒豊かなブナの樹海が続く。幹が40㌢から60㌢程もある大木が立ち並んでいる。その光景を楽しみながら登り、右から尾根がきた所で最後の休憩。依然、腹の調子が悪く、正露丸を三粒もらって飲むとすぐ、少し良くなったような気がしたから不思議だ。

「あともう少し」と登って行くと浅い谷が右手からきて、ゆるくなった斜面を登り切ると、広い平坦なササ原のブナ林。その北西の外れに何本かの杉の木が立っていて、その杉の北側にやぶに囲まれて三角点が立っていた。展望は全くない。

安蔵山（900・1㍍）三角点は点名「田戸」、3等三角点である。標石は美しく真南向きだった。この杉の木のあたりに観音堂があったのだろう。今では建物は朽ち果て自然に還り、ただその敷石と思われる石だけが残っている。

三角点の東の太いカエデ？の下の広場で昼食とする。腰ほどもあるササ原にブナの林、何ともいえない情緒ある光景だった。その広場の北には直径1㍍もある太いブナの木が立っていて、その向こうに赤く色づきかけたナナカマドが青い空に映えていた。広場の周りにはチンニンソウが花を付け、早やツチカブリも顔を覗かせている。ゆっくり食事をして、昔があたりの好ましいムードに浸っている間、私は正露丸が効かずに二回目のマーキングに走る。

13時15分、下山開始。急斜面をくだる危険を避け、登った尾根をくだることにする。Ca700㍍近くまで来た時、先頭を歩く大兄が突然「熊だ！」と言って走り出す。前方を見ると、黒い影が左から右へと走る。だれでも熊に出会ったら、熊のいない方へ逃げるのが普通だが、大兄は影の方へ向かって行く。「大丈夫かな？」とよく目を凝らすと、その影は二匹の猫だった。熊と見間違えるのも無理はない。登る時に真新しい熊の糞を二ヶ所で見ているのだから……。熊だと思っても当然だった。

Ca700㍍付近で休憩。その間に三回目のマーキングへ姿を隠す。ここから和瀬の岐は急斜面を田戸へくだりたそうにしていたが、急斜面の下りには危険がつきまとうので、登ってきた尾根をくだり、鞍部からは北東にのびるゆるい小尾根をくだることにする。ここから下は尾根が広くやぶも濃いので、方向を少し違えても後が大変だ。ひたすら地形図を片手に磁石で方向を定めてくだる。そんなことは気にしていないのか、後の3人は知らん顔してついてくるだけ。最初東へ行ってしまったが、すぐに気がつき右手の尾根にのる。初めはのった尾根が登って来た尾根だとは信用してもらえずに、不安げな顔をしていた3人も、くだるにつれ見覚えのある木や花を見て安心顔になった。14時20分には鞍部の手前のコブまでくだることができた。西の林の切れ目から、田戸に置いた車がすぐ下に見えている。

安蔵山3等三角点

その鞍部手前で休憩。ひと息入れふと見ると、東の斜面に木の階段があり、ゆるい尾根の方向にのびている。すぐそばにあるボーリングの筒から見て作業道に間違いなしと、その階段をくだることにする。思った通りで、その階段をくだると昔の道跡に降り、杉林を15分程で林道へ下山できた。この道は朝に登ろうと決めた尾根に付いていたのである。次回安蔵山へ登る際は、林道入口の急斜面ではなく、多少遠廻りにはなるがこのルートを登れば、より楽に山頂へ向かうことができるに違いない。

この林道を標高点467㍍のピークを捲いて田戸へ歩く。道脇にはオトコエシ・ツリフネソウ・ミツバフウロも点々と咲いている。林道右手の崖には一面にイワタバコの葉が……。花の残骸も残っていた。清閑の時期に来たら、すばらしい花の斜面を見られるに違いない。この花の斜面もいつの日か水の底に沈むかと思うと、もったいない。

長い林道を歩いて、田戸の車に戻ったのは、15時15分。この時には正露丸が効いてきたのか、腹の調子は元に戻っていた。すばらしいブナ林と新しい三角点を訪ねることができ、大満足の一日だった。帰路、マキノ高原温泉で汗を流し、解散とした。

（平成14年9月14日歩く）

Aコースタイム

廃村田戸（1時間）標高点467㍍（1時間）Ca700㍍（40分）安蔵山（1時間10分）標高点467㍍の西鞍部（15分）林道（35分）廃村田戸

〈地形図〉2万5千＝中河内

連載

旗振り通信の研究 ㉒

旗振り通信の資料Ⅱ

柴田昭彦

【旗振り山の資料】

●『岡山始まり物語』（岡長平著作集第2巻、岡山日日新聞社、昭和52年）は、『岡山太平記』とともに岡山県における旗振り通信に関する情報源で、本誌69号で紹介した。一般に入手しにくい資料なので、三〇四～五頁を引用しておこう。

電信出現以前の速報は、のろしと旗とによる、リレー通報だった。のろしは、軍事用には古い昔から用いられてたが、高くつくから一般には旗だった。それも堂島（大阪）相場を一刻千金で待っとる帳合浜（米穀取引所）連中の専用になってたもんだ。

「旗フリ」とは読んで字の如く、白の四尺ばかりの旗を高い所で、両手で左右に廻転さして相場を知らすのを遠眼鏡でキャッチし、それを直ぐ次へ旗で知らして馬関（下関）まで行く方法なのである。百五十年も前の文政ごろに始まったと、ものの本には書かれてあるが、封建時代にそんなことが許されそうな筈がない。岡山へんでは明治十二年ごろから滝本町の小林文七という者が始めたと新聞にでとる。県下では、三石の大平鉱山のテッペンを相場山と呼んでるが、そこが旗フリの中継所だったからだ。熊山にも「旗ガ峯」という所がある。やはりそれなんだ。岡山には操山水源地の北に「旗フリ台」という所があった。そこの受発を日差山（都窪郡）がうけて天文台のある遍照山に送り皿山（笠岡市城見）へ流したと伝えられておる。

旗振台古墳の説明板

雨天と盗視との大欠点があるのに、明治三十二年に取引所が天瀬から駅前へ出るまでこの「旗相場」が続けられておった。

よっぽど電報料が目にしゅんだものであるらしい。

●萩野秀（本名は桑島一男）『岡山の電信電話』（岡山文庫61、日本文教出版株式会社、昭和50年）は、岡氏の研究をもとに、旗振り通信について要領よくまとめた次のような一文を収録している。なお、文中で一説として紹介している「四十分、昔写山、芥子山」の裏付けがとれないことは、本誌69号で述べたとおりである。

旗振り通信と競争

文明開化の先端をゆく電信がせっかく開通してもあまり利用者がなかったのは、その高い料金のせいもあったが、それにもまして大きな理由は、その当時「旗振り通信」という速報手段が既に存在していたからである。

それは、江戸時代中期の文化文政ごろから初められたといわれ、読んで字のとおり、高い山の上で旗を振って一定の信号を送るのを遠く離れた山の上から遠眼鏡で見ていて、それをすぐ次へ流して順次リレー式に伝えてゆくもので、主として大阪堂島の米相場を西日本各地の帳合浜（ちょうあいはま、後の米穀取引所のこと）の中に知らせるのが目的で、遠く馬関（下関）までその連絡系統は伸びていた。

一日二回前場と後場の別に連絡していたが、戦時中の手旗信号のように赤白二本の小旗で一定のシグナルを送るのではなく、布の巾が一尺もある真四角な旗を左右に回転させるだけで、たとえば右が一〇位、左へ回せば一の単位といった簡単なルールでその回転数を計算することにしていたため、とかく情報を盗み見されることも多く、その対策としてよく手紙で連絡をとり合い旗の振り具合の変更を暗号的に取り決めたという。

ところで、故岡長平氏の研究によると、大阪からの経路は堂島―尼崎―兵庫―須磨（ママ）―黒金―龍野―赤穂―寒河―熊山―岡山（操山）。（一説には、堂島―千里山―六甲山―書写山―三石大平山―熊山―操山）で受け継ぎ、堂島から岡山までわずか一五分（一説には四〇分）で米相場が到着したというから、当時としては電報よりよほど早かったものとみえる。

現在、岡山市奥市の護国神社横の小高い丘の古墳のあたりが、旗振り台という地名で市の史蹟に指定されているが、これが旗振り通信の発受所で、はるか熊山の旗ガ峯（一説には西大寺の芥子山ともいう）から送られてくる旗振りの信号を遠眼鏡（望遠鏡）で見きわめ、それを逐一旭川畔の旧船着町三〇八番屋敷（現在、京橋町）にあった米商会所へ伝える仕組みになっていた。

岡山での旗振り通信は明治三十二年（一八九九）に米穀取引所が岡山市の天瀬から駅前へ移転するまで続いたというから、よほど電報は敬遠されたものといえよう。

●桑島一男『倉敷の電信電話』（日本電信電話公社倉敷電報電話局内事業史編集委員会、昭和55年1月）にも、興味深い一文がある。

ところで電報料金は前にも触れたとおり、距離によって差があり、米一石が三円内外（したがって一升は三銭）の明治五年当時に和文一音信二十字で、岡山・東京間が二十七銭（一書には二十五銭）となると、カタカナ二文字で米一升代金となり、そうそう簡単に庶民が利用できる制度ではなかったらしい。

明治六年に岡山で取扱開始したものの、

電報を打ちに来局するものは県庁の役人以外にはなく、六人（または五人ともいう）いた局員は仕事がなくて、裏の旭川（当時の岡山電信局は旭川畔にあった）で魚釣りばかりしていたという話が残っているほど。

ところで、電報がこれほど不振だったのは、その料金の高いことにも原因したのだろうが、岡山地方ではそれよりもむしろ幕末時代から続いた「旗ふり通信」のせいと考えられている。

日本には古来烽火（のろし）という戦略上の通信手段があって、これに遠眼鏡が併用され、しばしば急を要する伝令通報に利用されてきたものだが、これを大阪の堂島浜で米相場の合図に活用し四億万両の巨利を得たのが浪速の豪商淀屋辰五郎といわれている。

明治十年の西南の役での手旗信号が大きな戦果に結びついたこともあって、戦後再びこの種通信手段が見直され、堂島や兵庫での米相場の値段がこの旗ふり信号ですぐ東へ西へと知らされることになった。

たとえば堂島から西方面への通信路としては、堂島―尼ヶ崎―兵庫―須磨―黒金―龍野―赤穂―寒河―無山―岡山（操山上の旗ふり台から市内船着町の米取引所へ）―日差山―竹林寺山―皿山（笠岡城址）―福山・尾道・下関へと伝達され、その速度も意外に早く、堂島から四十分ぐらい（一書には十五分）で岡山へ到着したというほどで馬鹿にはならない。

信号に使う白旗は大幅二巾がきまりで、右回りが十位を、左回りが一位を示したものの、これは最も秘密を要するので三日目には親展書で変更したという。

岡山では明治十九年（一八八六）四月十八日付で小林文吉という人が正式に旗相場の許可を得て営業し、米穀取引所（当時は帳合浜―ちょうあいはま―といった）が岡山駅前へ移転した明治三十二年（一八九九）まで重宝な通信機関として存続したほどだから、電報が最も上得意とした相場通信は、雨の日の旗ふり通信中止のときを除いてはあまり期待できなかったことになる。

この電報不振を挽回する意味もあってか、それに全国的な電信取扱局の増加につれて、従来のような距離別・線路別の料金体系ではあまりにも複雑に過ぎて取扱上不便が生じてきたので、明治十八年（一八八五）五月に、「電信条例」と「電信取扱規則」を改正して、同年七月一日を期し、電報料金の全国均一制を実施した。（これは現在も生きている）

それによると、市内・市外の区別があり、いずれも和文一音信は十字以内で、市内が五銭、市外は十五銭（当時米一升が六銭～七銭）となっており、またそれまで和文の住所氏名に課金したり、配達料を要していたのをすべてやめ、着信局から一里（四キロメートル）以内の配達は無料に改めた。

【インターネット検索】

今日のインターネット情報の隆盛には目を見張るものがある。『腕木通信』（朝日選書、2003年）の著者、中野明氏があとがきに「インターネットがなければ腕木通信について書けなかった」と記しているように、情報検索に不可欠のものとなってきたといえよう。

本研究においても、本誌63・67・72号などで、インターネット検索の結果を利用した報告をまとめている。ヤフーの検索がよく知られているが、検索エンジンはグーグルのものが使用されている。他の検索サイトも同様で、同じキーワード検索をすれば同じ結果が出ることになる。

今回、新たな検索で得られた旗振り通信の情報を紹介することにしよう。

【旗振り通信の再現実験】

インターネットで検索してみると、「岡山市民の文芸　歴代優秀作品集」の中に、以下のような桑島氏による2編の随筆が収録されていて、旗振り通信の再現実験に立ち会った際の生の証言が得られて興味深い。なお、文中には、教賀および芥子山で旗振りが行われたように記述されているが、筆者が先に公表してきた資料によれば、それらを裏付ける証言は得られていない（本誌58・70号参照）。

随筆　―第15回（昭和58年度）―

旗振り通信の再現　　桑島一男

岡山市奥市の護国神社裏手の高台に、「旗振台古墳」と呼ばれる一角がある。もともとこの古墳は五世紀頃に作られた山頂式古墳で、先年発掘された際甲冑、鉄刀、メノウ玉などをおびただしく出土し、操山一帯に多い横穴式古墳の中でも珍しい方墳として知られているが、反面その名のとおり旗を振って通信し合った歴史上の地としての由来を知るものはあまりない。

江戸時代に全国経済の中心地として繁栄した大阪では、早くから堂島で米相場が立ち、この相場の刻々の上下を少しでも早く各地の仲買人へ伝えるために考案されたのが、「旗振り通信」で、大阪を起点に東は尾張名古屋を経て浜松まで、北は敦賀、南は紀州和歌山、西は岡山から遠く馬関（現在の下関）にまでも達していたというから、当時としては最新の連絡手段といえた。

もちろん旗の振り方には一定のきまりがあったし、曇天の日には黒い旗をよく晴れた日には白旗を使うなど細かい心配りのうえに、肝心のもうけに直接響く通信内容を盗み取りされないため、適宜の日数を置いて通信に使用する数字の振り方を変更するといった、秘密保持への対策も慎重に講じられていた。

この米相場専用の「旗振り通信中継所」が、関西地方に多い「旗振山」「旗振岡」の地名の由来で、奥市の旗振台古墳の名もここから出ており、江戸中期から明治三十二年まで、この場所で伯耆富士の芥子山から送られてくる旗の合図（一日に三回）を精巧な遠眼鏡で見ていて、そのつど旧船着町三〇八番屋敷にあった帳合浜（ちょうあいはま＝米会所のこと）へ知らしていたということである。

たまたま一昨年の春、私のところへ一面識もない関西在住のある会社員が尋ねてきて、数年前に私が刊行した本の中の「旗振り通信」の記事を見てこれをぜひ再現したいので援助してくれという申し出があった。

もちろん私は快諾して、以来二人で中継点の設定やたびたびリハーサルを重ねた後、年末も押し迫ったその年の十二月六日の日曜に関西ボーイスカウト百余名の応援を得て、大阪堂島―岡山間百七〇キロの遠距離を二十六の中継基地でつなぎ、昔の史実どおり旗振り通信の再現に挑戦した。

当日、京橋町の旧岡山電信局跡（京橋西詰森崎屋前附近）へ最終受信所を設定し、私がその責任者となって直接受信に当たったが、事前のリハーサルで現在の旗振台には松の大木が乱立していて見とおし困難のため、やむなく臨時に中継点を国際

旗振り通信成功

大阪―岡山 167.2キロ間

2時間20分で伝達

米相場27地点中継し

ホテル屋上へ移動した以外はすべて順調で、前後三回にわたった堂島発信の通信文も、これに並行して電電公社経由によった正規の電報文と照合して一字の誤りもなく正確に受信でき、詰めかけた多くの報道陣から賞賛の拍手を浴びたものである。

思えばこの日は、私にとって多年夢みたロマン再現のその日であり、また一面岡山市民へ郷土再発見を勧めるささやかな一石の企画となり得たのではなかろうかと、今に自負している。

随筆 ―第19回（昭和62年度）―

再現できた旗振り通信

桑島一男

はるか遠くの、肉眼では到底それと見分けもつかないポツンと小さな点に似た旗が、岡山国際ホテル屋上に待機していた隊員の手によって左右に振られ、さあいよいよ待ちに待った通信開始である。

双眼鏡片手にじっと覗き込むように旗の動きを見詰めていた本日の副指揮でもあり今回の旗振り通信再現の実行委員長でもある関西大学三年生清野君が、「ホンジツノコメソウバハ、サンジュウイチエン二十四セン・・・」と、一字一字大声ではずむように読み上げる。

あらかじめ用意しておいた受信用紙へ通信文を記入しながら、私の胸は青年のように躍った。

無理もない。野越え山越えはるばる百七十キロ離れた大阪堂島発信のこの電文は、途中二十六ヵ所に設定した中継点を経て、しかも関西ボーイスカウト五十名の若き同志の全面的な支援によって人から人へと伝わり、今現にこうして岡山市京橋の旧岡山電信局跡へ設置した最終受信所へ間違いなく伝えられて来ているのだから。

思えばこの日のために一年近くを人知れず用意した私だったし、一方ボーイスカウト側は休みごとに念入りなリハーサルを高層建築や登るに適なき山の頂で繰り返してきていたのだから、是が非でも私は成功させたかった。

それが新聞、テレビのマスコミ取材陣が朝早くから旭川畔のゴール地点へ押し寄せ、私と清野君の二人を取り巻いて今や遅しとその一刻を待ち構えているというのに、予定の第一回通信の午前十時がかなり過ぎても一向にそれらしき動きがなく、そのうち並行して発信した電電公社経由の正規の電報は発信後二十数分で私の手元に届いたものの、肝心の旗振り通信は全然音沙汰なしというのだから、内心私は気が気でなかった。

念のために最終受信所の責任を私と二人で分担する立場の清野君が携行したトランシーバーで順次照会した結果、思いがけぬ神戸市内から明石方面へかけての濃いスモッグ発生のため見通し困難による遅れと判明。急き対策中との無線連絡で待つことしばし、やっと―本当にやっとの思いで第一信の入手が開始したのだから私の感銘も一入であった。

江戸時代から大正の初期へかけて、大阪堂島の米相場を全国各地へ旗振り通信で伝えた史実についてはかねて承知していたし、岡山県下に残る遺跡についても私なりに発掘を心がけていたのが、機が熟して約七十年振りに全国に先駆けて再現できようとは夢にも思ってみなかったことである。

記者陣の注文にこたえて何度も清野君と握手を交えながら、「嬉しいの一言です。文献では承知していたが、これが再現できたのも多くの人の協力のたまもの。研究者の一人としてありがたいことです。」とただただ繰り返す私だった。

【千里山三本松】

千里山三本松における旗振りについては本連載初回（57号）で紹介したとおりである。

吹田市のホームページ（最密にはウェブサイト）の「市民のおすすめの景観ポイント・大切な景観ポイント」である「歴史の景観」七カ所のうちの一つとして、次のようにある。

五里山　「五里山」とよばれる千三小学校北側の小高い山は、かつて電話などのない時代に「米相場」の情報を旗を振って伝えた場所（江戸中期から大正初期にかけて利用）と言われています。

五里山について、もっと詳しい説明が、次のように別のサイトに紹介されている。

三本松／五里山／垂水西原古墳

吹田市内最高所（83・05m）とされるのが、ここ三本松である。河田山一帯が桃畑として花見客で賑わった明治期には、眺望の地として知られた。また、大阪方面からの手旗信号の中継地にもなっていたと言われる。千里山住宅が開発された後も、山頂付近はそのまま残り、南側の山腹は桃畑として利用されて、果樹園山の名残をとどめていた。現在は、雑木が厳重に遮られ、山頂に直接近づくことはできない。旧桃畑は、若干の果樹・庭木の育成に使用されている。

この一帯は、旧佐井寺村と旧垂水村の境界で、三本松周辺の丘陵地の大部分は旧垂水村字五里山に属する。頂上からの眺望が周囲九里に及ぶということなのだろう。五里山の呼称は、少なくとも1970年頃までは、地元で通用していた。

三本松山頂から尾根を西南に下ったあたりは、現在では山が削られてマンションになっているが、石室の残欠と思われ

る出土品が発見されたことから、大型の前方後円墳であったと推定されており、垂水西原古墳と命名されている。ここから名神を越えて南側は、千里丘陵の南縁部で、弥生時代以降の遺跡が重層して発見されている。三本松・垂水西原古墳一帯は、古墳時代に垂水に住んでいた氏族の祭祀の地であったらしい。

【須磨旗振山】

「旗振り通信」のキーワードで検索すると、「旗振り松（通信）」の項目が現れる。これは、関西外国語大学短期大学部の上山清二「情報処理概論」に収録された「情報夜話（情報千一夜物語）」の中の一編である。「情報夜話（情報千一夜物語）」は、関西外国語大学を2000年度をもって退職された金谷信之先生の作品である。

エピソード「旗振り松（通信）」には、旗振り松（鶴の松）、旗振山（交野市）、旗振山（須磨）、旗振台古墳、石堂ヶ岡（石碑の紹介がある）が取り上げられているが、先行文献によってまとめたもので、本誌57・62号等の情報に付け加えるような情報は含まれていない。ただし、2カ所に、参考になる情報があるように思われるので、その一部を紹介しておこう。

「神戸の須磨浦の北の山にも旗振山（標高253m）がある。ここでは、麓の部落に住んでいる旗振人が、弁当を持って毎日登ってきて、東にある高取山の中継点で振られる旗を、望遠鏡で懸命に見ながら旗を振ったと云われており、旗は白旗で、快晴の日は登半分ほどの小旗、曇天の日は登一枚ほどの大旗を振ったと云う。」

「旗を用いる通信法として本格的なものは手旗信号である。これは、両手に小旗を持って直立し、旗をあげて作る形の組み合わせで、カタカナ、もしくはアルファベットを送るもので、長い文章も送ることができる。電気通信が発達した今日においても遭難などの最悪の状態における最後の通信手段として国際的にも採用されているが、それらが未発達の明治時代には軍隊を中心に盛んに用いられていた。特に海軍では、艦隊を組んで移動する軍艦の間の連絡には専らこの手旗信号が用いられていたようで、明治三十八年の日本海海戦の戦記などを読むと、この手旗信号のことが盛んに出てくる。ちなみに、この手旗信号の弱点は当然のことながら夜と霧である。」

この二つの記事のうち、前者に関しては、「歴史と神戸」83号（第16巻第3号）の菅尾治兵衛「旗振り山について」によれば、この旗振人は多井畑の宮廻兵吉さんで、大風呂敷の柳こおり弁当を肩に掛け、栂尾山（鉄拐峰）（毎日登っていたとあることから、旗振山（標高253m）のことではないようである。須磨の旗振山の山頂から米相場が伝達されたことは間違いないだろうが、こういった厳密でない記事には注意が必要である。

内田康夫『「須磨明石」殺人事件』（光文社文庫、2003年）には、須磨浦公園駅の改札駅員の言葉として、「鉢伏山から尾根伝いには鉄拐山へ行く途中に、旗振山というのがあって、そこは昔、大和の国と西の吉備の国と通信するのに、旗を振って合図した所やいう話は聞いたことがありますけど」とあって、ストーリーは「旗振山殺人事件」へと突き進んで行くのだが、米相場のことに全くふれられていないのは不思議である。（つづく）

（平成15年11月10日成稿）

槍ヶ岳山荘「穂苅康治氏」と歩く！どっぷり上高地から氷河公園

穂苅 康治氏 ほかりこうじ

ゆとりの槍沢ロッヂに2泊！ゆったり紅葉を楽しむ！

大正池、上高地、明神、徳沢、横尾、槍沢、そして日本のマッターホルン、槍ヶ岳の姿を眺し出す天然の氷河公園までを3泊4日のゆったり行程で楽しみます。特に本企画は槍沢ロッヂに2連泊しますので氷河公園までの不負な荷物はロッヂに置いていけます。体力に自信のない方にもオススメです。また特別ゲストとして槍ヶ岳を知り尽くす、槍岳山荘のご主人、「穂苅康治氏」が同行予定の特別企画です。お早目のお申し込みお待ちしています！

日程 10月2日(土)～5日(火)

代金 78,000円

海外より講師が来日！海外トレッキングの魅力についてたっぷり語っていただきます。

ネパール
ペンバノルブ シェルパ氏
日本隊への参加が多く、エベレスト、ローツェ、チョーオユーなどのピークを踏み、その他サーダーの指導力を発揮し、隊の成功を収めている。
9/3(金) 13:30～15:30 大阪中央公会堂 第6～8会議室 地下鉄・京阪淀屋橋より徒歩5分

ニュージーランド
小川明人氏
現在ニュージランド南島ミルフォードトラックの玄関口のテアナウ在住。自然全般に豊富な知識をもつ、人気ガイド。
9/24(金) 13:30～15:30 大阪中央公会堂 第4会議室 地下鉄・京阪淀屋橋よりは歩5分

南米
パトリシオ・ティサレマ氏
エクアドル山岳ガイド協会（ASEGUM）の公認ガイド。アコンカグアなど中南米の高峰はもちろん、ヨーロッパの名峰も数多く登頂。日本語も堪能。
10/13(水) 13:30～15:30 大阪駅前第4ビル7階 弊社オフィス 大阪・各線梅田駅より徒歩

お問い合わせは… 山旅専門旅行会社
アミューズトラベル株式会社 国土交通大阪登録旅行業第1366号 日本旅行業協会正会員 ボンド保証会員
〒530－0001 大阪市北区梅田1－11－4 大阪駅前第4ビル7階
☎06－6456－3366 ホームページ http://www.amuse-travel.co.jp E-mail:antosa@amuse-travel.co.jp FAX 06-6456-3377

文学歴史探訪ハイク ⑱

高野山壇上伽藍へ詣でて

松永惠一

紀伊山地の霊場・高野山

平成16年7月1日「紀伊山地の霊場と参詣道」が、世界遺産リストに登録された。紀伊半島は豊かな降水量に育まれ、深い森林に覆われた神仏の宿る浄域。標高千数百㍍の山々が縦横に連なる紀伊山地は、険しく清浄な自然環境の中で、山岳信仰と山岳仏教を基盤として三つの霊場が形成された。修験道の拠点「吉野・大峯」、熊野信仰の中心地「熊野三山」、真言密教の根本道場「高野山」。これら霊場を結ぶ「参詣道」は、大峯奥駈道、熊野参詣道中辺路・小辺路・大辺路・伊勢路、高野山町石道。一千年以上にわたり人々の篤い信仰に支えられ、日本の宗教・文化の発展と交流に大きな影響を及ぼした。

日本人のアイディンティティの形成に重要な役割を果たしてきた地は、今もなお人々を惹きつけ、全国各地から夥しい数の信仰者が訪れ詣でている。

高野山は標高800㍍の山上の盆地。厳冬期は零下10℃前後を記録する。弘仁七年（816）、空海（774～835）は、真言密教の修禅の道場を開くために嵯峨天皇から高野山を賜った。伽藍を建立するにあたり、壇上の七里四方に結界を結び、七日七夜にわたり修法を行い続けた。天地上下、東西南北七里の内にいる悪鬼を追い払い、善の心をもって仏法を保護する、あらゆる善鬼神はここに住まいせよ、と祈った。

大門『高野独案内』

宗派を超えた霊場高野山は、朝野の広い信仰を集めた。キリスト教を日本に伝えた宣教師フランシスコ・ザビエルは、1549年に送った書簡の中で、高野山を日本の六つの主要な大学の一つとして紹介している。

高野山町石道は、高野山の運営と運営の便を図るため山麓の拠点として設けられた「高野政所」（九度山慈尊院）と山上までを結ぶ参詣道である。

飛行三鈷杵

飛行三鈷杵（重要文化財）と名付けられた金銅三鈷杵が高野山に伝わる。

延暦二十三年（804）、空海は唐に渡り密教を学ぶ。翌年、長安・青龍寺の真言密教第七祖恵果和尚から、胎蔵・金剛界・伝法のすべての灌頂を授かり、遍照金剛の法号を授けられ、真言密教の正当な後継者となられた。

『今昔物語集』は、大同元年（806）帰国する空海が、唐の明州の高き岸に立ち祈り、三鈷杵を日本の方に向かって空高く投げ上げ、「密教を世に広める最適の地に落ちよ。」と唱えたと伝える。

竜猛菩薩から恵果和尚までの真言七祖に相伝された三鈷杵は、遠く飛行して高野山に至り松の木に懸かったという。

この「三鈷松」は、三鈷杵の先が中鈷・脇鈷と三つに分かれているように、葉先が三本に分かれている。この「三鈷松」の松葉を拾って持っていると、必ず良い事が起こるといわれる。

厳重に保管されてきた飛行三鈷杵は、「空海と高野山」展（和歌山県立博物館・平成16年10月9日(土)～11月23日(祝)）で、実物を見ることができる。

犬に導かれて

『今昔物語集』巻十一に残された話。弘仁七年（816）6月、唐の国で投げ上げた三鈷杵の落ちた地を探すため、空海は京の都を旅立った。大和国宇智郡（奈良県五条市）で、1人の狩人に出会う。赤ら顔で、身長八尺ばかり（約2・4㍍）、青色の小袖を着て、弓高く筋太の偉丈夫で、弓矢を携え、大小二頭の黒い犬を引き連れていた。狩人は「私は南山の犬飼です。あなたの投げた三鈷杵の落ちた所を知っている。この犬に案内させましょう。」と言って犬を放って走らせると、犬は消えてしまった。

空海は紀州の境の大河（紀ノ川）のほとりで泊まる。1人の山人に出会い、「ここより南に平原の地がある。そこがあなたの尋ねている所です。」と教えられた。翌朝、この山人につきそわれて行くと、「私は山の王です。この土地を差し上げましょう。」と言った。さらに奥深く、山を登って行った。到った山中は鉢を伏せたような地形で、周囲には八つの峰がそびえ、巨大な檜が竹林のように並び、そのうちの一本の檜の股に唐で投げた三鈷杵が燦然と輝いて突ささって いた。空海はあまりの不思議さに打たれ、この地が伽藍建立の霊地と知った。

山人は丹生の明神（丹生都比売神社）と名乗り、狩人は狩場明神（高野明神）であると告げた。

『今昔物語集』には記載されていないが、この時、高野山の地主である狩場明神と空海の間に、取り交わした土地借用書があったという。神領地を十年間の約束で借り受けた空海は、あとでこっそり「十」の文字の上に「ノ」の字を書き「千年」にしてしまった。高野明神が十年後返還を求めたが、千を盾に応じなかったという。また千年の借用書で借り受けたが、白ネズミが千の文字を食い破ったので、永久に借り受け、返還せずともよくなったともいう。

地主神、丹生明神・狩場明神が空海に高野山を譲った話は、神仏習合を物語る。また「丹」は丹砂・水銀のこと。丹砂は朱の原料。古代において、魔除・仏像などの金メッキ・染料・顔料に使用され、重要な資源であった。本来、丹生都比売は、その鉱物資源採取を生業とする丹生氏の奉じる神であった。空海は水銀の富をも手に入れたと想像できる。

御藍『高野独案内』

コース概観

「紀伊山地の霊場と参詣道」に登録された高野山は、空海が唐からもたらした真言密教の山岳修行道場として創建された「金剛峯寺」を中心とする霊場である。恵果和尚は千人余りもいた弟子の中から、入門したばかりの異国の僧である空海の卓越した才能を見抜き後継者に任命した。お大師様の壮大な構想力と、底知れぬエネルギーに触れたくて出かけてみた。

南海高野山駅から。バスで大門行終点下車。大門は高野山開山以来の表玄関。九度山町の慈尊院から町石道を歩いて、または自動車道を登ってきても大門が迎えてくれる。樹々の深い緑、蒼い空、そして鮮やかな朱色の門。開創当時は現在地より、下がった九折谷の谷底に木の鳥居が立っていた。高さが25㍍の入母屋造り銅瓦葺きの壮大な楼門は、宝永二年（1705）に落慶法要が行われた。金剛力士像の吽形像は大仏師法橋遍長の作。門の正面柱には「不闕日々之影向　検知處々之遺跡」の聯が掛かる。弘法大師は高野山を入定の地と選び定め、弥勒の浄土である都率天に居ながら、所々の大師に関係する旧跡には、必ず現れて衆生を救済したまう「同行二人」の信仰を示している。門前からの眺めはすばらしく晴れた日には遠く淡路島が望める。大門の左の赤い鳥居から20分ほど登ると、徴ノ弁天と親しまれてきた弁天岳（984・5㍍）に至る。

大門を抜けて壇上伽藍へ向かう。伽藍はサンスクリット語のサンガ・アーラーマの音訳で、本来僧侶が集い修行をする閑静清浄な所という意味をもつ。空海は聖域を結界する祈祷を執り行った後、地主神である丹生都比売明神、高野明神を勧請した。真言密教は、大自然・大宇宙と人間との融合と調和を説く。空海は密教の複雑な教義を、目に見える形で表現しようとし、高野山に立体曼荼羅世界を築き上げた。金堂（講堂）・御社（地主神）を中央に配し、東西に多宝塔の根本大塔と西塔を建立するという壮大なものであった。根本大塔と西塔は胎蔵、金剛界の世界を示し、西界の大日如来と四仏を安置する。空海は伽藍を中心とした一山を「金剛峯楼閣一切瑜伽瑜祇経」より金剛峯寺と名命した。現在も高野山の主な法会のほとんどはこの伽藍で厳修される。

高野山のシンボル根本大塔は、朱塗りの柱と白壁のまぶしい48・5㍍の威容を誇る。鉄骨・鉄筋コンクリート構造で、昭和十二年（1937）創建以来の旧規に従い再建された。本尊の胎蔵大日如来（真言ノウマクサマンダボダナンアビラウンケン）を中心に、四方に阿閦、宝生、阿弥陀、不空成就の金剛界四仏を安置する。周囲の16本の柱には堂本印象画伯の十六大菩薩を配して曼荼羅を立体に顕す。四隅の壁面には真言八祖像と花鳥を描く。

大日如来の世界を表現した塔内には、凛として張りつめた厳粛な雰囲気が漂う。

金堂も鉄骨鉄筋コンクリート構造で七度目の再建。昭和9年（1934）4月2日落慶式を迎えた。本尊の阿閦如来（真言オンコロコロセンダマトウギンソワカ）は、高村光雲師に制作依頼された。光雲に対して、灌頂を受けること、造像材は高野山の檜材を使用することなど七ヶ条の条件が提示された。光雲は79歳。「若い人達に依頼されては」と言うと、「お前が彫刻を終わるまでは高野山で祈祷をしてお前を死なせない」と言ったので、大変うれしくなって引き受けたという。建物内部の壁画は木村武山画伯の「釈迦成道驚覚図示の図」と「八供養菩薩」。

御影堂は大塔の西に南面し、堂前には「三鈷松」がある。空海の持仏堂・念誦堂とされる建物は、弘化四年（1847）の再建。ゆるやかな屋根の勾配と深い軒をもつ五間四面の宝形造の優雅なお堂。内陣には、高弟、真如親王が大師在世中に筆写し、大師自らが開眼したと伝えられている御影が祀られている。後世多くの御影が制作される原本ともなったお姿は、頭を右に向け胸衿の開いた編衫と袈裟を着けて、右手に五鈷杵を執り胸前に当て、左手に念珠を持ち、椅子に坐す弘法大師像である。

准胝堂の木尊の准胝観世音像は、大師自ら彫刻されたと伝えられている。

孔雀堂は、後鳥羽上皇の御願により祈雨の修法をするために創建。本尊の孔雀明王像は、仏師快慶の作として有名。

西塔は伽藍の西北隅に、巨杉に囲まれるように建っている。天保五年（1834）の再建、本尊の金剛界大日如来像は開創当時の作で、高野山に現存する最古の仏像として知られる。重要文化財。

金剛峯寺山王院本殿は、創建期に鎮守として勧請された丹生・高野明神を神殿二棟に、気比・厳島明神、十二王子、百八十体神を総社一棟に祀り、鳥居と透塀で囲んでいる。

不動堂は高野山で現存する最古の建造物。国内でも貴重な平安貴族の寝殿風の建築である。

大塔の鐘は高野四郎とも呼ばれ、日本で四番目の大きさを誇っている。

樹齢数百年の巨木に囲まれ、厳かな雰囲気の漂う「壇上伽藍」は、初夏には石楠花が華麗に咲き誇り、秋は楓などの紅葉に彩られる。

＜コース＞

南海高野山駅（南海りんかんバスで16分）
大門・壇上伽藍
＜地形図＞2万5千＝高野山
＜費用＞難波駅～高野山駅　1230円
（鬼い合わせ先）
金剛峯寺　0736（56）2011

〈山のレポート〉

「糸魚岳」

西尾　寿一

糸魚岳（914・4㍍）は北海道旭川市の北東、上川郡下川町と朝日町の境にあって、天塩岳を水源とする天塩川と名寄川との間を、天塩岳から西走する支脈の末端付近の一隆起である。

山容は南北に非対称で北にフーレベツ川（赤い川）のゆるやかな源流部をもち、南に岩場を発達させ急角度にケナシ川から天塩川へ落ち込んでいる。

山頂に1等三角点が置かれているので、同研究会（「一等三角点研究会」）の坂井久光氏も朝日町側から糸魚岳の西の峠（林道あり）に出て、分岐する林道を使い切開きを登っておられる。しかし、山名については関心がなかったようで一言もふれていない。

この山に興味を示す人は少なく、山名にしても道内の岳人でも満足のいく解答を得られず関心もないようだ。1等三角点に興味のない登山者にとっては存在しないも同然の山である。

しかし、小生はその山名に引かれる。糸魚とはどんな魚なのか、越後の糸魚川市の語源と同一か否か、興味はつきないのである。

早速事典・図鑑類を調べてみる。図鑑では「糸魚」は4～5㌢のトゲのある淡水魚でトゲウオ科に属し、北方系で絶滅種に指定され、各地で保護飼育されているらしい。よく似た針魚は鈴鹿の山地の東西山麓で保護飼育されている。

しかし、イトヨとイトイが同一である確証は得られないし、糸魚川の語源も信頼できるものに出逢うことができなかった。ただ漢字を同一とするにはそれ相当の理由があったはずであり、手掛りはそれのみだった。

ハリヨ・イトヨは希少種になったが放に注目されているのは、同じ淡水魚でタナゴ系の魚と同じである。小生の子供の頃にはメダカ同様いくらでもいた魚である。それが環境悪化で絶滅種になろうとは。そんな可愛い魚が北海道の中央部でアイヌが特別扱いするほどの魚であったとはとうてい思えないのだ。

ヒグマやサケなど生活に直接関係する生物であってこそ地名に残されるのであり、イトヨ説はこの段階で脱落した。

次に地名辞典である。『北海道の地名』（山田秀三）と『アイヌ語地名解』（更科源蔵）では「糸魚はイトウで、アイヌ語で『チライ』と言い実在する地名として猿払の『チライカリベツ』をあげ、糸魚のまわる川。」としている。後者は厚岸町の糸魚沢をあげ、これは別寒辺牛川の東の支流である。両者とも湿地・湖沼からゆるやかに海に注ぐ川で流水量が多い。その川に棲む糸魚は実はイトウであってイトヨとは全く異なるサケ科の巨大魚であった。

またチライは知来と同じで北海道各地に散在しているごく普遍的な地名であり、漁場でもあったらしい。昔は多く捕獲されていたイトウも今ではイトヨ同様希少種になったことは地名語源探究のうえでも少なからず影響をもたらしている。つまり糸魚がまさかイトウであるとは考えなかった。『大辞泉』では「伊富魚」とあり「鱒」も一部で流通している。このうち前者は万葉仮名風であり、後者は国

字で比較的新しく、寿司屋などで使われている。前者のほうはいつ頃から使われたのか不明で、まさか万葉時代のものとは思われない。また一部で「冬魚」とするものがインターネット上に現れるが出自は明らかでない。

イトウは全長1・5㍍で、幼魚は昆虫を成魚は小魚・カエル・ネズミ・蛇など何でも食す獰猛な魚である。「淡水魚」（九号・財団法人　淡水魚保護協会）では昭和十二年十勝川で2㍍を超える大物が捕れたという。10年で1㍍程度の生育速度からみて驚くべき長寿魚で、現在のはせいぜい1㍍ほどだろう。しかし、ロシアやモンゴルでは2㍍近いのが市場に出回っているらしい。

先の事典類でチライになぜ糸魚の漢字を当てたかは、すでにイトウの名が和人の間で使われていた証拠であるが、それならばイトウの名はどこから出たのか明らかにしなければならない。実はそれが困難なのだ。

チライがイトウであることは先に述べたが、アイヌ語ではチライの他に「オヘライベ」があり、両者の関係も不明ながらアイヌ社会でも別名が使われた可能性もある。それは一応措くとして、問題はイトウという語の出自である。

本州でイトウが棲んでいる東北地方の文献を見ると、『続津軽文化誌』（松本明）では「喜良市」付近にイトウが遡る川があり、それを「キライオチ」とする場合、津軽方言ではチ音がキ音に変化する可能性を指摘する。

つまりキライはチライの変化とみたのである。これによって東北地方にイトウがいる証拠となるが、ここでも「イトウ」でなくアイヌ語のチライが生きていることに注目したい。

しかし、この本の中で、チライとイトヨ（糸魚）が同一種であると錯覚していて、ここでも漢字のもつ害が指摘できる。資料類がイトウとイトヨを区別する明確な表現が使われなかったことによって、多くの人が両者の混同に傾いていたのである。そして決定打は北海道中央部の1等三角点の置かれた山に「糸魚岳」の名が現れたことである。

ほとんどの資料は、これをチライであり和訳して糸魚であるとしている。この和訳こそは単なるあて字にすぎなかったのに、偶然にも同じ漢字で表現された魚がいたから混乱のもととなってしまった。しかし和訳した人たちは、この地に確かにイトウが棲息していたことを示す証拠をにぎっていたはずなのだ。それは遠い歴史のかなたに去ったのだが……

糸魚岳付近の川の名にチライベツ・知来がないか、5万図の「岩尾別湖」と「下川」を調べてみたが不詳だった。しかし、付近に銅鉱山が古い地図にある。

つまり糸魚はイトウという魚であって、この山の周辺に確かに生存し、アイヌたちが捕獲していたのであり、その事実を反映した山名であるということである。

だが次の謎は残った。

A　イトウとは和名かアイヌ語か出自は？

B　チライとオヘライベは同一別名か？

C　チライをなぜ糸魚と和訳したか？

D　伊富魚・冬魚・鱒はなぜ生まれたか？

E　糸魚がなぜイトウとして流通しないのか？

調査が手詰りとなりかけたころ、図書館で一冊の本を見つけた。『魚の辞典』

（東京堂書店）で、イトウの名称の種類をあげている。正式名に「伊富魚」をあげるのは各辞典類の特徴であるが、別称・方言として次の名をあげている。「イト・チライ・オヘライベ・イド・イトオ・オビラメ」などが北海道・東北北部で流通した模様である。

オビラメは銛で捕る魚の意で必ずしもイトウに限らない。イトオはイトウと同じで、他はアイヌ語と思われる。とするとアイヌ語圏であっても地域の方言であったわけでイトウは、その内の一つだったようだ。

最も注目すべきは、最初に出てくる「イト」でアイヌ語辞典では脂肪だという。直接魚を表現するものではないが、イトウの魚体の特徴を表している。とすると、このイトに魚を表すウまたはオを付す模様となり得よう。

イトウはやはりアイヌ語の借用であった可能性が高いとみるのが当然で、後に和人が若干の手を加えたものとみたい。

他の資料ではイトウが大きすぎて川を堰き止めたり、釣ったイトウが大きすぎて持ち帰れずに山刀で三枚に切放し肉だけ持ち帰ったりする話が連綿と出てくる。またアイヌの魚皮沓は本来はイトウの皮が強靭で良かったと言い、肉は刺身でも焼いても、ルイベでも美味と言うが、他の本では大味で良くないとするものがある。

松浦武四郎の『石狩日記』では、「カムイコタン川を遡って数十日の場所にチョウザメがいるのは不思議で四尺くらいのを一匹捕えた。また三尺くらいのチライを取った。」とあるが、大型魚ファンには涎の出そうな話である。

開高健の大物釣り趣味は有名で、モンゴルやシベリアへ釣行していてイトウも釣っている。国内でも特別保護種でないようで、けっこう釣った経験を語る人が多い。

結論として推測ではあるが、「イト」に魚を当て、これをイトイまたはイトウとなり糸魚となったとみている。またアイヌ語で山名が付された事実を確認できないが、糸魚岳のことをイトイ山または、チライ山とあったのを和訳し、漢字を当てた可能性もあるかも知れない。

小生は1等三角点マニアではないが、この地方では見逃せない山である。いつか登ってやろうとチャンスを待っていた。

平成15年、北海道で単独行の山旅を続けている岳人と出会った。岩尾内湖（ダム）の一角にすばらしいキャンプ場があり、日を決めて落ち合い糸魚岳に登る話をする。彼は美しい山ばかり登っているので始めは渋ったが、ようやく納得して実現した。糸魚岳の西の峠へ長い悪路をたどり、峠の三叉路を東へ入る。頃合いよく切り開きを見つけて1等の山頂へ。小広い切り開きだが展望はない。

山麓からもガスで山容が見えなかったが、急角度からみて東南方向は崖になって、本当の姿は厳しい形をしているものと思う。

結局この山の全体像は一度も見ずにこの地を去ることになってしまった。

イトウとはまさにそのような茫漠とした存在だったのである。

〈山のレポート〉

《山・詩・夢》

国破レテ山河在リ

紀平　龍雄

国破レテ山河在リ
城春ニシテ草木深シ
時ニ感ジテハ花ニモ涙オ濺ギ
別レオ恨ンデハ鳥ニモ心オ驚カス

戦に敗れ、国都は破壊されたけれど、山や河は昔のままであり、街にはまた春が訪れて、草木が生い茂っている。

しかし私は世の変遷に、おもしろかるべき花を見ても涙があふれ、家族との別離を思うと、鳥の声にも心を痛ませる。

言うまでもなく杜甫の「春望」。安禄山の乱で首都長安は蹂躙され、人々が営々とつくり上げてきた建造物も破壊され、燃え尽きた。それが一応鎮圧された春の嘆きである。しかしまたほっとした安堵であり、希望でもある。人工のものは失くなったが、自然は今まで通り健在である。山も河も元のまま、それに花は咲き、鳥も囀っている。

少々のことでは山も川も破壊されないし、そこに生きる花も鳥も健在である。人間は山や川に、花や鳥に励まされて生活を再開するだろう。おいおいと街は復興するだろうし、家族と再会する日もあるにちがいない。自然あってのことである。中国だけのことではない。日本でも「兎追いしかの山、小鮒釣りしかの川」と愛唱されている。山や川はいつの時代にも人々を元気づけるのだろう。

ところが、最近、その山や川がおかしい。人々を元気づけてくれるべき山河だが、それを見るたびに心痛ましく思う光景が多い。そんなことが思われてならない。山はどうなっているのだろう。

林業。戦前、庶民生活の燃料の主力だった薪炭に、電気・ガス・石油が取って代わった。他方、外国から安い木材が輸入され、日本の林業・山村は衰退の一途をたどっている。新築に際してその方が安いからと、山持ちでさえ自分の山から伐り出さずに外材を利用するという。

植林。日本の豊かな山林は戦争で多くが伐られた。残った樹木も戦災で焼けた住宅その他の需要で戦後、またたく間に伐採された。多くの山がハゲ山になり、崖崩れや洪水が頻発した。また、材木需要があって、昭和30年代以降、急速にスギやヒノキが植林された。しかしこのような常緑樹一点張りの植林は日本の山に相応しくなかった。景観も壊れた。ぼつぼつ伐り出し時分になったスギ・ヒノキは海外からの安い木材供給に抑されて歓迎されない。間伐も手入れもされぬまま、荒れ放題の山が泣いている。

里山。戦後の燃料革命は薪炭業を追いやり、目的がなくなった村人は山に入らなくなった。里山の恩恵が減少し、人々の生活と里山の関係が希薄になり、里山の荒廃は助長された。

林道。こんな所にと驚くような奥山にまで立派な林道が通じている。確かに木材の運び出しは便利になっただろうが、そんなトラックはあまり見かけない。都会ナンバーの、どうやら登山者らしい四輪駆動車が駆け抜ける。樹木を伐り倒して山の中を舗装し、自然を壊して、排気ガスを出す。マイカー登山には随分と便利になったが、歩く登山者には林道は無

用なもの。汗をかきかき歩いている時に吹きかけられる排気ガスは不快このうえない。

ゴルフ場。山林はどんどんゴルフ場に代わった。樹齢数百年の大木が惜しげもなく伐り払われて安直な人工の芝生になった。ふんだんに殺虫剤が散布され、生物も消えてしまった。地下水や山麓は徐々に殺虫剤に侵されているという。ゴルフ場が出来て昔からの道が切れ、遠回りをさせられたり、金網の側を歩かされた登山者も多い。

効用をすべて否定するわけではないが、縦貫道路やドライブウェイ、山頂に林立するアンテナやテレビ塔などが山の自然相を断ち、いかにも殺風景にし、景観を壊していることは否めない。いずれも資本主義経済の自然ななりゆきであり、個人の感傷は無力なものである。しかし雑木の山には金銭に換算できない美しさや安らぎがあるというのも感傷だろうか。

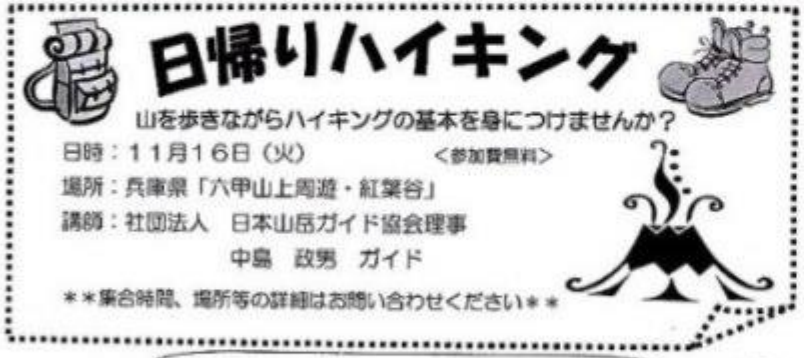
河（川）も同じ、いや、山よりももっと深刻かもしれない。大規模なダムや河川工事で確かに洪水などは減少した。しかしそのために水量が豊かだった河川ほど水が涸れてしまった。川は排水路のように人工的に直線に矯正され、汚い水が流れている。「危険、立ち寄るな」の標識ばかりが目立って、子供たちは川から遠ざけられた。もっとも、三面コンクリート貼りの川に生き物はいないから、子供たちも魅力を感じない。「〇〇画人が歩いた後には草も生えぬ」と言われるが、河川工事の後には草も生えず、生物は育たない。

黒沢明監督の「七人の侍」は日本映画の最高峰と言われる。脚本・俳優はもちろん、音楽や撮影などもそうだが、撮影舞台もその一つの要因だと思う。村の川は、橋が取り払われ竹矢来が組まれて防御壁になった。あれがコンクリートの堤防・鉄骨の橋では映画の面白みは半減しただろう。野武士が潜み、決戦の舞台となるのが裏山。あの山は植林の山ではない。山の入口あたりにはどうやら杉もあるが、あとは大部分が雑木の山。百姓が薪を伐り、山菜・果実を採る山である。大きなブナの木が何度も登場し、場面を盛り上げる。物見の野武士を待ち伏せるために、三船敏郎は木の上に跨って身を隠し、宮口精二は腕組みして根本に坐る。あの木は大きなブナでなければならない。

街や人工物が壊されても、山や河は簡単には壊されない。しかし山や河が一度破壊されると、その復旧には想像もつかない年月を要すると言われる。さらに山や河が壊されると人の心が壊される。

しかし悲観するだけではない、少しずつだが明るい材料も見え始めている。金銭価値だけでは計れない山の（景観への）再評価が始まっている。森林浴やハイキング・登山の効用が普及しつつある。ダムや道路など大型公共工事への見直しが指摘されている。「魚は山で育つ」、漁業者の山づくり・森づくりが行われつつある。ファーストからスローな生活への切り替えが、ハードからソフトへの対応の切り替えが始まろうとしている。人々の、山や川、自然への見直しが山河を育て、山河が人々の心を豊かにする。そんな一歩が始まる気配が感じられる。その動きに私も与（くみ）したいと思う。

＊《山・詩・夢》シリーズは今回で終了です。



説明会・日帰りハイキングともに予約制となります。
「新ハイキングを見た！」とおっしゃってください。

郵船トラベル株式会社　フリーダイヤル：0120-819-215

■大阪　〒541-0053　大阪市中央区本町3-2-6　ﾌｰﾊﾞｰ本町ﾋﾞﾙ7階
TEL：06-6251-9143　FAX：06-6251-9190　e-mail：kog@ytk.co.jp
■神戸　〒651-0085　神戸市中央区八幡通4-2-18　郵船航空福本ビル
TEL：078-251-7611　FAX：078-230-6488　e-mail：kkc@ytk.co.jp
ホームページ：http://www.ytk.co.jp

特選コースガイド(51)　湖北

（里山シリーズ22　長浜）

伊吹山展望最良地
臥竜（横山）丘陵縦走

一般コース（★　）

長宗　清司

JR米原駅から北陸本線で長浜へ行く手前の坂田駅から北方へ、琵琶湖側と反対（東側）に、低い山並が約10キロ長々と連なっている。この臥竜（横山）丘陵は長浜市・山東町の境界尾根で、三角点を六つも確認する楽しい縦走ができる。

今回は、合戦でおなじみの姉川に近い丘陵の最北端「龍ヶ鼻」から登り、南行する坂田駅までの縦走路を紹介する。

5分で着く4等三角点（147・6メートル）の標石は、茶臼山古墳の石碑（李王訪問記念の）と同居している。よく踏まれた山道を南進する。この道は関電の巡視路で高圧線の鉄塔が1キロ足らずおきに立っている。左右の山腹には県道が走っているのに距離があるためか騒音は届かない。小鳥のさえずりと梢を渡る風の音が爽やかである。

二つ目の三角点（3等311・9メートル）は横山の山頂にある。四方が見渡せる見晴らし台からは、北東に近江の最高峰、伊吹山の雄姿が山麓から頂上までの全貌が遠望できる。

昔、横山城は横山の北部山中に築かれた山城で、京極氏の支城として浅井氏が築城。姉川の合戦時には織田信長が布陣した横山北端の龍ヶ鼻砦を含めて称していた。

現在、遺構は北陵に三ヶ所、南西陵に八ヶ所、南東陵に十ヶ所以上の曲輪部が確認されている。憩いの場として横山ピクニックコースを整備し、東側（山東町朝日）にある観音寺口と、反対の石田口から登山道がある。ほかにこの尾根に登るには、坂田町と山東町村居田を結ぶ峠越えからの山道がある。

横山山頂から、さらに整備の行き届いた尾根を快適に歩く。足元や台地にはノイチゴや雑草がはびこり、少し分け入ることもあるが迷うことはない。三つ目の三角点（4等310・2メートル）は標石を見つけるのに手間どるが、鉄塔から少し東の高み、樹木が生い繁るピークの真ん中にある。風が通る小さな頂上からは、琵琶湖が美しく望める。

ここから巡視路はいったん集落の真上までくだって再び上がっているが、縦走はこのまま尾根上を南進する。道は荒れていたり採土場があったりと少し難儀する。

横山山頂から伊吹山の全景を見る

四つ目の三角点（鳥羽上の山）は2等（281・2メートル）である（体調その他の理由でここから下山したければ、東の支尾根をくだって鉄塔下に出て巡視路をたどれば北方集落、そして地下集落へ出て、伊吹山を絵のように映す三島池に立ち寄れる）。

再び、美しい雑木林の尾根の縦走路を少し上り下りして、277メートルのピークを越えて鞍部を登り切った所は名越山広場になっている。展望はあまり良くないが、ここからは散策道、下山コースとしていくつか紹介されている横山遊歩道案内板に従うとよい（ただし下山してもJR駅までは遠いし、バス便はない）。

今回は「山辺の道」を行く。やがて、散策コースを離れて本来の縦走路に入る。あとは所どころ「長浜熟年山歩会」が適切に立てた標識に従う。五つ目の三角点は小さな4等（274・9メートル）の標石。歩く道にポツンとある。

最後は「能登瀬～日光寺散策路」のりっぱな道に出る。道を左（西）にとって再び三方を示す三差路に着く。

「日撫山」と示す方向に向かう。さらに「展望台800m」の標識に従って行く。頂上の高圧線を過ぎてからしばらく行くと、左手の草むらの中に六つ目の三角点（4等239・9メートル）が見つかる（繁茂期はわかり難い）。

視界360度の日撫山展望台、顔戸山砦遺跡、不動岩・夫婦岩、そしてアミタビ遺跡、一本松、婆さん岩などを経て、日撫神社の境内に降り、縦走を終える。

あとは、顔戸集落の近江町役場前から大通りに出て右折し、交差点、新幹線下を通過。「飯」の交差点を右折し左折して正面に見える坂田駅に向かう。

＊マツタケのシーズンは、日撫山付近は立入禁止になるので注意すること。

（平成16年2月22日・3月17日歩く）

臥竜（横山）丘陵縦走付近略図

▲コースタイム▼

JR長浜駅（バス30分）今庄橋（10分）龍ヶ鼻（1時間）横山山頂（30分）310・2メートル（45分）鳥羽上の山（30分）名越山広場（30分）4等三角点（30分）能登瀬―日光寺散策路（10分）三差路（20分）日撫山展望台（40分）日撫神社（20分）近江町役場（30分）JR坂田駅

▲地形図▽2万5千＝長浜・彦根東部

（問い合わせ先）

長浜市観光協会　☎0749(62)3222

近江町観光協会　☎0749(52)3111

山東町観光協会　☎0749(55)2040

近江タクシー　☎0749(62)0106

湖国バス（長浜）　☎0749(22)1210

＊バス便は少ない

特選コースガイド図　東濃

2等三角点のある山
恵那山周辺の山々

山形　歳之

笠置山（2等・点名御笠置）

初級コース（★　）

中部山岳の山々に向かい、中央自動車道を走っていると、中津川あたりで右手に恵那山が大きな姿を現す。日本百名山の恵那山はさすがに貫禄がある。反対側左にはあまり高くはないものの、濃野を大きく引く秀麗な山が目に入る。

日本百名山も全て登り、念願の1等三角点峰の探訪も終了し、手近の山々を求めるようになって、あの山にも登ってみようと思った。

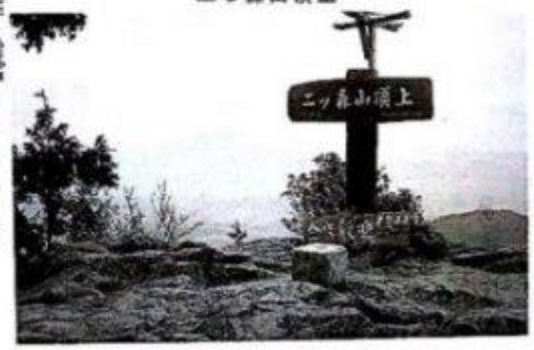
調べてみると、この山は笠置山（1127・9㍍）といわれ、背、中山道を通る旅人が京の笠置山を偲んで名付けたとのことだが、裾笠を伏せたようなきれいな形は、京の笠置山より余程美しく大きいと思う。地図では山頂近くまで林道が通じ、簡単に登れそうである。

中央自動車道を恵那インターで降り、北に向かって木曽川を渡る。八合目くらいに、「望郷の森」キャンプ場があり、そこまで車で登れる。シーズンオフのキャンプ場は人影がない。さらに砂利の林道を山頂直下まで入る。5～6台の駐車スペースと、トイレ・展望台が設けられている。

先客の車が二台ばかり停まり、平服で短靴姿の中年夫婦が、「400㍍程ですよ」と言う。林のなかを登って行くと、鳥居が見え神社が鎮座し、その前に2等の三角点が設置されている。展望は全くない。

神社の裏側一帯は奇岩怪石が点在し、ひかり苔等の周遊路が巡らされ、登って来た西斜面とは趣が違う。もちろん登山道もあるが、車道があるので歩いて登る人は稀だろう。（平成15年10月7日歩く）

⋀コースタイム⋁
登山口（10分）笠置山
⋀地形図⋁5万＝付知　2万5千＝切井



二つ森山頂上

二つ森山（2等・点名二つ森）

初級コース（★　）

笠置山の北東に位置する二つ森山（1223・3㍍）は、北側の切越峠から登る。一度恵那市に戻り、中津川市から高山市に通ずる国道257号線を北上し、福岡町から柏原川沿いに西に向かう。小さな農村が点在する道は、大型車通行不能の狭い道である。最後の農村を過ぎて切越峠に高度を上げて行くと、二つ森山の東麓にのびる林道が分岐する。調べた登山道は堀切峠からとあり、この私有林道からの登山路は示されていなかった。ところが、林道分岐に二つ森山の標示があり、舗装されたよい道がのびている。

林道をたどると、公園が現れ、さらに山に向かって車道がのび、結局九合目くらいの登山口に到着した。舗装された駐車場には休憩舎が建ち、トイレも併設されている。

丸太階段の遊歩道には「山頂まで500㍍」とある。少しの登りで稜線に達すると、「左山小屋　右山頂」とあり、簡単に山頂に登り着く。休憩舎と三角形のモニュメントがあり、大木の陰には石の祠がまつられ、古びた絵馬がたくさんぶら下がっている。

大岩の上が最高点で、2等三角点が設置され、南には笠置山が北には御嶽山が大きく望まれた。（平成15年10月8日歩く）

⋀コースタイム⋁
登山口（20分）二つ森山
⋀地形図⋁
5万＝付知　2万5千＝美濃福岡

三森山（3等・点名宮田）

初級コース（★　）

二つ森山が簡単に登れたので、周辺の地図を眺めていると、三森山（1100・3㍍）の名が目についた。

恵那市に戻り、国道257号線を南下する。岩村町に入り岩村ダムを目指す。ダムの先に駐車場があり、尾根に向かって三森神社の鳥居が立つ参詣道がのびていた。

参詣道だから道幅も広くゆるやかに尾根を登って行く。所どころに観音石仏が置かれ、八方に枝を広げ蛸のように根を広げたアカマツがあり、その後も松の大木が何本か現れ、やがて神社の入口になる。奥に物置のような社殿が見えていた。ここからは登山道となり、尾根伝いにひと登りで山頂に出た。林に囲まれた何の特徴もない尾根の一角で、展望もなく、ただ3等三角点が設置されているだけ。こんな山がなぜガイドブックに採り上げられているのか不思議なくらいだ。平日なのに二組もの登山者に会った。

縦走路はさらに北にのび、岩村城跡に周遊できる。（平成15年10月8日歩く）

⋀コースタイム⋁
登山口（1時間）三森山
⋀地形図⋁5万＝恵那　2万5千＝岩村

特選コースガイド 31

越前

伝統と信仰の山
飯降山（いぶりやま）

一般コース（★　）

金谷　昭

飯降山（884・3㍍）は越前大野盆地の西南にあって、その女性的な温容は同じ盆地の東南にある荒島岳の男性的な偉容と好対照となっている。

飯降山の山名は、その名の通り天から飯が降って来た故事から来ている。飯降山縁起によると泰澄大師が、この山におられた時、鍋や薪等の支度が無いのに大師が御飯を食べようとすると、天から飯が降って来たという。

その後、この山で修行していた3人の尼僧にも毎日飯が降って来るようになった。ところがある日、この飯を独り占めしようと企んだ1人の尼僧が次々と他の尼僧を谷底に突き落したので、次の日から飯は降らなくなったという言い伝えが今も残っている。

また荒島岳と飯降山とが高さ比べをして、双方の山の頂きに樋を渡して水を流した所、飯降山の方に流れ出したので、慌てて馬の糞を樋に入れたら水の動きが止まったという。

それ以後、小石を一つ持って登ると、一つだけ願いが叶うといわれており、地元の人たちには大岳（御嶽）さんと呼ばれ古くから厚い信仰に支えられ親しまれており、今なお6月の第一土曜日の夜には松明登山が行われている。

登山コースは飯降集落からと深井集落からの二つがあるが、深井コースは最近は歩かれず廃道に近いので、飯降コースを紹介する。

JR越前大野駅に降り立つと、正面にこの山が立ちはだかる。飯降集落へのバス便はなく、歩いても3㌔、約40分の城下町を見ながらのよい足慣らしとなる。マイカーなら福井から国道158号線を行き、バイパスに入り砂山トンネルを抜けすぐ右折すると飯降であるが、登山口は集落の外れの田圃から始まり、付近には駐車場が無く、少し離れた集落入口の公民館に了解が得られれば、三台程置かせてもらえる。

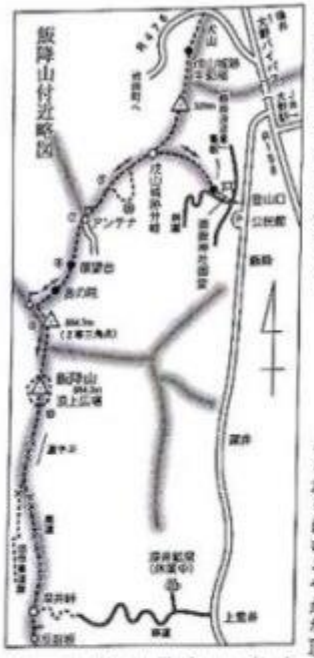
飯降山山頂広場

登山口には「飯降山・戌山城跡」の案内板と「飯降白山大権現」の石碑が建ち、鳥居をくぐって階段まじりの登山道を8分程登ると御嶽神社の御堂が出てくる。ここには麓からの林道が来ていて、この林道を約60㍍程行くと道の右側に「熊出没注意」の看板が置かれ、その右の尾根に歩道が山に向かっている、テープは付いているが道標は無い、ここを間違わなければ、あとは山頂まで一本道である。

アカマツの多い自然林のなか、よく踏み締められたゆるやかな尾根道を登って行くと、左側が伐採されて見通しのきく所が出てくる。これからは、しばらく緩急を交えた登りとなり、やがて右側から戌山城跡からの尾根道が合流する。このあたりからは右側自然林であるが、左側のアカマツのなかに巨大杉が見られるようになって急登となる。

そのうち「がんばれ・3」の看板が出てきて三合目となる。これ以後、10が山頂の各合目を示す道標がある。

「まけるな・4」の四合目では東側が開け、大野盆地の展望が得られる。対面する法恵寺山中腹に設けられたスキージャム勝山の広大な開発が痛々しい。



ここからすぐ左に水場への分岐があり、水場を経由しても登山道に戻れる。水場は山腹を捲いて行った所の小さな谷だが、潤れることが多いようである。

水場を経由した道と合流した所に「やっと半分・5」の道標が出てきて、さらに「6」を過ぎ、「7」の七合目には大きなアンテナとその管理道が出てくる。このあたりからブナ林に変わっていく。

「あとすこし・8」の八合目は展望台となっており、前方の展望が広がり小休憩によい所である。頂上に近づくにつれ傾斜もゆるやかとなり、やがて御嶽神社の奥の院と地蔵尊が出てきて、さらに少し行って左に折れる所には反射板が置かれている。

ここからはゆるやかな頂上稜線となり、すぐ2等三角点の置かれている「9」の九合目となる。最高点の頂上はさらに3分程行った所である。

頂上は中央の杉を背にした地蔵尊を囲む広い芝生となっている。東側が開かれて大野盆地とその背後の荒島岳を始めとする奥越の山々、さらにその奥に白山連峰を望むことができる。取り立てて見所のない里山であるが、眺望はすばらしいの一言に尽きる。

下山は往路をくだるが、上部の急登部分は雨後は大変滑りやすいので慎重にゆっくりとくだろう。

なお、以前は好ましい自然林の続く頂上稜線をそのまま縦走して、「深井峠」と書かれた峠部より深井集落に下山できたが、現在は歩く人もほとんど無く、峠付近は植林のための伐採とその後のやぶの繁茂が激しく、縦走路は廃道化し、おすすめできない。また地図にある深井鉱泉は現在休業中である。

（平成14年9月29日歩く）

▲コースタイム▼

飯降登山口（8分）御堂（1時間）水場分岐（40分）八合目展望台（7分）奥の院（2分）九合目三角点（3分）飯降山最高点広場（1時間30分）登山口

▲地形図▼ 2万5千�分の1大野

特選コースガイド④

比叡

比叡の本格的な滝
蟻ヶ滝から比叡山

一般コース（★　）

松尾　一郎

比叡山唯一の本格的な滝である蟻ヶ滝へは、近年坂本ケーブル（比叡山鉄道）の手によって登山道が整備された。今回はJR比叡山坂本駅から名瀑蟻ヶ滝を愛で、もたて（裳立）山の見晴台から展望を楽しみ、延暦寺から松尾坂を経由して八瀬にくだる。延暦寺周辺を除いて、人と出会うこともまれで静かな山歩きが期待できる。

比叡山坂本駅を出て、西に比叡の峰を仰ぎ国道161号線バイパス（上部は湖西道路の高架）を渡り、日吉大社への道路を西進する。程なく左に京阪坂本駅をやり過ごし、道幅が広くなってすぐ日吉大社に着く。ここから道路はゆるくカーブを描きながら直角方向に左折（南行）し、右に灯籠の建つ立派な階段の本坂登山路（注1）は見送る。比叡山高校校門前で藤の木（樋爪）川の橋を渡らず、右の大宮林道と並ぶケーブル坂本駅への坂道（舗装）を登る。坂本駅手前を左折して大宮林道と藤の木川をコンクリート橋で渡る。坂道はその先で左に日吉東照宮への道を分けるが、右の急坂道をぐいぐいと登って行くと、比叡山高校のグラウンド（野球場）の前に出る。ここで最初の道標に出会う。

蟻ヶ滝へはグラウンドと合宿舎の間のフェンスに囲まれた地道の細い小道を進む。このルートは昨秋（11月上旬）は草茫々だったが、幸い下草刈りが行われており快適だ。合宿舎を外れた先で道標に導かれ尾根に取り付き、檜の植林帯をぐんぐんと高度を稼ぐ。途中ロープに囲まれた吊り尾根状の道を通り、蓬莱峡への分岐（注2）を右に見送り、なおも尾根を登って行くと、蟻ヶ滝分岐に着く。

蟻ヶ滝への道標に従い右に入り藤見台を過ぎ、やや下り気味の小道をジグザグに7分程で滝壺に到達する。藤の木川源流の蟻ヶ滝（注3）は水量豊富で、比叡山系では大尾山西麓にある大原三千院奥の音無滝とともに本格的な瀑布である。滝壺は意外と狭く足場も良いとはいえず、10人がやっとの広さだ。滝壺左岸を見上げると懸崖にケーブルの高架橋が通っており、運が良ければ赤と緑のクラシックな電車（ケーブルカー）に出会えるだろう。この滝へのコースは2万5千地形図の京都東北部には記載がないが、ケーブルの高架橋が載っているので、蟻ヶ滝の位置は特定できよう。

蟻ヶ滝

蟻ヶ滝を見たあとは、滝分岐まで戻り尾根道を登る。途中石舞台と称する小展望台を右に、左に無動寺谷への道を見送り、植林から照葉樹林に変わったゆるやかな捲き道を軽快に歩く。やがて、無動寺谷コースから分かれた紀貫之墳墓（左側）からの尾根道に合流し、右に進みすぐに左に延暦寺への道を分け、その先の簡易展望台がある見晴台（もたて山）に着く。琵琶湖南湖と湖東方面の眺望がよく、ベンチもある休憩適地で、琵琶湖対岸の近江富士（三上山）が視認できる。

ケーブル延暦寺駅へは少し戻り、先ほどの少し下り気味の小道を西（右）に入る。ドイツ人大僧正墳墓への急登道を左に見送り、程なく簡便なケーブルもたて山駅を右にかすめる。ジグザグ道を登り切るとケーブルの急勾配線路が再び近寄ってきて、延暦寺駅の南側トイレの横に出る。桟橋状の通路を渡ると駅の南脇に着く。駅の北側は広場になっており、ここも南湖方面の展望がよい。延暦寺へは右の水平の舗装路を10分少々で行けるが、延暦寺東堂域内入口には木戸（改札）があり、拝観料550円を徴収している。ただし、ハイカーは、拝観しないで自然歩道を行く旨を申告すれば、特例的に無料で境内を通過（注4）させてくれる。

木戸から少し進むと、根本中堂へくだる広場に出て、延暦寺休憩所の「一隅を照らす会館」が「萬拝堂」と隣接して建っている。冷暖房の効いた快適な無料休憩所だが、寺の催物があるときは一般拝観者の使用が制約される。会館の地下には"蕎麦処"があり、セルフサービスだが味もよく下界より安価である。トイレは会館の外南側にある。

さて、松尾坂へは雲母坂道をしばらく歩く。「一隅を照らす会館」前の広場を西へ行き、右の舗装された登り坂道を進み、延暦寺バスターミナルへの道を右に見送り、広い階段道を登り切ると阿弥陀堂に着く。朱塗りの回廊の下をくぐり、坂道をくだると修学院への雲母坂道（地道）に入る。先ほどとは別の木戸（注5）をやり過ごし、右へ峰道（横川方面）の陸橋（比叡山ドライブウェイを横断）を分け、ゆるく登って行くと"国家鎮護"の石碑が建つT字路の分岐（注6）に着く。この分岐（右）が松尾坂を経て八瀬へくだるコースの入口である。道標はないが、京都市の東山トレイルの道標余白には、水性ペンで八瀬への略図が描いてある。やや下り気味の山道を進むと、やがて右から西望からの林道（未舗装）に合流し、ゆるい下り気味の林道を行く。林道周辺は最近植林の伐採が行われ、鹿除けネットが張り巡らされた明るい道であるが、山中のため展望はない。何度かの尾根・

蟻ヶ滝から比叡山・松尾坂付近略図

小沢をヘアピンカーブで越し、ひときわ顕著な沢（流れがある）の出合に着く。左側斜面に登る小道が分岐（道標なし）しており、テープや布が垂らしてある。ここが松尾坂への入口だ。林道はそのままどんどんくだって行き止まりになる。この地点を見落とさないように注意したい。

しばしジグザグ道を登ると、程なく峠状の鞍部に着く。右奥には僧侶の墓石群が見受けられ、左には山道（行き先未確認）が分岐している。八瀬へはまっすぐの下り道をとり、一本道の松尾坂をくだって行く。何の変化もない松の湿じった雑木の道で少し飽きてきた頃、右に精華女子高校のグラウンドと校舎が現れる。さらに沢を木橋で渡り休耕棚田を右に見下ろし、鉄の橋を越すと左からくだってきた舗装路に合流し、京福・叡電ケーブルの線路が近づくとケーブル八瀬駅の前に出る。桜と紅葉の名所、八瀬には茶店もありゆっくりするとよい。叡山電車の八瀬比叡山口駅へはすぐだ。

（平成16年4月24日歩く）

（注1）比叡登山の滋賀県側正面ルートで、以前は比叡山高校の裏を登る土の小道であったが、本坂と大宮林道が交差する上部に南善坊が建てられたときに、小道の拡幅と同時に大宮林道との交差地点まで立派な階段になった。

（注2）蓬莱峡経由で蟻ヶ滝へのコースは、以前は歩けたが悪路で、今は刈り払いされておらず通過困難である。

（注3）蟻ヶ滝の由来は平安時代初期、比叡山天台宗の開祖の伝教大師最澄が若かりし頃、比叡の峡谷の滝に打たれ修業に励んでいたところ、大蛇が真っ赤な大きな口を開けまさに最澄を飲み込まんとした。最澄は呪文を唱え大蛇の動きを封じ、大蛇を宥め、お前は本来悪蛇ではないので今後はこの滝を遍らすことなく、里人の水の守り神になれと教え諭したところ、大蛇は喜んで一匹の大蟻に変身し滝の中に消えた。以後、今日まで蟻ヶ滝は涸れることなく、豊かな水の恵みは里の田畑を潤している。

（注4）延暦寺境内は基本的には寺の私有地で、ハイカーは寺のご好意で拝観料免除で通過させて貰っているので、寺や他の参拝者には迷惑をかけないようにしたい。

（注5）寺域境内から外に出るときは、木戸に断わりを入れなくともよい。なお、比叡山の木戸（改札）は、東麓に四ヶ所、西麓に一ヶ所、横川に一ヶ所ある。

（注6）ここがこのコースの中のサミットで、標高約740㍍である。

▲コースタイム▼

JR比叡山坂本駅（10分）京阪坂本駅（15分）ケーブル坂本駅前（15分）蓬莱峡（10分）高校グラウンド（15分）蟻ヶ滝分岐（7分）蟻ヶ滝（10分）滝分岐（20分）無動寺道分岐（22分）見晴台（もたて山）（18分）ケーブル延暦寺駅（10分）延暦寺「一隅を照らす会館」（20分）国家鎮護の碑（30分）松尾坂分岐（30分）精華女子高校グラウンド（15分）ケーブル八瀬駅（5分）叡山電車八瀬比叡山口駅

▲地形図▼2万5千＝京都東北部

（問い合わせ先）

京阪バス　☎077（531）2121

江若交通バス　☎077（572）0374

特選コースガイド 51　鈴鹿

―続・近江側から登る鈴鹿の山々⑮

佐目子谷から水舟ノ池

健脚コース（★★★）

磯部　純

今回紹介するルートは、佐目子谷から水舟ノ池を訪ね、錦子ヶ口西峰、天狗岩を経てハチノス谷へ戻る回遊ルートである。特に、旧大峠からの下りルートは、かつての佐目村の人々が佐目子谷から御金明神へ向かった古い参拝道に当たっている。

岩野さんの例会では、6年前の9月に錦子ヶ口から水舟ノ池へ往復しているが、佐目子谷から水舟ノ池へ登るのは、この例会が初めてだった。

このルートは佐目子谷を上流へ遡り、姫ヶ滝の手前の拝坂尻から斜面に取り付くのだが、谷通行で11回もの渡渉を強いられる。橋も無く水に入らなければならない所も出てくるので、長靴、渡渉の服物を準備したほうがよいだろう。

永源寺ダム湖の佐目子谷入口広場から東へ向かい、林道終点から谷沿いの杣道を上流へ歩く。以前、ここから谷の狭くなった所には道は無く、鬼が棲んでいたという鬼坂（本誌55号52ページ参照）を越えて大平谷出合へ出たが、今では途中に崩れた箇所があるものの、谷側に付けられた道を歩くことができる。左下の谷には5㍍を超えるような大岩がゴロゴロあり、その間を滝になって水が流れている。両側から迫りくる斜面の間をぬって、谷上の道を歩く。

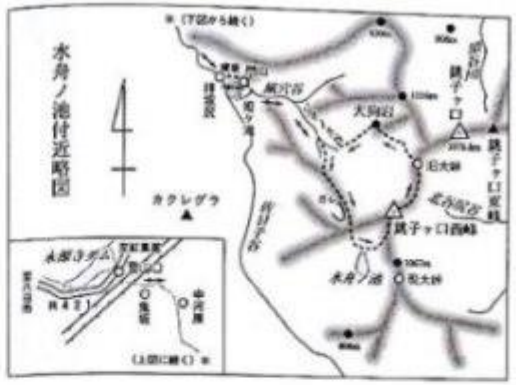
細い谷を抜け、広い河原に出ると、その先の左手に切れ込んだ谷のある場所が中河原。昔は僧の庵や郷もあったというが、今では田地・茶畑の跡が残っているだけで、昔の面影は全くない。広い河原の林を突き抜けて、谷が南へ曲がってから200㍍も歩くと、第1回目の渡渉。とにかく、浅そうな所を選んで渡るしかない。

谷が東へ方向を変えると、両側から急斜面が迫ってきて谷は狭くなる。このあたりに指合岩と呼ばれる岩があったと聞くが、どれを指すのかわからない。岩のゴロゴロした河原を歩き、大岩の間を通りながら、何回となく渡渉を繰り返す。谷が東から南へ向きを変えて、前方で右手へ廻り込む所が拝坂尻。「佐目の人達が御金明神へ参拝へ行く時に、この山の守護・龍王の乙姫が龍とまみえたことから名付けられた姫ヶ滝（33号43ページ参照）があっ

霧にかすむ水舟ノ池

て、通ることができないので、この拝坂尻から尾根を越えて風穴谷へ向かった」と言われている参拝道の取付地点である。その入口である浅い谷の下へ、最後の11回目の渡渉する。谷の西、すぐ向かいの岩には、鉱脈を探す試し掘りをした小さな穴が開いているが、それが目印だ。

谷というより斜面の切れ目のような急な狭い谷を登ると、周りは杉の植林斜面。



この坂道は「佐目の人々が塔尾の雨乞いの節、雨を下さるまでは帰るまい」と誓いを立てて登ったことから戒坂と呼ばれている。杉林の急斜面をあえぎ登り、やっと登り着いた所は、門口と呼ばれている乗越で、岩の門のように尾根が削られている。そこを乗り越し斜めに杉林の方へくだると、姫ヶ滝上流の風穴谷河原へ降り立つ。道標もテープも無い所なので、帰りに間違わないように印をつけるか、ハッキリとこの場所を覚えておこう。比較的ゆるい傾斜の杉林が谷まで張り出していて、谷から5㍍程奥に岩盤の見えている場所である。

谷には岩がゴロゴロしていて、広葉樹が谷をおおうように生い茂っていた。もう少し秋が深まれば、紅葉ですばらしい谷へと変わるに違いない。そんな情緒ある谷を登って行く。左に谷を分け、さらに右のハチノス谷を上流へ登ると、やがてはっきりした谷分岐へ着く。左の谷を登れば古い御金明神への参拝道で、天狗岩、大嶺（旧大峠）から、北谷尻谷をくだって垢離掻渓（こりかき）へ。さらに長谷を登って御金明神へと向かうが、この日の例会では右の谷を登り、水舟ノ池へ向かう。右の谷は浅く、中央の尾根は比較的ゆるい杉の植林だ。その中央尾根を登り、傾斜が急になるあたりから右手へ捲いて、右手上方に見える尾根へ登る。尾根は両側雑木林、北側斜面が杉と檜の混生する尾根だった。

その尾根を東へ登ると、途中に道跡と思われる溝状が左手の杉林から来ているのを見た。この道跡が古道か仕事道なのかはわからない。尾根は登るにつれ勾配が急になってくる。林の切れ目から見える右手の尾根があんなに高く見えている。滑らないように斜面を登ると傾斜がゆるくなり、杉林から自然林へ変わる。細い尾根の右手はガレ場で、見下ろすとどこまでも落ち込んでいる。左手に美しい自然林が広がる斜面を見ながら、急な斜面を登り切り、再び杉の植林帯に入り、ゆるい斜面を右手へ向かうと水舟ノ池だ。

この池は水舟溜・ハチス池・お金池・明神池とも呼ばれ、鈴鹿一大きな池だという。古くは御金明神と共に、雨乞い信仰の対象となっていたが、今でも水舟ノ池参りは細々と続けられていると聞く。ただ、池の周囲には、それを示す祠は全く見られない。この日は霧が深く、夢幻

ども思える水面を見ただけだったが、天気が良ければ水面に周りの山々が映り、すばらしい景観となろう。

先程の尾根まで戻り、銚子ヶ口西峰へ向かう。尾根を東へ登り、登る途中から左へトラバースすると、標高点1067㍍を捲いて大峠北にある尾根鞍部へ至る。尾根にはイブネへ向かう縦走路が通っており、斜面を北へ登れば銚子ヶ口西峰だ。天気が良ければ銚子ヶ口はもちろんのこと、御在所岳や釈迦岳等を見ることができる。

銚子ヶ口西峰から縦走路を東へ少しくだり、小ピークを二つ越えた鞍部が大嶺（旧大峠）。何の印もない鞍部だった。この峠からの下りは、昔の御金明神参拝道をたどることになる。峠から天狗岩へくだる古い参拝道が今でもほぼ残っているというが、道の跡はハッキリしなかった。ここからシロモジ林の斜面を西へくだり、右手の杉林の尾根に出る。尾根の北側には谷があり、斜面をトラバースして谷上部を渡り、次の小さな尾根をさらに横切ると、尾根に二つの大岩があった。その尾根の下方に盛り上がった林があり、その下の切り立つ大岩が天狗岩である。この日は霧で視界が遮られ、あたりの地形は全く見えなかったが、視界がきけば尾根へのると天狗岩が見えるので、多少の難渋はあっても斜面を右手へ突っ切ればよい。ただ、このあたりは地形図でも読み取りにくいので、霧で周囲が見えない場合には、知った人といっしょでなければくだらぬほうが無難だろう。

尾根をくだり、岩の下まで来て見上げると、御金明神が天狗に化身して現れたことから名付けられた天狗岩は、30㍍程の高さにそびえ立っていた。

大嶺からここまでの参拝道は、谷崩壊などで一部が消えてしまってわかりにくくなっているが、天狗岩の下まで来ると岩を敷きつめたような道跡がハッキリと残っている。道跡に従い尾根右手の斜面をくだると、やがて、斜面が谷の様相を示してくる。その右岸の杉林の台地をくだるとハチノス谷へと降りた。左と右手から谷を合わせ、さらに谷をくだると朽ちかけた木の橋があり、その橋の左手が朝に登ったハチノス谷分岐のゆるい杉林の尾根だった。後は登ってきた谷をくだるだけ。ひたすら谷をくだり、登る時に印をつけた風穴谷河原の杉林の斜面に着いたら、その地点から急斜面を登り、門口を乗り越して拝坂尻へくだる。そこから、再び、11回の渡渉を繰り返し、佐目子谷入口広場へ戻る。

（平成15年10月13日歩く）

（注）文中の下記の地名は、現在出ている案内書・文献と違っているが、佐目若宮八幡神社に伝わる保存文献から採った。指合岩・戒坂・門口（西尾氏は小峠と表示）・風穴谷・大嶺・長谷・垢離掻渓

△コースタイム▽

佐目子谷入口広場（1時間15分）拝坂尻（45分）ハチノス谷（1時間15分）右手尾根（45分）水舟ノ池（20分）銚子ヶ口西峰（10分）旧大峠（40分）天狗岩（40分）ハチノス谷（40分）小峠登り口（30分）拝坂尻（1時間15分）佐目子谷入口広場

△地形図▽

2万5千＝日野東部・御在所山

沿線ハイキングガイド

近鉄　京阪　阪急　南海　神鉄　山陽電車　叡電・京福
公開ハイク　歩け歩け大会　文学散歩　歴史散歩　その他

近鉄

▽南河内観光キャンペーン「古代の浪漫を訪ねて」　9月5日(日)小雨決行（集合）南海りんかんサンライン大阪狭山市駅9時30分～10時（コース）大阪狭山市駅―大阪狭山市役所（受付）―狭山藩陣屋跡―府立狭山池博物館―狭山池―吉川家住宅―狭山神社―千代田神社―沙ノ宮公園―滝谷不動明王寺―滝谷遺跡―春日神社―錦織神社（解散）―近鉄川西駅（約16㌔）参加自由・無料（拝観料別途）、南河内観光キャンペーン協議会事務局072（366）0011

▽奈良交通フリーハイキング「清らかなみたらい渓谷と観音峰登山」　9月9日(祝・30日(祝)小雨決行（集合）下市口駅9時～9時30分（コース）下市口駅（バス）天川川合―みたらい渓谷―観音峰登山―観音平展望台―洞川温泉（バス）下市口駅（約13㌔・健脚向）＊係員は同行しません。参加自由・無料（バス代2390円は別途）、吉野営業所0747（52）4101

▽近鉄万歩ハイキング「地蔵峠から吉野山へ」　9月11日(日)雨天中止（集合）下市口駅9時30分（コース）下市口駅（バス）地蔵峠―蔵王堂―吉野水分神社―竹林院―金峯山寺蔵王堂―吉野駅（約12㌔）参加自由・無料（バス代・拝観料等は別途）、大阪イベント係06（6775）3566

▽洞川温泉イベント「大峯山山伏修行一日入門」　9月11日(日)～12日(日)雨天決行（集合）洞川温泉観光案内所16時30分（コース）（1日目）龍泉寺水行場で水行、旅館（夕食）（2日目）旅館（バス）登山口―（夜間登山）―龍泉寺―山上宿坊（朝食弁当、希望者のみ裏行場へ）―山上ヶ岳大峯山寺―登山口（バス）旅館―龍泉寺（終了証授与）―旅館（昼食後解散）参加費10000円（1泊2日3食付、山の案内・行場代含む。裏行場希望者は実費）健康な男子に限る。電話申込制、洞川温泉観光案内所0747（64）0333

▽駅長お薦めフリーハイキング「甘樫丘で小さな秋を見つけませんか」　9月12日(日)雨天決行（集合）橿原神宮前駅10時～12時（コース）橿原神宮前駅―剣池―甘樫丘―大官大寺跡―記寺跡―本薬師寺跡―神武天皇陵―橿原神宮―橿原神宮前駅（約10㌔・一般向）＊係員は同行しません。参加自由・無料（拝観料別途）、橿原神宮前駅074（222）2449

▽奈良交通フリーハイキング「高見山登山」　9月12日(日)小雨決行（集合）榛原駅9時～9時30分（コース）榛原駅（バス）高見登山口―鳥井―高見山―高見杉―高見平野（バス）榛原駅（約10㌔・健脚向）＊係員は同行しません。参加自由・無料（バス代2160円別途）、榛原営業所0745（82）2201

▽駅長お薦めフリーハイキング「刀剣武蔵の里を訪ねて」　9月15日(祝)雨天決行（集合）近鉄奈良駅東改札9時30分～12時（コース）近鉄奈良駅―奈良公園―興福寺―摩利支天石―興福寺子院宝蔵院跡―春日大社二の鳥居―若宮神社―柳生街道（鴻坂の道）―寝仏―夕日観音―朝日観音―杉の大木―首切地蔵（折り返し）―奈良国立博物館―興福寺南円堂―近鉄奈良駅（約10㌔・一般向）＊係員は同行しません。参加自由・無料（拝観料別途）、近鉄奈良駅0742（26）6325

▽てくてくまっぷフリーハイキング「壺阪・高取コース」　9月17日(祝)雨天決行（集合）壺阪山駅10時10分～11時10分（コース）壺阪山駅―壺阪寺―五百羅漢―高取城跡―猪口―壺阪山駅（約11㌔・一般向）＊係員は同行しません。参加自由・無料（拝観料別途）、大阪イベント係06（6775）3566

▽近鉄・南海・朝日合同企画「大和川から金剛山山麓の石川河川敷へ」　9月19日(祝)小雨決行（荒天の場合12月5日(日)に延期）（集合）河内国分駅9時～10時（コース）河内国分駅（受付）―高井田公園―大和川付替記念碑―道明寺天満宮―森田八幡宮―西琳寺―富田林寺内町―滝谷公園―沙ノ宮公園（解散）―沙ノ宮駅（約15㌔）＊健脚に自信のある方に限る。小学生以下と75歳以上の単独参加はご遠慮下さい。参加自由・無料（拝観料別途）、大阪イベント係06（6775）3566

▽奈良交通フリーハイキング「高城山・三郎岳」　9月25日(土)小雨決行（集合）榛原駅9時～9時30分（コース）榛原駅（バス）高井―（室生古道）―仏隆寺―高城山―三郎岳―鹿路橋（バス）室生口大野駅（約9㌔・健脚向）＊係員は同行しません。参加自由・無料（バス代960円は別途）、榛原営業所0745（82）2201

▽駅長お薦めフリーハイキング「静かに佇む山寺・奥法寺から初秋の生駒縦走歩道を行く」　9月26日(日)雨天決行（集合）石切駅9時30分～12時（コース）石切駅―爪切地蔵―石切神社上ノ宮―石仏群―奥法寺―ぬかた廃地―額田山展望台―枚岡神社―枚岡駅（約8㌔・健脚向）＊係員は同行しません。参加自由・無料（拝観料別途）電話申込制、生駒山観光案内所0729（81）2144

▽続売ふれあいハイキング「山の辺の道を歩こう」　9月25日(日)小雨決行（集合）桜井駅9時30分～10時（コース）桜井駅―大神神社―檜原神社―出雲神天皇陵―天理市内観光案内所―天理観光農園―石上神宮―天理駅（約16㌔）参加自由・無料（拝観料別途）、大阪イベント係06（6775）3566

京阪

▽スポニチファミリーハイク「静原・鞍馬岳山」　9月5日(日)小雨決行（集合）叡山電鉄出町柳駅9時30分～10時（コース）叡山電鉄（バス）静原―鞍馬岳山―岩倉花園町―岩倉駅（約11㌔・中級向）参加自由・無料、京阪電車ハイキング担当06（6947）3702

▽朝日・五私鉄リレーウォーク「醍醐寺から上賀茂神社・下鴨神社へ」　10月17日(日)雨天決行（荒天の場合11月21日(日)に延期）（集合）百万遍知恩寺境内（出町柳駅下車約10分）9時30分～10時30分（コース）百万遍知恩寺（受付）―吉田山展望台―（哲学の道）―銀閣寺前―（北白川疎水）―赤の宮神社―宝ヶ池公園スポーツ広場―深泥池―大田神社―上賀茂神社―鴨川河川公園（雲母橋）―半木の道―出雲路橋―下鴨神社糺の森―出町柳駅（約14・5㌔）参加自由・無料、京阪電車ハイキング担当06（6947）3702

▽スポニチファミリーハイク「交野山から獅子窟寺へ」　10月31日(日)小雨決行（集合）天田神社境内（河内森駅下車約5分）9時30分～10時（コース）天田神社境内（受付）―倉治公園―蔦氏の滝―白髭滝―交野山―交野市野外活動センター―楊平―くろんど園地―獅子窟寺―天田神社―河内森駅（約11㌔・一般向）参加自由・無料、京阪電車ハイキング担当06（6947）3702

京都バス

▽京都バス三角点トレック「小野村割岳」　9月4日(土)・11日(土)小雨決行（大雨等中止は9月25日(土)に延期）（集合）出町柳駅コンコース8時～8時30分（コース）出町柳駅（バス）佐々里峠―P840―P832―東谷乗越―P911―小野村割岳―ワサ谷林道―下の町（バス）出町柳駅（約10㌔・健脚向）電話申込制（1ヶ月前から）各日共定員200名、参加費無料（バス代別途）（申込先）京都バス運輸部営業課075（871）7521・7522

▽京都バス三角点トレック「武奈ヶ岳」　10月2日(土)・9日(土)小雨決行（大雨等中止は10月23日(土)に延期）（集合）出町柳駅コンコース8時～8時30分（コース）出町柳駅（バス）吉賀町北比良―八雲ヶ原―北稜―武奈ヶ岳―西南稜―坊村（バス）出町柳駅（約8㌔・健脚向）電話申込制（1ヶ月前から）各日共定員200名、参加費無料（バス代別途）（申込先）京都バス

運輸部営業課075（871）7521・75222

叡山電車

▽叡電ハイク「夜泣峠・賀茂川堤出町柳街道起点」 9月22日(水)・25日(日)小雨決行〈集合〉二ノ瀬駅9時30分～10時〈コース〉二ノ瀬駅―夜泣峠―大谷―山幸橋―高橋―（賀茂川堤）―出町柳商店街―鯖街道起点（約11㌔一般向）参加自由・無料、叡山電鉄営業課075（702）8111

▽フラワーウォーク「裏六ヶ岳・静原」 10月13日(水)・16日(日)小雨決行〈集合〉岩倉駅9時30分～10時〈コース〉岩倉駅―宝泉坂―裏ヶ岳―静原（コスモス）―薬王坂―鞍馬駅（約10㌔一般向）参加自由・無料、叡山電鉄営業課075（702）8111

江若交通

▽こうじゃくMtハイキング「朽木百里ヶ岳から若狭上根来へ抜ける」 9月2日(水)雨天中止〈集合〉JR安曇川駅9時05分〈コース〉安曇川駅（バス）小入谷―百里新道―シチクレ峠―百里ヶ岳―木地山峠―小浜市上根来（バス）安曇川駅（約9㌔健脚向）電話申込制（1ヶ月前から）参加費4000円（バス代含む）（申込先）江若交通本社077（573）2701

▽こうじゃくMtハイキング「若狭三十三間山」 9月16日(水)雨天中止〈集合〉JR安曇川駅9時05分〈コース〉安曇川駅（バス）倉見―登山口―大鯖松―風神―三十三間山―風神―大鯖松―登山口―倉見（バス）安曇川駅（約8㌔健脚向）電話申込制（1ヶ月前から）参加費4000円（バス代含む）（申込先）江若交通本社077（573）2701

▽こうじゃくMtハイキング「敦賀富士（野坂岳）」 9月30日(水)雨天中止〈集合〉JR安曇川駅9時05分〈コース〉安曇川駅（バス）登山口―チノキ地蔵―一ノ岳―野坂岳―一ノ岳―チノキ地蔵―登山口（バス）安曇川駅（約10㌔健脚向）電話申込制（1ヶ月前から）参加費4000円（バス代含む）（申込先）江若交通本社077（573）2701

▽こうじゃくMtハイキング「紅葉の芦生原生林散策」 10月21日(水)・28日(水)雨天中止〈集合〉JR安曇川駅9時05分〈コース〉安曇川駅（バス）若走路出合―ナベクボ峠―三国峠―長谷谷作業所―柳の木平―地蔵峠―生杉（バス）安曇川駅（約8㌔健脚向）電話申込制（1ヶ月前から）参加費4000円（バス代含む）（申込先）江若交通本社077（573）2701

阪急

▽朝日・五私鉄リレーウォーク「陽光きらめく桂川から嵯峨野散策、そして世界遺産『天龍寺』へ」 9月12日(日)小雨決行（雨天の場合12月12日(日)に延期）〈集合〉阪急嵐山駅9時30分～10時30分〈コース〉嵐山駅―桂川サイクリングロード―松尾大社―松尾橋―梅宮大社―東折神社―広沢池―大覚寺（大沢池）―鳥居本―愛宕寺仏寺―試峠―清滝―東海自然歩道―落合橋―六丁峠―鳥居本―亀山公園―天龍寺（世界遺産）（約16㌔）参加自由・無料、阪急電鉄ハイキング担当06（6373）5326

神戸電鉄

▽火曜ハイク「六甲縦走部分ハイク」 9月7日(火)雨天中止〈集合〉谷上駅10時〈コース〉谷上駅―炭ヶ谷―石槌花山―鵯尾台―天狗道―稲妻坂―市ヶ原―布引ダム―地下鉄新神戸駅（約12㌔健脚向）参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078（592）4611

▽神鉄ハイキング「六甲八幡宮神幸祭見物ハイク」 9月19日(日)雨天中止〈集合〉藍那駅10時40分〈コース〉藍那駅―長坂山―六條八幡宮（神幸祭）―箕谷駅（約8㌔一般向）参加自由・無料、神鉄観光事業部078（521）0321

▽火曜ハイク「花山院・有馬富士ハイク」 9月21日(水)雨天中止〈集合〉南ウッディタウン駅9時30時〈コース〉南ウッディタウン駅―有馬富士公園―花山院―千丈寺湖―ウッディタウン中央駅（約18㌔健脚向）参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078（592）4611

▽駅長ハイク「光山寺・嫁取の松跡ハイク」 9月26日(日)雨天中止〈集合〉道場駅10時〈コース〉道場駅―嫁取の松跡―天狗岩―光山寺―フラワータウン駅（約13㌔一般向）参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078（592）4611

▽神鉄ハイキング「長尾台東尾根と六甲山上ハイク」 10月3日(日)雨天中止〈集合〉有馬口駅9時30分〈コース〉有馬口駅―逢山峡―長尾谷東尾根―六甲カンツリーハウス（カーニバル）（約10㌔一般向）参加自由・無料、神鉄観光事業部078（521）0321

▽楽生護まるごとハイク「4日間・合計54㌔踏破」 ①10月6日(水)雨天中止〈集合〉西鈴蘭台駅10時〈コース〉西鈴蘭台駅―つくはら湖（サイクリングロード）―栄町（約15㌔一般向）②10月13日(水)雨天中止〈集合〉栄駅10時〈コース〉栄駅―サイクリングロード―鵯越山―恵比須駅（約15㌔一般向）③10月20日(水)雨天中止〈集合〉恵比須駅10時〈コース〉恵比須駅―弁慶の足跡―谷大師の墓―極山駅（約11㌔一般向）④10月27日(水)雨天中止〈集合〉極山駅10時〈コース〉極山駅―きすみの森―鵯池―楽生駅（約13㌔一般向）＊4日間で西鈴蘭台駅から楽生駅まで歩きます。開催日ごとに参加自由・無料（申込不要）、神鉄グループ総合案内所078（592）4611

▽企画ハイク「石槌花山・再度公園ハイク」 10月10日(日)雨天中止〈集合〉谷上駅9時〈コース〉谷上駅―炭ヶ谷―石槌花山―トエンティクロス―再度公園―鯉蓋北道―鈴蘭台駅（約14㌔健脚向）参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078（592）4611

▽企画ハイク「黒岩尾根・摩耶山ハイク」 10月16日(日)雨天中止〈集合〉鈴蘭台駅10時〈コース〉鈴蘭台駅―洞川峠―黒岩尾根―摩耶山―青谷道―JR灘駅（約12㌔健脚向）参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078（592）4611

▽神鉄ハイキング「大宮八幡宮秋まつり見物ハイク」 10月17日(日)雨天中止〈集合〉志染駅10時40分〈コース〉志染駅―三木山森林公園―大宮八幡宮（秋祭り）―三木駅（約8㌔家族向）参加自由・無料、神鉄事業部078（521）0321

▽駅長ハイク「黒甲越・柏尾谷ハイク」 10月30日(日)雨天中止〈集合〉大池駅10時〈コース〉大池駅―天下辻―黒甲越東道―鰐の手池―柏尾谷―大滝口―箕谷駅（約10㌔一般向）参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078（592）4611

山陽電車

▽山陽ハイキング「洪の敷歩路のたそがれハイク」 9月5日(日)雨天中止〈集合〉江井ヶ島駅下車（江井島海岸）17時30分〈コース〉江井島海岸―明石原人（歯骨発見地）―明石原人（歯骨発見地）―林崎望海浜公園―林崎松江海岸駅（約5㌔一般向・懐中電灯必携）参加自由・無料、須磨浦遊園俱ハイキング係078（731）2520

▽山陽ハイキング「垂水・史跡めぐりハイク」 9月19日(日)雨天中止〈集合〉西舞子駅北（0・2㌔）10時〈コース〉大蔵山遺跡八幡―多聞寺―舞子公園・墓園―五色塚古墳（墓下最大の前方後円墳）―霞ヶ丘駅（約9㌔家族向）参加自由・無料、須磨浦遊園俱ハイキング係078（731）2520

▽山陽ハイキング「鹿嶋神社・生石神社ハイク」 10月3日(日)雨天中止〈集合〉山陽曽根駅下車（曽根天満宮松原公園）10分〈コース〉曽根天満宮―松村川河畔―鹿嶋神社―市ノ池公園―生石神社（石の宝殿）―伊保駅（約11㌔一般向）参加自由・無料、須磨浦遊園俱ハイキング係078（731）2520

▽山陽ハイキング「お旅山・小富士山ハイク」 10月24日(日)雨天中止〈集合〉妻鹿駅（東0・5㌔）松原八幡宮お旅所10時〈コース〉松原八幡宮お旅所―お旅山―麻生神社―麻生山（小富士山）―中村公園―白浜の宮駅（約10㌔健脚向）参加自由・無料、須磨浦遊園俱ハイキング係078（731）2520

□これ以外にも多数の催しがあります。各社の広報も見て下さい。

せせらぎ

題字・小林玻璃三

二〇〇三年秋の山行

河内附子嚏草と咲き競う
日本庭園緑の中に

8月の終わりに、鈴北岳に登った。明け方の星たちのような花を付けた嚏草には、咲く直前の蕾もあり、その花弁の内面にある斑紋が、ろう細工のように透けて見えていた。

今正に咲かむとするか嚏草
秘めたる星が露になる秋
釣舟の昏濤らす秋の露
法螺の音響く霧の山上

めったにない平日の休みに、妻とは行けない山上ヶ岳に独り登った。その日は、偶然、大峰山寺が開いている最後の日だった。

小鍋掛大鍋掛の難所過ぎ
手を合わせれば飯子菜の花
薄の丘に涼風渡る鳥ならば
身を翻し谷を渡らむ

観音峰山を訪れたのは、そろそろ薄が見頃の10月上旬だった。オオセンチコガネがたくさん飛んでいた。

その鎧の青く光るは何故か
峰を飛び交う黄金虫追う
鈴北のヌタ場の主に献血す
その跡痒しふた月経てども

（松阪市　藪木伸人）

5月下旬、愛知県豊田市の猿投山へ登った。生駒豊峰氏の〈山のレポート・中年の山〉（本誌74号）に注目したところ、「1等三角点の猿投山や猿投山は登山道もあり簡単に登れる」とアドバイスされていたのでそれに従ったものである。

コースとしては、猿投神社から東海自然歩道を辿み、御門杉から登山道へ入った。そして東の宮に参詣し、猿投山最高所（629㍍）へ到着した。

その後は東海自然歩道を赤猿峰まで進み、そこから崩壊の激しい荒れ道をくだって林道へ出た。そして西の宮に向かい、そちらの参詣も済ませて猿投神社へ戻った。

一般的には、猿投神社→東の宮→三角点山頂→赤猿峰→雲興寺（瀬戸市）と、東海自然歩道をそのまま進むコースが推奨されており、全ての登山者はそれもしくは逆コースを進んでいたようである。

しかし、今年還暦の私は猿に執着して、猿投神社・東の宮・西の宮と「猿投三社明神」を廻ったし、猿投山自体も最高所と1等三角点の山頂を登って満足し、Vサインを示すことができた。

それにしても中年の関係だろう、平日なのにかなりの登山者だったが、週末や祝祭日などには、狭い三角点山頂は大勢の人で立錐の余地もなくなるのではないかと懸念される。関西の低山歩きでは多くの場合無人なので心細い思いをするのと対照的な登山だった。

（枚方市　東谷　宏）

5月、オオヤマレンゲの庭木に花が咲いた。これは園芸店の片隅で水も与えられず葉もたれ下がり、打ち捨てられるようにして一株あったのを買い求めたもので、その時1㍍ほどの高さであったが、今は2㍍にもなろうとしていて、七つの花を咲かせている。

私がこの花を見たのは稲村ヶ岳に三度登って一度見ただけなので、園芸店で処分寸前のこの木を見た時はびっくりした。この日は図鑑でしかこの花を見たことがないと言う友人3人が集り、花見宴会になってしまった。

神戸フラワーセンターで植物の培養技術を習った友人の話では、植物の一片を細かく切ってフラスコの中で培養すると、一片から百ぐらいの株が出来ると言うのだ。生命の設計図である遺伝子も、設計図を書き変えることによって、新種や改良種がわりと簡単に出来るらしい。

園芸店でも山の花が手頃の価格で並ぶようになったのもこのような技術のおかげなのだろうか。だとすれば山の花の盗掘防止の役に立つのではないだろうか。

このオオヤマレンゲの木は盗掘によるものなのか、それとも最初から人の手によって育てられたものなのか、未だに気が晴れない。それほどに山の花に負けないくらいにきれいな花が咲いている。（大里町　山形　明）

6月13日、今回の石川・岐阜・富山の境、笈ヶ岳にかみさんと2人で登った。

この山は残雪期に登る山として有名で、新ハイの仲間内でも何人かは行かれており、ほとんど残雪期に歩かれているが、テント泊ですね。秋に行かれた方も途中の小屋で泊まって2日で行かれている。

インターネットでは残雪期に日帰りで行かれた方も多くあり、最短で最も楽かと思われたルートをたどるも、山頂までに7時間予定のところを8時間40分もかかって着いた。帰りは一部ルートを変えてやぶを避けて歩き、冬瓜山（かもうりやま）山頂で17時50分になった。

ここからはルートがはっきりとしており、安全に帰れるが、早々に暗くなり1時間位はライトを使った。

無積雪期の6月に日帰りで行って来れたのは天候に恵まれ、同行がかみさんだけだったからで、笈ヶ岳に安全に行くにはやはり2日はかかる最強のやぶ山だった。

これで岐阜県周辺の三県境の山は三俣蓮華岳を残すのみなので、2日コースを3日の予定（予備1日）で歩きたい。

6月19日、三重・奈良県境の池木屋山へ4人で登った。

ここも行きたかった山で、山頂近くでジキタリスの花が咲いていてきれいだった。昔からある花のようだが、だれが持ち込んだか？　気候が合ったから増えたのだろう。

高嶺は50㍍もあるとても立派

○新ハイ関西サービスチェーン

名峰・二般登山　小白森―大白森―甲子・茶臼への縦走路地　1名でも組合わせ送迎可（要予約）　喜天滝辺と西麓

福島・二岐温泉
日観連　大和館
〒962―0621
福島県西白河郡天栄村二岐温泉
電　0248―86―2621
F　0248―86―2703

富士登山・富士五湖
東海道自然歩道
（石割山・ハリキー鉄塔）
三浦山の麓
ペンション　**コットンテール**
〒401―1―0502
山梨県南都留郡山中湖村平野
電　0555―65―8515

大高原高原川登山口から松阪高原行最寄点
関空・岩船口あり
JR中央線鳥山駅下車タクシー40分
バス20分谷山口駅下車徒歩5分鉄陽

山小屋　福ちゃん荘
〒404―0022
山梨県塩山市上萩原2332
電（日　宅）0553―33―4639
（山小屋）0330―14―7921―5

尾瀬、平ケ岳探勝と釣りの山小屋
越後三山只見国定公園内
清四郎小屋
はんものの手打そばと茶店は
樹　海
〒946―0000　新潟県北魚沼郡湯之谷村樋の巣（奥鍋山）
電090―2658―0028
期間外（11月～4月）は
0257―9―2―5026

休館時食入浴も歓迎
10名以上マイクロバスで送迎
箱根仙石原温泉
福　島　館
〒250―0631　神奈川県足柄下郡箱根町仙石原―39
電　0460―4―9041

尾瀬登山ハイキング入山口
天然温泉で山の疲れを
水芭蕉の湯
ヴィラ風花（KAZAHANA）
〒378―0411
群馬県利根郡片品村戸倉4445
電　0278―58―7051

四季眺めなす絶景客室のハイク
上高地・乗鞍岳へ　冬はスキー
けやき沿りと味の宿・日観連
温泉旅館　**けやき山荘**
〒390―1500
長野県松本市安曇村乗鞍高原
電　0263―93―2555

ハイカーの宿・池の平温泉
ナガサキロッジ
百名山を二つ登れる山小屋
黒沢池ヒュッテ
〒949―2100　新潟県中頸城郡妙高高原町池の平温泉
電　0255―86―2261

な滝で、上流の獅滝・ドッサリ滝も合わせれば100㍍にもなるようだ。岩場で咲き出していた見知らぬ花を、植物採集に来られたグループに、ケイビランと教えてもらった。

（海津市　山田明男）

山行短歌

4月25日　奥美濃舟伏山
岩壁に銀幕の妖精のように
イワザクラの明星かがやきて

4月29日　敦賀西方ヶ岳
ブナ林に黄花イカリ草ゆらめき
西方浄土へつづく海の道

5月1日　奥越取立山
雪に埋もれて水芭蕉見えずとも
憧憬知るものに白山そびえ

5月13日　台高白屋岳
雨になる前に別離を告げたきに
僕の気を引くシャクナゲ娘よ

5月22日　奥越姥ヶ岳
水芭蕉にもカタクリにも逢えた
姥のこころづくしの贈り物

5月29日　台高剣岳
くれゆくしかなき五月は美しく
そしてぼくらはブナ林を歩く

6月10日　比良白滝山
山池にさざなみを生む雲に乗り
君ならば鳥になれるだろう

6月13日　加越大長山
ケイタイが圏外となる頂間近の
送信したい恋しき白山よ

6月13日　加越赤兎山
足首をしのばせ湿原の木道ゆく
花の眠りを妨げないように

6月17日　信濃笹ヶ岳
伝えたき思いを秘めて山の辺の
花首かたむけしササユリよ

（吹田市　木村太郎）

私は週三回スーパーカブで石山まで通勤している。日野川の土手道に砂利が敷かれ通りやすくなった。朝と夕方いつも通っているが、人も車も通らないため鳥や動物によく出会う。キジバトはいつも道に出ていて飛び立った後をバイクで追いかける。キジや「チョットコイ、チョットコイ」と鳴くコウジュケイはすぐやぶに飛び込む。タヌキやキツネの親子が戯れている時もある。すぐ近くに民家があり、雑木と竹やぶの土手だがいろいろな動物たちがいるのに驚いている。

鈴鹿山系には新しい林道がいたる所にのびている。この林道をスーパーカブで楽しんでいるが、下りにはエンジンを切り惰性でくだることにしている。人も車も通らない深い山道を音もなくおりてゆくと、すぐ目の前からサル・シカ・タヌキ等が飛び出し、脱兎のごとく逃げ出すのを楽しんでいる。

家の近くに奥草山山系があるが、時間を気にせず四季を通じて気楽に楽しんでいる。南から長命寺山・津田山（△425㍍）・笠鉢山と続く。登山口は落合からは入った島町の長命寺・小豆ヶ浜二ヶ所、宮ヶ浜の国民休暇村キャンプ所に二ヶ所、その東に一ヶ所ある。尾根道と津田山の琵琶湖側山腹にトラバース道があるので、その日によって1時間から4時間のコースを選ぶ。特にこの山系は山野草が多く四季折々にいろいろな草花を愛でる。さわやかな風と小鳥の声を聞きながらのんびりと山道をたどると、道端にさりげなく幻の花が咲いていて驚いたこともある。

この山系の見所は津田山の南に往逮縄が巻かれた盤座があり、その横の大岩に上がると大パノラマが開ける。休暇村本館裏山の笠鉢山はあまり知られていないがすばらしい。時間があれば「竿とび」で有名な伊崎寺に寄ることもできる。

（近江八幡市　岩野　明）

初めまして、新ハイキング関西の山を愛読して10年余りになります。

この間、山行きのルート準備に「新ハイ」を参考にさせていただき、おかげ様で楽しく、しかも安全にハイキングさせていただいておりますことまず感謝申し上げます。

過去の山行き報告や山の案内を参考にさせていただくときに、あの山のことは何号に載っていたんだろうなと本をひっくりかえすことが度々あります。私の場合、表計算ソフトを使って山名と本の号数を入力してバックナンバー表を作り役立てております。

今回「新ハイ」代表の村田様の許可を得て、私の個人ホームページに掲載させていただきました。この本がいつまでも活用されるよう、「新ハイ」ファンの皆様に案内させていただきます。

ホームページ　URL
http://www.gonet.ne.jp/~yamakataru/

（信楽町　佐竹　武）

滋賀と福井の県境の「新道」で地元の人に林道を尋ねると、三方ヶ岳をはじめ、ここらの山の地主の人で、県境のドライブイン「孫兵衛」のご主人だそうだ。許可を得て草深い林道を走る。

林道が尾根に接近した所に駐車し、覆れたスギ林の尾根に取り付く。下草の植物観察を楽しみながら進むと、林内広場なる妙な空間が現れ道も出てきた。一応尾根道しということで、その道を無視してただひたすらやぶ尾根を登って行くと、地図にはなかった林道に飛び出した。ここから一投足で孫持山（573・9㍍3等点名大師走）に着き、大パノラマが広がる。

尾根北側の水平道を行く鉄塔巡視路を歩く。送電線をくぐり鉄塔の東に入ると下生えが濃い藪やぶ潜ぎになり、ピークにたどり着くと三方ヶ岳（△600㍍）だ。三方ヶ岳は、三方から登れるからとか三方が見渡せたからその名が付いたと言われるが、今では藪やぶでまったく展望はない。

展望どころか山名表示もない。大きな木（アオダモと聞く）に針金が巻きついてこれに山名プレートがぶら下がっていたものと思われる。針金は太く樹皮に深く食い込んでおり、余りにも痛々しかったので外そうとしたが頑丈で残念ながらあきらめた。

さて、長居は無用とばかりに戻り、記憶のあるうちに藪やぶを脱出する。

下山後、ご主人にお礼に行くと、立て札に「重要文化財　奥の細道　雲竜清晋本　西村家所蔵」と書いてある。この西村家は古くは庄屋階級の家系で、江戸期の庄屋は教養として俳句をたしなんだのだろう。

文化元年（1804年）に建てられた次の句碑のある庭に案内していただいた。

「松風の落ち葉か水の音涼し　芭蕉」

（向日市　濃渡謙夫）

さわやか信州
露天風呂　山吹の湯
湯田中温泉（穂波）
日野屋旅館
〒381-0400　長野県下高井郡山ノ内町湯田中温泉郷波
電　0269-33-3578

標高2000m雲上の温泉
湯の丸高峰自然休養林
ハイキングにXCスキー
高峰温泉
〒384-0000
長野県小諸市高峰高原
電　0267-25-2000

ハイキングに／スキーに／
志賀高原　石の湯ロッジ
バス　焼の島線至床下車
電　0269-34-2421
東京本社・東京都新宿区新宿3-20-5（新光第2ビル）
㈱スポーツサービス
電　03-3341-0211

塩の道　千国街道
百八十七体「観音原」
ホテル
白馬ブランシェ
〒399-9300
長野県北安曇郡白馬村いわたけ
電　0261-72-4452

八ヶ岳南北縦走の中心部
59年秋新装増築完成全館個室
木の香り漂う新浴室温泉
オーレン小屋
1泊2食付き　6000円
4月末～11月末開設
〒391-0213
茅野市豊平27220　小平勇天

北八ヶ岳の登山基地　冬はスキー
JR茅野駅・北八ヶ岳登山口まで送迎します
蓼科高原
プチホテル　カナール
〒391-0301
茅野市北山蓼科高原笹丸平553-1
電　0266-67-2258

日本百名山の宿
信州戸隠山
森の宿めるへん
高妻山・黒姫山登山口まで送迎
クロカン・コースご案内
〒381-4100
長野県戸隠村越水ヶ原
電　026-254-2081

日本唯一の女人禁制の山「大峯山」（百名山）の登山口
飯綱ヶ岳女人コースもあり
温泉・名水の里
旅館　紀の国屋甚八
1泊2食付　7,000円から
〒638-0431
奈良県吉野郡天川村洞川
電　07476-4-0309

山行計画
（9・10月）
新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するよう、申込み先を確認のうえ申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加者全員に傷害保険代その他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合はすぐ係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。

例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円（夜行日帰りの場合は2日になり200円）を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。（株式会社損害保険ジャパンと契約）

死亡・後遺障害保険金額　1000万円
入院保険金　日額　5000円
通院保険金　日額　2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行　②スキー使用の山行　③沢・岩・氷雪登はんを目的とした山行　④宿泊場所内の事故　⑤病死の場合（詳細は本部まで）

（記入例）

（往復ハガキを使用）

山行き申込み書
山行名（正確に記入すること）
期日
住所 〒
氏名
会員番号
（会員でない方は会員外と記入）
電話番号
生年月日
緊急時の連絡先　TEL
（山行中の連絡先を記入）

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所氏名に「様」を必ず記入しておいてください。

自然観察山行155
木曽・御嶽山（中級向き）
期日　9月3日(金)夜～4日(土)前夜発日帰り
集合　（3日）JR岐阜駅23時00分
コース　（3日）岐阜駅（バス）（4日）（バス）胡桃島キャンプ場―のぞき岩―避難小屋―飛騨頂上―剣ヶ岳―白和田合流点―リフト山頂駅（リフト）リフト山麓駅（バス）岐阜駅（解散）
＊帰路に浴泉予定
費用　約15000円（岐阜駅からバス代等）
地図　昭文社＝「御嶽山」
係　◎鷲見守康
申込み　〒504―0828　各務原市蘇原村前町1の19の5　鷲見守康まで
＊定員20名
＊8月20日まで

木曽の御嶽山を胡桃島口から登り、あまり訪れることのない剣ヶ岳を歩きます。復路は原生林で遊び、ゴンドラで下山します。雨天決行（コース変更あり）

御在所登山に
愛知川渓谷沢歩きに
山好き仲間の集う宿
朝明渓谷
山小屋　朝明茶屋
〒510―1251
三重県三重郡菰野町千草
電　0593―93―1789

那岐山山麓の鳴滝に近く四名山の大山、三百名山の氷ノ山・上齋山などあり。
三百名山　那岐山のふもと
岡山県　那岐山荘
〒708―1307
苫山県勝田郡奈義町高円
電　0868―36―4154

九州の最高峰・日本百名山
宮之浦岳に一番近い宿
屋久島安房登山口
屋久島グリーンホテル
〒891―4311
鹿児島県熊毛郡屋久町安房
電　09974―6―3021

山行例会の実施について
山行例会は保険を掛けたり、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込んでください。

鈴鹿百名山60
御池岳（健脚向き）
期日　9月5日(日)　日帰り
集合　①JR関ヶ原駅8時35分／②三岐鉄道西野尻駅9時03分
コース　各集合駅（車）コグルミ谷登山口―長命水―カタクリ峠―道泊―真の池―池巡り―鈴北岳―タチ谷道―コグルミ谷登山口（車）各集合駅（解散）
費用　交通費各自（車代1000円・500円）
地図　2万5千＝藤立・竜ヶ岳
係　◎山田明男　○高原芳彦
申込み　〒503―0535　海津郡南濃町松山634の19　山田明男まで
＊定員20名
＊マイカーの方はその旨記載ください

カリガネソウ・トリカブト・アケボノソウ・シロヨメナの大群落が見られます。雨天中止

近畿百名山に登る（第73回）
若狭・青葉山（一般向き）
期日　9月5日(日)　日帰り
集合　JR京都駅八条口団体バスのりば7時40分
コース　京都駅（バス）松尾寺―西峰―東峰―展望台―高野分岐―中山寺（バス）京都駅（解散19時頃）
費用　約3500円（京都駅からバス代）
地図　2万5千＝青葉山
係　◎村田智俊　○安倉正勝　○武花裕美
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大鮮10の10　村田智俊まで
＊定員22名

松尾寺から中山寺までの縦走コースを歩きます。雨天中止

紀泉・嶺子城山から槙尾山（一般向き）
期日　9月9日(日)　日帰り
集合　南海和泉中央駅バス停9時00分
コース　和泉中央駅（バス）公園口―施福寺―ボチ峠―嶺子城山―十五丁石地蔵―捨身ヶ岳―槙尾山―高岩公園口（解散）
費用　約2300円（大阪から）
地図　昭文社＝「金剛・葛城・紀泉高原」

自然観察山行156
越美・冠山（一般向き）
期日　9月11日(土)　日帰り
集合　JR大垣駅9時00分
コース　大垣駅（バス）冠山峠―冠岳―冠山峠（バス）大垣駅（解散）
費用　約3500円（大垣駅からバス代等）
地図　2万5千＝冠山
係　◎鷲見守康
申込み　〒504―0828　各務原市蘇原村前町1の19の5　鷲見守康まで
＊定員17名

越美山系の名峰・冠山の秋を訪ねます。小雨決行

花巡り山行9
大阪南部・岩湧山（一般向き）
期日　9月12日(日)　日帰り
集合　①南海河内長野駅8時30分／②四季彩館9時00分
コース　河内長野駅（タクシー）四季彩館―いわわきの道―展望台―ダイトレ道分岐―槍道―岩湧山―きゃうさかの道―四季彩館―神納バス停（バス）河内長野駅（解散）
費用　約3300円（京都から・タクシー代含む）
地図　2万5千＝岩湧山
係　◎田中　明
申込み　HPからメールのみ受付　http://hana0 4.hp.infoseek.co.jp
＊定員10名
＊集合場所もお書きください

岩湧山の秋花をゆっくりのんびり細かく巡って見ませんか（今号34ページ参照）。雨天中止

鈴鹿を歩く199
黒谷山・花平（中級向き）
期日　9月12日(日)　日帰り
集合　3207号線愛宕マーガレットステーション8時30分
コース　ステーション（車）鈴井峠基隔―見返り松―P6 865m―尾根分岐―黒谷

山—花平（往路）筒井峠（解散）
費用　交通費各自
地図　昭文社＝「御在所・雲仙・伊吹」
係　◎岩野　明　○山田晃三
申込み　〒610—0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊マイカー山行

筒井峠の北に黒谷山、東に花平と二つの三角点峰があるがほとんど知られていない。めったに登ることのない山へ初めての例会です（33号49ページ参照）。雨天中止

ファミリーハイク42

丹波・弥仙山（初級向き）
期日　9月16日(日)　日帰り
集合　JR新大阪駅1階正面口
構内7時30分
コース　新大阪駅（バス）登山口—水分神社—於成神社—弥仙山—日置谷道分岐—登山口（バス）あやべ温泉（バス）新大阪駅（解散）
費用　約3500円（新大阪駅からバス代）
地図　2万5千＝梅道・丹波大町
係　◎木村太郎
申込み　〒565—0854
吹田市桃山台1の2のB12の209　木村太郎まで
＊定員20名（会員に限る）

槍ヶ岳を思わせる美しい山容の丹波富士へ登る。雨天中止

週末ハイク62

北アルプス・奥穂高岳から前穂高岳（やや健脚向き）
期日　9月17日(金)夜～20日(月)
前夜発2泊3日
集合　(17日)　JR京都駅八条口団体バスのりば22時00分
コース　(17日)　京都駅（バス）(18日)（バス）上高地—明神—徳沢—横尾—涸沢・山小屋（泊）
(19日)　涸沢—奥穂高岳山荘—奥穂高岳—吊尾根—前穂高岳—岳沢ヒュッテ（泊）
(20日)　岳沢—上高地（バス）平湯（入浴・バス）高山市（バス）京都駅（解散）
費用　約4500円（京都駅からバス・宿泊代等）
地図　昭文社＝「槍ヶ岳・穂高岳」
係　◎谷野東彦　○江阪利明
申込み　〒610—0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊定員18名（会員に限る）
＊9月3日まで

ザイテングラートを奥穂高岳へ登り、吊尾根を前穂高岳へアルバイトし、重太郎新道を岳沢へくだります。奥穂高岳への登りは鎖とハシゴの連続です。雨天決行

若狭の山、三内山（教賀市）（初級向き）

期日　9月18日(日)　日帰り
集合　JR敦賀駅9時40分
コース　敦賀駅—関峠—旗護山—三内山—倉見区—敦賀駅（解散）
費用　交通費各自
地図　2万5千＝敦賀
係　◎高島伸浩
申込み　〒610—0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
雨天決行

鈴鹿・カモシカ高原から御所平（中級向き）

期日　9月19日(日)　日帰り
集合　JR京都駅八条口団体バスのりば7時10分
コース　京都駅（バス）山女原安楽越—カモシカ高原—御所平—P832m—御所谷—石谷川—石水渓東海自然歩道分岐（バス）京都駅（解散18時頃）
費用　約3500円（京都からバス代）
地図　昭文社＝「御在所・雲仙・伊吹」
係　◎中西信行　○森脇良義　○鵜野東治
申込み　〒610—0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊定員22名

カモシカ高原から展望を見ながら歩きます。雨天中止

鈴鹿遊山2

湖北・伊吹古道と伊吹山（健脚向き）
期日　9月19日(日)　日帰り
集合　伊吹町上平寺交差点8時00分

コース　交差点（車）伊吹神社・藤戸川林道駐車—上平寺越—伊吹山—弥高尾根—弥高寺跡—霧ヶ城跡—上平寺越—林道（解散）
費用　参加費100円＋保険
車代ワリカン
地図　2万5千＝長浜
係　◎筒井克治
申込み　〒610—0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊マイカー山行

伊吹の歴史の道を歩きます。雨天中止

鈴鹿百山61

お金明神（健脚向き）
期日　9月19日(日)　日帰り
集合　近鉄湯の山温泉駅8時25分
コース　湯の山温泉駅（車）朝明—根の平峠—タケ谷—お金明神—コリカキ場—上谷尻谷—ウザビ峠—オゾ谷—タケ谷—根の平峠—朝明（車）湯の山温泉駅（解散）
費用　交通費各自（車代500円）
地図　2万5千＝鈴在所
係　◎山田明男
申込み　〒503—0535
海津郡南濃町松山624の19
山田明男まで
＊定員20名
＊マイカーの方はその旨を記載ください

お金明神に参拝後、上谷尻谷を少し歩きます。雨天中止

比良を歩く34

鵜川左股から滝山（一般向き）
期日　9月19日(日)　日帰り
集合　JR北小松駅9時00分
コース　北小松駅—鵜川出合—鵜川左股—長谷出合—滝山—オトシ—涼峠—梅ノ滝—登山口—北小松駅（解散16時頃）＊歩行5時間
装備　谷筋歩きのため、ロングスパッツ必要
費用　約1300円（京都から）
地図　2万5千＝北小松
昭文社＝「比良山系」
係　◎秦　康夫
申込み　〒610—0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで

鵜川左股の谷筋道から滝山に登り、オトシの中をくだります（48号参照）。雨天中止

近畿百名山に登る（第74回）

播州・千ヶ峰（一般向き）
期日　9月20日(月)　日帰り
集合　JR新大阪駅正面口7時40分
コース　新大阪駅（バス）三谷登山口—三谷大滝—岩座神—滝分岐—千ヶ峰—市原峠—坂駐車場（バス）大阪駅（解散18時頃）
費用　約3500円（新大阪駅からバス代）
地図　2万5千＝月波和田
係　◎村田智俊　○安倉正勝　○呂比松美
申込み　〒610—0121
城陽市寺田大畔10の10
村田智俊まで
＊定員22名

三谷の原滝・能滝を見ながら行き、一気に千ヶ峰へ登ります。小雨決行

鈴鹿を歩く200（特別山行）

谷山・幾里山・ソノド（健脚向き）
期日　9月23日(水)　日帰り
集合　河内線「河内の風穴」手前寺院広場8時00分
コース　広場（車）龍現谷—日谷林道源流広場—谷山—幾里山（鹿あそび）—ソノド（往路）龍現谷（解散）
費用　交通費各自
地図　昭文社＝「御在所・雲仙・伊吹」
係　◎岩野　明　○山田晃三
申込み　〒610—0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊マイカー山行

雲仙山西南尾根を歩く時、東に雄大な稜線が続き、幾里山とソノドがそびえている。近江からは遠くて機会がなかったが、200回を記念して登ることにした（21号47～49ページ参照）。雨天中止

花造り山行10

伊吹北尾根（中級向き）
期日　9月23日(水)　日帰り
集合　JR関ヶ原駅9時10分
コース　関ヶ原駅（バス）伊吹山頂駐車場—森平—静馬ヶ原—御座峰—大笠山—国見岳—金石の清水—寺本

（バス）近鉄拉致駅（電車）大和駅（解散）
費用　約6000円（京都から）
地図　2万5千＝美濃
係　◎田中　明
申込み　HPからメールのみ受付
http://hana04.jp.infoseek.co.jp
＊定員10名

北尾根のオータムフラワーショー。とびっきりのトレックです（70号22ページ参照）。雨天中止

地図読み山行63
京都東山・伏見稲荷から嵯峨
（一般向き）
期日　9月23日(祝)　日帰り
集合　京阪伏見稲荷駅9時40分
コース　伏見稲荷駅—伏見稲荷大社—稲荷山四ツ辻—国道1号線旭下辺踏断—清水山登り口—将軍塚—墨田口—地下鉄蹴上駅（解散）
費用　約1000円（大阪から）
地図　2万5千＝京都東南部・京都東北部
係　◎塚元一彦　○中村　登
申込み　〒536—0008　大阪市城東区関目4の14の9の901　塚元一彦まで

＊定員30名
＊9月20日まで

新ハイキング関西支部合同京都一周トレイルを6回に分けて歩きます。地形図の読み方とコンパスの使い方を勉強しますので初心者歓迎。シルバー割引コンパス必携。雨天中止

自然観察山行157
上宝越・高峯山と戸隠高原バードウォッチング（やや急傾向き）
期日　9月24日(金)夜～26日(日)
前夜発1泊2日
集合　（24日）JR岐阜駅22時00分
コース　（24日）岐阜駅（バス）（25日）（バス）戸隠キャンプ場—一不動—高峯山—一不動—戸隠キャンプ場（バス）越水宿（泊）
（26日）越水宿（バス）戸隠森林植物園駐車場—野鳥観察—駐車場（バス）岐阜駅（解散）
＊帰路に浴室を予定
費用　約30000円（岐阜駅からバス・宿泊代等）
地図　昭文社＝「妙高・戸隠」
係　◎鷲見守康
申込み　〒504—0828　各務原市蘇原村南町1の19の5　鷲見守康まで
＊定員20名
＊8月25日まで

戸隠連峰の最高峰で戸隠富士とも呼ばれる高峯山に登り、翌日は戸隠高原でバードウォッチングを楽しみます。雨天決行（コース変更あり）

六甲最高峰（一般向き）
期日　9月26日(日)　日帰り
集合　神鉄有馬温泉駅9時05分
コース　有馬温泉駅—太鼓滝—六甲最高峰—東お多福山—芦屋川駅（解散17時頃）
費用　交通費各自
地図　2万5千＝有馬・宝塚・西宮
係　◎吉良康二　○岡田　昇
申込み　〒675—0112　加古川市平荘町山之上684の33・17A403　吉良康二まで
＊定員20名

アカマツの点在する尾根から最高峰を経て、なだらかな東お多福山をたどります。雨天中止

美濃・9月の舟伏山（中級向き）
期日　9月26日(日)　日帰り
集合　JR西岐阜駅8時30分（関西の方は8時33分着にて）
コース　西岐阜駅（車）あいの森駐車場—桜峠—みのわ平—舟伏山—小舟伏山—阿弥陀如来の峠—あいの森駐車場（車）西岐阜駅（解散）
費用　交通費各自（車代1000円）
地図　奥村さんの絵地図を用意
係　◎山田明男
申込み　〒503—0535　海津郡南濃町松山624の19　山田明男まで
＊定員20名
＊マイカーの方はその旨を記載ください

9月の花はトリカブトかヨメナか？　小雨決行

ファミリーハイク43
伊勢・白猪山（一般向き）
期日　9月29日(水)　日帰り
集合　JR新大阪駅1階止面口構内7時00分
コース　新大阪駅（バス）大力坊（バス）近鉄拉致駅（電車）大和駅（解散）
費用　約6000円（京都から）
地図　2万5千＝美濃
係　◎田中　明
申込み　HPからメールのみ受付
http://hana04.jp.infoseek.co.jp
＊定員10名

北尾根のオータムフラワーショー。とびっきりのトレックです（70号22ページ参照）。雨天中止

地図読み山行63
京都東山・伏見稲荷から嵯峨
（一般向き）
期日　9月23日(祝)　日帰り
集合　京阪伏見稲荷駅9時40分
コース　伏見稲荷駅—伏見稲荷大社—稲荷山四ツ辻—国道1号線旭下辺踏断—清水山登り口—将軍塚—墨田口—地下鉄蹴上駅（解散）
費用　約1000円（大阪から）
地図　2万5千＝京都東南部・京都東北部
係　◎塚元一彦　○中村　登
申込み　〒536—0008　大阪市城東区関目4の14の9の901　塚元一彦まで

＊定員30名
＊9月20日まで

新ハイキング関西支部合同京都一周トレイルを6回に分けて歩きます。地形図の読み方とコンパスの使い方を勉強しますので初心者歓迎。シルバー割引コンパス必携。雨天中止

自然観察山行157
上宝越・高峯山と戸隠高原バードウォッチング（やや急傾向き）
期日　9月24日(金)夜～26日(日)
前夜発1泊2日
集合　（24日）JR岐阜駅22時00分
コース　（24日）岐阜駅（バス）（25日）（バス）戸隠キャンプ場—一不動—高峯山—一不動—戸隠キャンプ場（バス）越水宿（泊）
（26日）越水宿（バス）戸隠森林植物園駐車場—野鳥観察—駐車場（バス）岐阜駅（解散）
＊帰路に浴室を予定
費用　約30000円（岐阜駅からバス・宿泊代等）
地図　昭文社＝「妙高・戸隠」
係　◎鷲見守康
申込み　〒504—0828　各務原市蘇原村南町1の19の5　鷲見守康まで
＊定員20名
＊8月25日まで

戸隠連峰の最高峰で戸隠富士とも呼ばれる高峯山に登り、翌日は戸隠高原でバードウォッチングを楽しみます。雨天決行（コース変更あり）

六甲最高峰（一般向き）
期日　9月26日(日)　日帰り
集合　神鉄有馬温泉駅9時05分
コース　有馬温泉駅—太鼓滝—六甲最高峰—東お多福山—芦屋川駅（解散17時頃）
費用　交通費各自
地図　2万5千＝有馬・宝塚・西宮
係　◎吉良康二　○岡田　昇
申込み　〒675—0112　加古川市平荘町山之上684の33・17A403　吉良康二まで
＊定員20名

アカマツの点在する尾根から最高峰を経て、なだらかな東お多福山をたどります。雨天中止

旧杉峠（バス）難波駅（解散18時頃）
費用　約3500円（上本町駅からバス代）
地図　2万5千＝勢木
係　◎村田智俊　○安倉正勝　○吉比裕美
申込み　〒610—0121　城陽市寺田大群10の10　村田智俊まで
＊定員22名

ススキの高原を1等三角点の生石ヶ峰に登ります。雨天中止

週末ハイク63
越後・会津の山
浅草岳・守門岳・会津朝日岳
（中級向き）
期日　10月8日(祝)夜～12日(火)
前夜発3泊4日
集合　（8日）JR京都駅八条口団体バスのりば21時00分
コース　（8日）京都駅（バス）（9日）（バス）五味沢—桜ブナ—浅草岳—前岳—鬼ヶ面山—六十里越登山口—五味沢温泉（泊）
（10日）五味沢（バス）大原スキー場登山口—小

旧杉峠（バス）難波駅（解散18時頃）
費用　約3500円（上本町駅からバス代）
地図　2万5千＝勢木
係　◎村田智俊　○安倉正勝　○吉比裕美
申込み　〒610—0121　城陽市寺田大群10の10　村田智俊まで
＊定員22名

ススキの高原を1等三角点の生石ヶ峰に登ります。雨天中止

週末ハイク63
越後・会津の山
浅草岳・守門岳・会津朝日岳
（中級向き）
期日　10月8日(祝)夜～12日(火)
前夜発3泊4日
集合　（8日）JR京都駅八条口団体バスのりば21時00分
コース　（8日）京都駅（バス）（9日）（バス）五味沢—桜ブナ—浅草岳—前岳—鬼ヶ面山—六十里越登山口—五味沢温泉（泊）
（10日）五味沢（バス）大原スキー場登山口—小

推薦登山口—都塚落—矢下道分岐—二ノ峰—白折山（往復）登山口（バス）香肌峡スメールの湯（バス）新大阪駅（解散）
費用　約3500円（新大阪駅からバス代）
地図　2万5千＝大河内・横野
係　◎木村太郎
申込み　〒565—0854　吹田市桃山台1の2のB12の209　木村太郎まで
＊定員20名（会員に限る）

秋に咲く可憐な草花が多い伊勢三山の一峰へ登る。雨天中止

北山ちょっと歩き59
左大文字・衣笠山・御室山
（一般向き）
期日　9月29日(水)　日帰り
集合　JR京都駅前市バスのりば C3系10時00分
コース　京都駅（バス）金閣寺—左大文字山—衣笠山—御室山—仁和寺前バス停（解散15時頃）
費用　約500円（バス代）
地図　昭文社＝「京都北山」
係　◎長山繁三
申込み　〒610—0121　城陽市寺田大群10の10

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

京都市街を見下ろす良晴らしのよい里山をゆっくり歩きます。歴史も楽しめます。雨天中止

瀬西・大谷山（一般向き）
期日　9月30日(木)　日帰り
集合　JR京都駅八条口団体バスのりば7時15分
コース　京都駅（バス）マキノ高原—ブナノ木平—葛籠越—宮泉山—ムギノ峰—大谷山（往復）ムギノ峰—マキノ高原（バス）京都駅（解散18時30分頃）
費用　約3500円（京都駅からバス代）
地図　2万5千＝駄口・海津
係　◎寺井恒夫　○川上友堅
申込み　〒610—0121　城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

＊定員22名

葛籠越から大谷山への尾根は延暦寺北部の眺めがたいへん良い所です。雨天中止

鈴鹿を歩く201
阿弥陀ヶ峰・谷山の池・瀬古巡り
（健脚向き）
期日　10月3日(日)　日帰り
集合　上野坐いぼとり地蔵広場8時30分
コース　広場（車）浄水場—P.664—阿弥陀ヶ峰—谷山谷越流の池—瀬古巡り—横道—谷山谷—浄水場（解散）
費用　交通費各自
地図　昭文社＝「鈴鹿北部・伊吹」
係　◎吉野　明　○山田基三
申込み　〒610—0121　城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

＊マイカー山行

5月に予定した谷山周辺の池と瀬古巡りが雨で中止になりました。再度計画します（36号49～50ページ参照）。雨天中止

近畿百名山に登る（第75回）
紀北・生石ヶ峰（一般向き）
期日　10月3日(日)　日帰り
集合　近鉄上本町駅地上一階スペイン広場8時30分
コース　上本町駅（バス）大観寺—木動辻—熊王水—笠石—生石ヶ峰—生石神社—

烏帽子―守門岳―袁晨岳―大岳―二分キャンプ場（バス）五味沢温泉（泊）
（11日）五味沢（バス）只見町赤倉沢登山口―三平のミチギ―叶ノ高手―熊ノ平―会津朝日岳―赤倉沢登山口（バス）深沢温泉（泊）
（12日）深沢温泉（バス）京都駅（解散18時頃）
費用　約57000円（京都駅からバス・宿泊代等）
地図　昭文社＝「越後三山」
係　◎狩野東彦　○瓜阪利明
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊定員18名（会員に限る）
＊9月24日まで

新潟・福島の県境をなす浅草岳と鬼ヶ面山の縦走。守門三山と会津朝日岳にも登る欲張り山行です。雨天決行

白山・別山から三ノ峰と平家岳（中級向き）
期日　10月8日(金)夜～11日(祝)前夜発2泊3日
集合　（8日）JR京都駅八条口団体バスのりば23時00分
コース　（8日）京都駅（バス）白水湖―大倉山―室堂―山頂周遊―室堂（泊）
（9日）室堂―トンビ岩―別山―三ノ峰―六本檜―上小池（バス）鳩ヶ湯温泉（泊）
（11日）鳩ヶ湯（バス）面谷川登山口―平家岳―面谷川登山口（バス）京都駅（解散19時頃）
費用　約38000円（京都駅からバス・宿泊代等）
地図　昭文社＝「白山」
係　◎村田智彦　○安倉正勝　○宮比玲美
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　村田智彦まで
＊定員20名

白山の紅葉を見て、弥人伝説の平家岳にも登ります。雨天決行

自然観察山行158
上信越・戸隠山と奥裾花自然園（やや健脚向き）
期日　10月9日(土)夜～11日(祝)前夜発1泊2日
集合　（9日）JR岐阜駅22時00分
コース　（9日）岐阜駅（バス）戸隠神社奥社入口―奥社―百間長屋―鎖ノ戸渡―八方睨―戸隠山―九頭龍山―一不動―戸隠キャンプ場（バス）越水宿（泊）
（11日）越水宿（バス）奥裾花自然園（バス）岐阜駅（解散）
＊帰路に浴食予定
費用　約31000円（岐阜駅からバス・宿泊代等）
地図　昭文社＝「妙高・戸隠」
係　◎鷲見守康
申込み　〒504―0828　各務原市蘇原村雨町1の19の5　鷲見守康まで
＊定員20名
＊9月5日まで

戸隠連峰のスリリングな岩稜をたどって絶景の山戸隠山を登り、奥裾花のブナ林の紅葉を楽しみます。雨天決行（コース変更あり）

地図読み山行64
京都東山・蹴上から比叡山（一般向き）
期日　10月10日(日)　日帰り
集合　京都地下鉄蹴上駅9時00分
コース　蹴上駅―大文字四ツ辻―哲学の道―北白川―石鳥居―水飲対陣跡―ケーブル比叡駅―八瀬駅（バス）京阪出町柳駅（解散）
費用　1000円（大阪から）
地図　2万5千＝京都東北部
◎塚元一彦　○中村　登
係
申込み　〒536―0008　大阪市城東区関目4の14の9の901　塚元一彦まで
＊定員30名
＊10月7日まで

新ハイキング関西支部合同京都一周トレイルの2回目です。山上から古都の景観を見下しながら地形図とコンパスの勉強をします。初心者歓迎。シルバー且型コンパス必携。雨天中止

紀北・高野山町石道（中級向き）
期日　10月14日(祝)　日帰り
集合　南海九度山駅8時40分
コース　九度山駅―真田庵―慈尊院―六本杉峠―二ツ鳥居―子安地蔵―矢立―大門―根本大塔―千手院（バス）高野山駅（解散）
費用　約2500円（大阪から）
地図　2万5千＝高野山・橋本
係　◎西上利和　○井上由紀子
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

弘法大師が参詣者のために立てたのが始まりと言われる180基の町石道を歩きます。雨天中止

ファミリーハイク44
播但・琵琶高原（初級向き）
期日　10月14日(祝)　日帰り
集合　JR新大阪駅―隋正面口　構内7時30分
コース　新大阪駅（バス）琵琶高原口―夜叉山登山口―夜叉山―登山口―高原東屋―自然交流館―琵琶高原口（バス）センチローザの郷（バス）新大阪駅（解散）
費用　約3500円（新大阪駅からバス代）
地図　2万5千＝長谷
係　◎木村太郎

〒565―0854　吹田市桃山台1の2のB12の203　木村太郎まで
＊定員20名（会員に限る）

ススキの草原琵琶高原から展望の夜叉山へ歩く。雨天中止

自然観察山行159
飛騨・天生峠から初雁山（一般向き）
期日　10月15日(金)夜～16日(土)朝夜発日帰り
集合　（15日）JR岐阜駅23時00分
コース　（15日）岐阜駅（バス）（16日）（バス）天生峠駐車場―天生湿原―天生渓谷―初雁山―千平湿原―天生湿原―天生峠駐車場（バス）岐阜駅（解散）
＊帰路に浴食予定
費用　約16000円（岐阜駅からバス代）
地図　2万5千＝平瀬・鳩谷
◎鷲見守康
係
申込み　〒504―0828　各務原市蘇原村雨町1の19の5　鷲見守康まで
＊定員20名
＊9月5日まで

岐阜県屈指のブナ原生林の紅葉に身を染めて、北アルプスを望みます。雨天決行

花巡り山行11
伊吹五合目から弥高山（一般向き）
期日　10月16日(土)　日帰り
集合　JR近江長岡駅8時45分
コース　近江長岡駅（バス）上野登山口―五合目―弥高山―弥高寺本坊跡―林道終点―平野神社―ジョイ伊吹（バス）近江長岡駅（解散）
費用　約4500円（京都から）
地図　2万5千＝関ヶ原
◎田中　明
係
申込み　HPからメールのみ受付 http://hana-o-4.jp/ inoseek.co.jp
＊定員10名

伊吹五合目までの花巡りと、弥高山から弥高寺本坊跡での伊吹の秋花を楽しましょう（分類78ページ参照）。雨天中止

若狭の山
駒ヶ岳（上中町）（一般向き）
期日　10月16日(土)　日帰り
集合　道の駅「熊川宿」9時00分
コース　熊川宿（車）白石神社―森林公園―駒ヶ岳―森林公園―白石神社（解散）
費用　交通費各自
地図　2万5千＝古屋
係　◎高島伸治
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行

雨天決行

鈴鹿避山3
湖北・河内山（一般向き）
期日　10月16日(土)　日帰り
集合　北国街道柳ヶ瀬トンネル東口（旧道）8時00分
コース　トンネル東口（車）池河内―湯原―河内山―鹿墳尾根―中河内―古道―池河内（解散）
費用　参加費100円＋保険
地図　東代ワリカン
係　2万5千＝弦賀
申込み　◎岡井克治　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

＊マイカー山行
鈴鹿街道を歩び、余呉湖畔を周遊します。雨天中止

鈴鹿百山63
イブネ・クラシ・高畠
（健脚向き）
期　日　10月17日(日)　日帰り
集　合　近鉄湯の山温泉駅8時25分
コース　湯の山温泉駅（車）朝明―根の平峠―タケ谷―クラシ谷―クラシ―イブネ北端―イブネ―イブネ北端―高畠―高畠紀山縁―上水谷奥谷―根の平峠―朝明（車）湯の山温泉駅（解散）
費　用　交通費各自（車代500円）
地　図　2万5千＝御在所
係　◎山田明男　○高原芳彦
申込み　〒503―0535
海津郡南濃町松山624の19
山田明男まで
＊定員20名
＊マイカーの方はその旨を記載ください
高畠縁山路は大きいですね。私が見たなかでは最大でしょう。雨天中止

比良を歩く35
坊村から堂満岳（中級向き）
期　日　10月17日(日)　日帰り
集　合　JR堅田駅バスのりば8時40分
コース　堅田駅（バス）坊村―牛コバ―大橋―南比良峠―堂満岳―堂満岳―ノタノホリ―深谷道出合―比良駅（解散17時頃）＊歩行6時間
費　用　約1800円（京都から）
地　図　2万5千＝花背・比良山
昭文社＝「比良山系」
係　◎桑　康夫
申込み　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
安曇川側から琵琶湖側まで、ややロングコースとなります。雨天中止

鈴鹿を歩く202
綿向山・奥草山・政子
（健脚向き）
期　日　10月17日(日)　日帰り
集　合　大河原「かもしか荘」広場8時00分
コース　広場（車）西明寺水木林道奥ノ平―綿向山―ブナの木平―奥草山―政子―野洲川ダム―かもしか荘（解散）
費　用　交通費各自
地　図　昭文社＝「御在所・霊仙・伊吹」
係　◎宝野　明　○山田景三
申込み　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊マイカー山行
綿向山から野洲川ダムへ続く長大な尾根を歩きます。雨天中止

し　北山ちょっと歩き60
佐々里峠から芦生トロッコ道
（一般向き）
期　日　10月20日(休)　日帰り
集　合　JR京都駅八条口団体バスのりば7時10分
コース　京都駅（バス）佐々里峠―廃村灰野―トロッコ道終点―七瀬谷―廃村灰野―頂後（バス）京都駅（解散18時頃）
費　用　約3000円（京都駅からバス代）
地　図　昭文社＝「京都北山」
係　◎真山繁三
申込み　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
佐々里峠から廃村灰野にくだり、由良川源流沿いのトロッコ道を歩き、紅葉の始まった芦生林を楽しみます。雨天中止

平日ふれあいハイク48
潮北・金糞岳（一般向き）
期　日　10月21日(休)　日帰り
集　合　JR京都駅八条口団体バスのりば7時15分
コース　京都駅（バス）中津尾根600㍍地点―進状踊下駐車場―小朝の頭―金糞岳（往復）中津尾根600㍍地点（バス）京都駅（解散16時30分頃）
費　用　約3500円（京都駅からバス代）
地　図　2万5千＝近江川合・虎御前山
係　◎寺井恒夫　○川上久堅
申込み　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊定員22名
金糞岳は滋賀県第二の標高の山、白山など大きな展望があります。5月に雨で流れた再行。雨天中止

四国・東赤石山（中級向き）
期　日　10月23日(土)～24日(日)
1泊2日
集　合　(23日)　JR三ノ宮駅7時10分
コース　(23日)　三ノ宮駅（バス）日浦登山口―銅山越―西山―東平（泊）
(24日)　東平―西赤石山―東赤石山―床鍋（バス）三ノ宮駅（解散20時頃）
費　用　約16000円（三ノ宮駅からバス・宿泊代等）
地　図　2万5千＝弟地・別子銅山
係　◎吉牧愛一　○岡田　昇
申込み　〒675―0112
加古川市平岡町山之上684の33・17A403
吉牧愛一まで
＊定員18名
＊9月5日まで
高山植物の多いこの山をあえて秋に訪ねてみます。＊定員に満たない場合は中止します。雨天決行（コース変更あり）

美濃・10月の舟伏山（中級向き）
期　日　10月24日(日)　日帰り
集　合　JR西岐阜駅8時30分（関西の方は8時33分着にて）
コース　西岐阜駅（車）あいの森駐車場―桜峠―みのわ平―舟伏山―小舟伏山―阿弥陀如来の峰―あいの森駐車場（車）西岐阜駅（解散）
費　用　交通費各自（車代1000円）
地　図　奥村さんの絵地図を用意
係　◎山田明男
申込み　〒503―0535
海津郡南濃町松山624の19
山田明男まで
＊定員20名
＊マイカーの方はその旨を記載ください
10月の花は何が咲くのでしょうか？　小雨決行

近畿百名山に登る（第76回）
紀泉・岩湯山（一般向き）
期　日　10月24日(日)　日帰り
集　合　南海紀見峠駅9時20分
コース　紀見峠駅―越ヶ峰―三合目―横吉峰―五ツ辻―岩湧山―尾根分岐―カキザコ―滝畑ダム（バス）河内長野駅（解散）
費　用　約3000円（大阪から）
昭文社＝「全国・高槻・紀泉高原」
係　◎村田智優　○安倉正藤
○真比佐美
申込み　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
村田智優まで
カヤトの山頂から360度の大展望。下山は紅葉の始まった雑木林を滝畑ダムへ。小雨決行

潮西・乗鞍岳（中級向き）
期　日　10月24日(日)　日帰り
集　合　JR京都駅八条口団体バスのりば7時20分
コース　京都駅（バス）マキノ国境スキー場―鞍掛―乗鞍岳―芦原岳―鞍掛広場―黒河峠―林道―在原分岐（バス）京都駅（解散18時30分頃）
費　用　約3500円（京都駅からバス代）
地　図　2万5千＝朽口
係　◎森脇貞義　○中西信行
○渡野泰治
申込み　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊定員22名
天気が良ければ琵琶湖がすばらしい。林道歩きがありややロングコースです。雨天中止

ファミリーハイク45
芦生・三国峠（一般向き）
期　日　10月27日(休)　日帰り
集　合　JR新大阪駅―陸上西口
コース　新大阪駅（バス）生杉―地蔵峠―中山神社―野田畑峠―枕谷―三国峠―クチクボ峠―若狭路谷（バス）くつき温泉（バス）新大阪駅（解散）
費　用　約3500円（新大阪駅からバス代）
地　図　昭文社＝「京都北山」
係　◎木村太郎
申込み　〒565―0854
吹田市桃山台1の2のB12の209　木村太郎まで
＊定員20名（会員に限る）
芦生原生林の最奥部に位置する癒しの峠道を歩く。雨天中止

山行報告
（5・6月号）
新ハイキングクラブ関西

奈良・神野山

5月1日(土) 晴れ
（集合）JR奈良駅10・10～21（バス）神野山登山口11・25―神野山12・08（昼食）13・00―神野寺13・12―鍋倉渓13・30―塩瀬地蔵13・47―国道神野口14・55～15・30（バス）JR・近鉄天理駅16・30（解散）

ツツジの咲く神野山は大勢の人で賑わっていた。黒い岩が谷を埋める鍋倉渓に下山して、花を見ながらのんびりと帰った。
（参加者）東村由美　渡部和美　中村英雄　永宮律子　岩本いすゞ　中谷栄子　○近野博文　◎小出良春　（計8名）

滝谷山・サンヤリ・天狗堂

（鈴鹿を歩く192）
5月1日(土) 晴れ
（集合）君ヶ畑8・20（車）ミノガ峠8・50―滝谷山10・05―サンヤリ12・20（昼食）13・10―天狗堂14・10―宮妻峠15・30―君ヶ畑16・00（解散）

朝日に輝く新緑、山萌えて春動き山笑う。急なアップダウンとやぶ漕ぎ道にはシャクナゲやイワウチワの花々。湖東平野、長大な空母御池岳、雄々しい天狗岩士の眺望は見事。そして宮妻峠の手前ではブナの巨木が続き、楽しい山行となった。
（参加者）栗本敏夫　滝野太一郎　金谷　昭　白木良弘　白木やす子　谷　久雄　永戸鉄治　山岸多美子　樋口泰啓　上田典子　石田真由美　大石孝美　大西俊郎　原　幸子　原　光一　友田　毅　友田美保子　杉山能久　谷　守　○山田恵三　◎岩野　明　（計23名）

鎌ヶ岳（鈴鹿白山29再行）

5月1日(土) 晴れ
（集合）近鉄湯の山温泉駅8・40（車）旧料金所8・55～9・00―三つ口谷入口駐車9・25―三つ口尾根登中宗峰10・00―鎌ヶ岳尾根10・50―鎌ヶ岳11・20（昼食）12・00―長石尾根下降大黒谷分岐12・35―大黒谷の滝13・05―長谷谷入口14・25（車）近鉄湯の山温泉駅14・45（解散）

鎌ヶ岳は三度目の正直でよい天気に恵まれたが、参加者はとても少ない8名でした。イワウチワ・イワカガミ・シロヤシオ・アカヤシオ・ハルリンドウにも出会えてよかった。
（参加者）山本京子　宮路ちへ子　下野宣枝　林　正義　若林文夫　山田妙子　○高間芳彦　◎山田明男　（計8名）

三河・大山

5月2日(日) 晴れ
（集合）JR豊橋駅9・05～17（電車）田原駅9・59（バス）越戸10・30―白山比咩神社10・45―大山11・25（昼食）12・00―大山トンネル12・25―大山下12・58（バス）田原駅13・34（電車）豊橋駅14・10（解散）

1等三角点の山ですれ違う登山者も多く、山頂には数グループがいた。下山の大山トンネルを越えると太平洋が見えていて良い山だと思った。
（参加者）今井淑雄　岡本美子　千子　森　晴代　近田智子　小椋きぬ子　○藤崎洸右　◎小出良春　（計7名）

谷山（鈴鹿白山55）

5月2日(日) 晴れ
（集合）JR離ヶ井駅8・20（車）谷山登山口8・40～50―滝ヶ滝10・10―魔洞口上10・40―三蔵滝11・20（昼食）12・00―谷山12・35―中道分岐13・00―井戸ヶ洞13・30―一の谷分岐14・30―谷山登山口15・20（車）醒ヶ井駅15・50（解散）

今頃のヤマシャクヤクに思う存分、堪能するぐらい出会えて幸せでした。（記録・成瀬みち子）
（参加者）馬場桂子　成瀬みち子　中神忠子　佐藤文枝　湯浅みや子　堀江房静　栗本敏夫　宮戸喜久江　宮城勝江　林　正義　伊藤恵美子　谷　久雄　東中次夫　福島三千代　川崎敏雄　幸田正栄　今井みよ子　本間　隆　池田繁美　高瀬井　豊　奥野民雄　白木良弘　白木やす子　奥野常美　山田妙子　伊藤喜久男　○高間芳彦　◎山田明男（計29名）

奈良・芳山から若草山

5月4日(日) ◎小出良春
＊雨天のため中止しました。

湖西・大御影山（花巡り山行3）

5月5日(日) くもり
（集合）JR近江今津駅9・05（バス）ビラデスト今津9・50―展望台11・50（昼食）12・30―大御影山13・20―展望台―ビラデスト今津16・15（バス）近江今津駅17・07（解散）

お目当てのトクワカソウは終わっていたが、オオイワカガミが大群生で待ってくれていた。
（参加者）若松勉子　宮松雅子　上山忠一　本家逸子　時光直一　前田初雄　西原辰夫　三上伸夫　○岩倉健司　◎田中　明（計10名）

美濃・舟伏山

（自然観察山行146）
5月5日(日) 晴れ時々くもり
（集合）JR大垣駅9・00（バス）夏坂林道仮設駐車場11・05～10―あいの森登山口11・25～30―東回り―みのわ平13・00～15―舟伏山14・10（昼食）14・45―西回り―夏坂林道仮設駐車場16・50～17・00（バス）武芸川温泉17・35（入浴）18・00（バス）大垣駅19・10（解散）

今年の花暦は例年に比べて10日ほど早いようだ。林道通行止めの影響もあってかハイカーは極端に少なく、聞くほど静かな山だった。舟伏山の山頂を独占できたのは実に久しぶりのことだった。
（参加者）伊藤　直　伊藤和代　今井淑雄　上田妙子　大岡加代子　岡田直規　栗栖彩子　茅野美紀恵　澤田高治　夏山春子　中上紀代子　東中次夫　布施清美　林　えい子　堀田輝子　山本京子　○長尾一令　◎貴夏守康　（計18名）

大阪・寺山

5月5日(日) 晴れ
（集合）近鉄大阪教育大前駅9・50―国分池10・15―寺山10・53～11・00―鉢伏山の途中11・35（昼食）12・10―農場跡12・45―新池12・55―上ノ太子駅13・08（解散）

寺山に着いたのが早いので、もう一山行こうと国分池を回って鉢伏山に向かったが、ブドウ畑に出てしまい地道する。ブドウ畑に囲まれた静かないい山だった。
（参加者）藤本桂吉　前川和佳子　蓮井洋子　永宮律子　中尾美智子　樫田隆子　○久保田順一　◎小出良春　（計8名）

鈴鹿・入道ヶ岳（三重の山73）

5月8日(土) 晴れ
（集合）椿大神社駐車場8・30（車）小岐須渓谷山の家9・00―池ヶ谷コース登山口9・20―滝雄小屋10・05―池ヶ谷分岐10・45―入道ヶ岳11・40（昼食）12・30―二本松尾根・滝ヶ谷分岐13・00―小岐須渓谷山の家14・10（解散）

清々しい新緑と清涼な小滝群を眺めて登る池ヶ谷コースは最高であった。常に水があるのがよい。下山後に寄った桃林寺には何と花をつけたコマクサがあった。頂上ではパラグライダーが飛び出していた。
（参加者）堀江房静　宮路ちへ子　高間芳彦　新町幸夫　岡本美千子　平　龍一　平　幸子　石田真由美　○福地逸夫　◎尾崎英五（計10名）

鈴鹿・竜ヶ岳

（近畿百名山に登る第69回）
5月9日(日) ◎村田智俊
＊雨天のため中止しました。

金剛・学文峰

5月9日(日) ◎小出良春
＊雨天のため中止しました。

カラ岳北西尾根から シャクナゲ尾根

（比良を歩く31）
5月9日(日) ◎森　康夫
＊比良リフト前行きバスも運行中止のため中止しました。

紀泉・猿子城山から槇尾山

5月13日(木) ◎西上利和
＊雨天のため中止しました。

奥越・取立山

（ファミリーハイク38）
5月13日(木) ◎木村太郎
＊雨天のため中止しました。

佐渡・ドンデン山と金北山

（自然観察山行147）
5月14日(金)夜～16日(日)
前夜発～泊2日
（14日 晴れ）（集合）JR岐阜駅22・00（バス）
（15日 晴れ）（バス）新潟港4・30（朝食休憩）6・10（船）両津港7・10（観光遊バス）ドンデン山荘8・00～05―霧立山8・20―ドンデン山8・35―ドンデンキャンプ場―アオネバ十字路9・55～10・15―マトネ10・45―小倉沢のコル11・55（昼食）12・30―天狗の休み場13・35―イモリの頭13・50―役の行者14・15―金北山14・55～15・05―白雲台16・05～15（送迎バス）宿16・30（泊）

（16日 雨）宿6・30（送迎バス）
アオネバ渓谷入口7・00（渓谷散策）8・30（送迎バス）能楽の里8・45（自由時間）9・40（送迎バス）新穂高上高原9・45（入浴）10・45（送迎バス）両洋荘11・00～30（船）新穂高12・30～40（バス）来馬駅19・30（解散）
今年の花粉の早さに気をもんでいたが、からくも期待のオオミミスミレにも出会えて幸いだった。佐渡の山の花の群落の密度の高さは必見ものである。全員がほとんど「花酔い」状態だった。生涯忘れることのないすばらしい自然の情景だった。
（参加者）近江秀子　大村俊子
栗栖崇吉　栗栖君子　落合ひろ子
沖　伸　白浜忠子　北村つねみ
徳田鴨子　宮松雅子　三上坂美恵
萩野鴨子　平田輝美　森　美香子
宮本真幸　宮本悦子　安田文美江
若松朝子　若松　寛　○森勝貞義
◎鷲見学康　（計21名）

北摂・阿武山
5月16日(日)　◎小出良春
＊雨天のため中止しました。

鈴鹿・御在所山
5月16日(日)　◎山田明男
＊雨天のため中止しました。

雲仙山・谷山
（鈴鹿を歩く－93）
5月16日(日)　◎宮野　明
＊雨天のため中止しました。

湖北・金糞山
（平日ふれあいハイク45）
5月20日(水)　◎寺井恒夫
＊雨天のため中止しました。

大峰奥駈・玉置山から熊野本宮
（週末ハイク59）
5月21日(金)～23日(日)　◎谷野更彦
＊リーダーの都合で中止しました。

湖北・伊吹北尾根
（花遍り山行4）
5月22日(土)　くもり
（集合）JR関ヶ原駅8・50～9・10（バス）伊吹山頂駐車場10・05～静馬ヶ原10・30～展望台12・15（昼食）12・45～大禿山13・15～国見岳13・50～数如上人分岐14・30～金糞の清水15・00～寺本16・33（バス）近鉄垂坂駅17・21（電車）大垣17・45（解散）
多くの花々に堪能。ラン科やタチガシワも見られ、満足感いっぱいの山行だった。
（参加者）須藤幸子　光川二美子
高松雅子　佐谷礼司　西原辰夫
三上仲夫　武村千鶴　森澤照子
前田初雄　○岩佐鶴健司
◎田中　明　（計11名）

若狭・飯盛山
5月22日(土)　◎高島伸浩
＊リーダーの都合で中止しました。

大山みち・三坂山
（中国自然歩道8）
5月22日(土)～23日(日)　1泊2日
(22日　晴れ)（集合）JR西明石駅7・50（バス）三坂ダム10・32—大山みち登山口10・47—展望台12・00（昼食）12・45—十石峠展望台13・00—三坂山13・25—三坂峠14・00—展望台14・05～20—釘貫15・10（バス）大山寺16・50（泊）
(22日　晴れ)大山寺5・25（バス）川床5・40—杉取分岐6・13—岩状分れ6・35—大休峠7・20～42—野田ヶ山8・15—親指ピーク展望点8・30—大休峠9・02～15—矢筈ヶ山10・00—小矢筈ヶ山10・30—甲ヶ山11・25（昼食）12・10—勝田ヶ山12・55—船上山14・30—高岡原14・50—少年自然の家15・00（バス）大山寺15・50（入浴・食事）16・55（バス）加古川駅19・38（解散）
大山みちの入口はヤブサンショウに阻まれていた。これを行くの？　怪訝そうにのぞき込む女性たち。しかし、これを交わすとたんたんと続く大山みちにホッ。大山みちは十石峠展望台・道祖神・釜地蔵など古い歴史を偲びながら歩いた。三坂山ではベニドウダンが迎えてくれた。翌日は川床から入山。ミズナラ等に始まり、高度を上げるとブナに変わった。行けども行けども途切れることのない原生林は、船上山をくだるまで続いた。矢筈ヶ山から甲ヶ山への岩場は無事に通過。皆さんご苦労さ－でした。
＊一向平からの入山を予定したが、吊橋付近で登山道が崩壊し、通行不能になったので川床に変更した。修復は秋の見通し。
（参加者）松村雅子　小谷和子
塩沢孝織　森　瑞代　佐々木麗子
栗栖崇吉　栗栖君子　船越みよ子
小林　桂　首藤育子　前田景久子
岡本佳子　高山　雄　桂　久美子
萩野鴨子　緒方由子　○福隅　章
◎石賀慶一　（計18名）

南山城・大峰山
5月23日(日)　晴れ
（集合）JR宇治駅9・10（バス）ね田9・50—大宮神社10・05—大峰山11・30（昼食）12・00—弘法の井戸13・00—下町13・40～55（バス）宇治駅14・20（解散）
山頂まで道幅が広くて歩きやすい山だった。弘法の井戸で地元の中村さんが天ヶ瀬ダムを通って宇治駅まで歩くと言うので14名の方が中村さんについて帰りました。
（参加者）中村啓一　久保田順一
山根邦枝　湯井洋子　岡田芳貞
中村英雄　小林博子　富田久子
沢崎淳子　小野勇子　中嶋日出男
前田芳枝　柿　英機　片山喜代子
坂口貴司　青木一雄　原　みとえ
山上和代　山口豆弘　岩本いすゞ
市野博文　和田義雄　竹内喜久子
兼田幸子　前田幸子　○山岸勝雄
○林　信男　◎小出良春　（計20名）

鈴鹿・国見岳
5月23日(日)　くもり一時雨
（集合）JR京都駅7・40（バス）武平峠9・40～10・00—国見岳11・40～45—国見岳11・55（昼食）13・05—根ノ平峠14・30～40—朝日ヒュッテ15・45～16・00（バス）京都駅18・55（解散）
暑くもなし寒くもなし、雲が下にあり展望もなくのんびりした登山になった。イワカガミが可憐に咲いていた。
（参加者）児島愛子　斉藤よし子
川田洋子　呉比裕美　村田はる江
川崎敏雄　東中次夫　市井ユリエ
山本京子　木村　豊　森本鈴雄
布施清美　上坂知子　稲本芳雄
吉條孝次　夜久光子　小谷栄子
牧　利夫　三井紘一　○森脇貞義
○磯野重治　◎中西信行　（計20名）

賀生三山
ブナノ木峠・象峠・八寒山
（北山ちょっと歩き57）
5月26日(水)　◎呉山紫二
＊リーダーの都合で中止しました。

越前・姥ヶ岳
（自然観察山行－48）
5月28日(金)夜～29日(土)
前夜発日帰り
(28日　晴れ)（集合）JR岐阜駅23・00（バス）
(29日　雨のちくもり)（バス・途中仮眠休憩）大野市街旅館5・00（朝食・休憩）6・40（バス）林道二俣点7・30～45—林道ゲート8・30—40—ブナ林（林道終点登山口）9・30—姥ヶ岳10・50（昼食）11・30—ブナ林12・35—トチノキ広場13・10～20—林道ゲート13・50—林道二俣点14・20～30（バス）白鳥温泉16・35（入浴）17・15（バス）岐阜駅18・25（解散）
姥ヶ岳のオウレンとサンカヨウの群落は何度見てもいい。規模といい密度の高さといい、見事なものだ。幸い、サンカヨウには花もあり、六輪のスミレやカタクリも咲き残っていた。トチノキの巨木もすばらしかった。
（参加者）近江秀子　緒方雅子
岡田直規　緒方由子　大須賀　實
木村元江　岡田　昇　岡田恵美子
谷　久雄　平田輝美　萩野美紀恵
三角幸子　宮西和子　森　美香子
夜久光子　若松朝子　堀江房雄
佐々木三千代　○吉條孝次
◎鷲見学康　（計20名）

高野・高野山不動坂
5月30日(日)　晴れ
（集合）南海極楽橋駅11・35～40—清不動12・15—女人堂12・33—弁天岳13・01（昼食）13・30—大門13・50—根本大塔14・07—金剛峯寺14・22（バス）橋本駅15・21（電車）河内長野駅16・30（解散）
私鉄の高野山ハイキングと同じ日になり、駅から不動坂を歩いて女人堂は人また人だった。弁天岳から大門に近づくと冷たい お茶のサービスがあった。朱色の根本大塔や金剛峯寺など多くの御堂を見学できて好い日だった。
（参加者）徳田鴨子　四ノ宮勝子
荒木光雄　小田潤子　中尾美智子
小林博子　藤本桂吉　中嶋日出男
森　晴代　林　信男　宮路亜美子
近田智子　北川良子　前田幸子
○市野博文　○福隅　章
◎小出良春　（計17名）

美濃・5月の舟伏山
5月30日(日)　くもり一時小雨
（集合）JR西岐阜駅8・15（車）夏坂林道車止9・40—あいの森駐車場10・10—桜峠11・10—みのわ平11・40—舟伏山12・10（昼食）13・15—あいの森駐車場15・10—夏坂林道車止15・30（車）西岐阜駅16・45（解散）

予報が外れ、小雨が一時降っただけでカッパも着ずに済んだ。鈴鹿では見ないガクアジサイが多く見られ、その他の花も意外に多くあった。山とルにはだれも喰まれなかったが、1～3匹は皆さんの足元から出てきた。

（参加者）馬場桂子　今井みよ子　伊藤紀子　伊藤　明　伊藤恵美子　栗本敏夫　神　伸　南　智恵子　丹下由子　◎山田明男（計10名）

御池岳（池巡り）

5月30日(日)　晴れ

（集合）鈴鹿トンネル西口広場8・25―鈴鹿峠8・45―鈴北岳10・10―元池―日本庭園の池10・45―丸池11・00―風池―ボタンブチ11・25（昼食）12・35―宗助の池―南峰13・00―丸山13・20―池の平池巡り―真ノ池14・10―鈴北岳14・40―トンネル広場15・45（解散）

新緑の鈴鹿山系は緑の風がさわやか。元池・日本庭園の池・丸池・風池・ボタンブチ・宗助の池、南峰・丸山から池の平の池を巡り真ノ池へ。心ときめく新緑と深い樹林のなかに鹿の群れ。足元からパンジが飛び出したり幻の花にも出会え、楽しい山行となった。

（参加者）後藤康幸　恵野太一郎　大石修美　高原芳彦　本田紀千雄　磯部　純　白木良弘　白木やす子　池田繁美　永戸鉄治　石田鉱由美　谷　守　神野孝允　第合ひろ子　友田　毅　岩本彩子　的場たか子　樫田勝利　柴田小夜子　○山田益三　◎岩野　明（計23名）

北横・鈴渡山からホウケントウ（地図読み山行63）

5月30日(日)　晴れ

（集合）JR武田尾駅10・00～15―鈴渡山10・45～55―道路公団標識のピーク11・25―P542.2m11・45（昼食）12・45―ホウケントウ13・25～40―玉滝14・10―古宝山14・40～50―玉滝15・20～33（バス）武田尾駅15・50（解散）

低山だが気持ちのよい縦走が楽しめるコース。第石のピークでは山座同定ができる。縦走を早く終えたので、オプションで古宝山に往復する余裕の地図読み山行であった。

（参加者）萩野鶴子　東村由美　小林　桂　宮下淳一　横原良彦　横原次子　松田　久　野里マツ代　伊藤正延　前田初雄　相原寒紀子　丸田鉄美　森田久子　小山明美　藤田惟之　○中村　登　◎篠元一彦（計17名）

北摂・黒枠岳から明神ヶ岳

6月5日(日)　晴れ

（集合）JR高槻駅9・20～42（バス）田能10・32―首塚10・42―岭10・57―黒枠岳11・32（昼食）12・05―ゲート12・40―明神ヶ岳13・15―万寿峠13・51―中畑回転場13・47～14・12（バス）高槻駅15・02（解散）

黒枠岳で時間計算したら中畑回転場からの終バスにぎりぎりになってしまうと判断したので、明神ヶ岳は急ぎ足になってしまった。二山縦走は少しきつい時間設定だったようだ。

（参加者）岩鶴健司　松尾麗子　松尾方洋　本荘孝夫　石田高敦　山下恒三　伊藤正延　今井淑雄　村田　浩　矢野　稔　中村武雄　藤本桂吉　嶋田　誠　相原寒紀子　牧　和夫　大森康行　中嶋日出男　山田勝雄　藤井洋子　網木美恵子　樫田勝子　朝倉徐雄　広田不佐子　森澤勝子　岩田育士　○林　信男　○和田直蔵　◎小出良春（計28名）

但馬南部・行者岳

6月6日(日)　雨のちくもり

（集合）JR西明石駅8・00～10（バス）多々良木登山口9・45～55―行者岳10・55―展望岩11・40（昼食）12・20―行者岳12・15―分岐12・40―観音峠13・08～15―登山口13・32～45（バス）黒川温泉14・32（入浴）15・30（バス）加古川駅17・10（解散）

降水確立に気をもみながら実施を決断。当日はたいした雨にもならずに、こんな日も時にはあってよいと思ってハッ。ヒルの出現に悲鳴。しかし、ネジキのかわいい花、岩壁にはえた赤い山ツツジ、行者堂跡のしっとりとした自然林の雰囲気などが味わえた。汗に濡れてみんなの意見は、温泉。ヒルに追われるように下山して黒川温泉へ飛び込んだ。

（参加者）小谷和子　岡田恵美子　塩原喜嶺　森　瑞代　光川二美子　角田一江　須藤治子　萩野鶴子　木村　登　石田哲二　佐々木輝子　馬場宗男　吉様孝次　猪狩美枝子　福岡　章　緒方由子　原　文子　松村雅子　山高義治　山高多恵子　栗栖宗吉　栗栖君枝子　○岡田　昇　◎吉良隆一（計24名）

紀泉・和泉葛城山

（近畿百名山に登る第70回）

6月6日(日)　くもりのち晴れ

（集合）近鉄上本町駅7・50（電車）南海難波駅8・24（電車）岸和田駅8・45～9・00（タクシー）牛滝9・35～45―一の滝―林道登山口10・05―二十一丁地蔵林道出合11・15―和泉葛城山展望台11・50（昼食）12・40―槍ヶ峰13・35―葛原ほの字坐ゆの館14・30（入浴）15・50―葛原口16・03（バス）水間駅16・30（電車）貝塚駅16・50（解散）

牛滝登山口から一の滝を見る谷沿いの遊歩道を経由して階段の多い林道からの登山道に取り付いた。山腹の展望台に着く頃には晴れてきて大展望が広がった。下山はブナ林の尾根道を槍ヶ峰平から葛原にくだり、温泉で汗を流した。雨天が予想されたのでバス利用から電車・タクシーにして、下山コースを変更した。

（参加者）佐野信江　武部美恵子　白鳥忠子　宮野雅郎　宮野竜子　奈良邦子　西村文男　山根良枝　横原良彦　○浜比裕美　○安倉正勝　◎村田智彦（計13名）

淡路・東山

6月6日(日)　◎森脇良義

・雨天のため中止しました。

紀北・田代峠から鷲ヶ峰山

6月10日(水)　くもり時々晴れ

（集合）JR紀勢線駅9・40～55―熊野橋10・10―Y字路分岐10・25―一本松分岐―田代峠11・48―龍門山12・20（昼食）12・50―明神岩―一本松分岐13・50―紀勢線駅14・50（解散）

楽しみにしていたキイシモツケの花は見られず少しがっかりしたが、ササユリや初夏の花がたくさんあって十分楽しめた。

（参加者）木村　登　前川和佳子　南野静文　渡部和美　山根木良子　松原園子　吉川裕子　水本加津栄　砂原恵美子　石倉良佐子　○井上由紀昭　◎西上利和（計12名）

鈴鹿・三方崩山

（自然観察山行149）

6月11日(日)夜～12日(日)

前夜発日帰り

（11日　雨）（集合）JR岐阜駅23・00（バス）

（12日　くもりのち雨）（バス）白川村道の駅2・30（宿泊・朝食休憩）5・00（バス）平瀬温泉共同浴場駐車場5・25～35―林道終点6・05―4等三角点7・35―P1956.8m9・25―三方崩山10・10（昼食）10・45―P1956.8m11・30―4等三角点12・30―共同浴場駐車場14・15（入浴）14・50（バス）岐阜駅17・30（解散）

思いがけず夜明けから雨が上がり、あきらめていた三方崩山を目指した。急登とヤセとガレの続いてて長大な尾根を時々雨に打たれながら、夜行疲れのなかをよく頑張って全員登頂した。復路、雨は本降り。激しく滑るぬかるみの急坂を転げるようにくだった。平瀬温泉の湯につかって体を温め、疲れを癒し、全員の無事を感謝した。

（参加者）緒方由子　猪野美枝子　栗栖宗吉　栗栖君枝子　佐藤恵子　澤田高治　萩野美紀恵　白鳥忠子　長尾一令　砂原恵美子　萩野鶴子　堀江房雄　前田喜久子　松見　昭　松村雅子　森　美恵子　村川寿忠　○三井紘一　◎鷲見宇康（計30名）

比良・権現山から南比良峠（湖東ハイク60）

6月12日(日)　くもり

（集合）JR和邇駅9・10（バス）妙道会館奥林道分岐9・20～25―権現山登山口9・50―権現山11・10～25―ホッケ山11・50―小女郎峠12・10～25―蓬莱山12・45（昼食）13・20―木戸峠13・50―比良岳14・20～30―蛇川越14・40―烏谷山15・00～05―荒川峠15・40―南比良峠15・45―定員小屋17・10―比良駅17・50（解散）

縦走路は1日雲のなかで高湿度ながら気温が低かった。おかげで長丁場を予定通り完歩できた。花は縦走路でウツギの他はヤマツジやベニドウダンの名残が見られた。南比良峠から渓谷の下りでは慣れないロープワークと、山道が雑草の茂みで隠れていたため少々時間がかかった。

（参加者）宮下淳一　三上祥夫　内田康夫　藤井洋子　川田洋子　前田初雄　鮫島利明　鮫島みよ子　川崎敏雄　吉植　清　井上由紀昭　村井春和　山本京子　鮫本祐四子　大村俊子　小林　桂　岡田芳章　○浜敬利明　◎狩野英彦（計19名）

三河・観音山

6月13日(日)　晴れ

（集合）名鉄国府駅9・25～36（バス）財賀口9・50―ゴルフ場10・07―観音山11・22（昼食）11・50―財賀寺12・11―願覚山入口13・15―願覚山13・52―願覚山下山口14・33（解散）

観音山の登山道は整備されていて歩きやすかった。下山途中の財賀寺は奥三河の名刹というだけあって立派なお寺だった。時間が早かったので、オプションコースとして願覚山まで足をのばした。

（参加者）徳田鴨子　岡本美子　千代宮竜久江　○藤本桂吉　◎小出良春　（計5名）

向山・イハイガ岳・綿向山

（鈴鹿を歩く195）

6月13日(日)　晴れ

（集合）登り谷出合広場8・20―尾根取付8・30―鉄塔9・30―向山11・00―登り谷源頭ガレ場11・40―イハイガ岳12・00―草原12・20（昼食）13・10―綿向山13・40―国土尾根分岐14・45―高羽路15・00―登り谷山合16・15（解散）

向山へと続く尾根にのると古い道がどこまでも続いた。向山は深い樹林とアセビの群落でやぶのなか。登り谷源頭のガレ場に着くと一気に展望が開けた。幻の花ショウキランを愛でてイハイガ岳から綿向山へ。大パノラマと新緑とさわやかな風のなかを国土尾根から登り谷へと一気におりた。

（参加者）後藤康幸　吉長孝次　大石将英　高原芳彦　奥野太一郎　田尾　肇　池田繁美　落合ひろ子　栗本敏夫　村田紀生　南　智恵子　岩本彩子　一芝義雄　一芝美知子　池田隆一　白木良弘　白木やす子　磯部　純　金谷　昭　石田真由美　永戸鉄治　原　幸子　原　知永　大西悟郎　谷　守　樋木美恵子　神野孝允　武村千鶴　小林　実　○山田晃三　◎若野　明　（計31名）

大阪・金剛山（花巡り山行5）

6月13日(日)　晴れ

（集合）金剛山バス終点9・00―伏見林道―桐尾谷9・40―水場10・30―尾根道10・50―国見城址11・30―大尾根12・00（昼食）12・50―千早岡地観察―千早滝と自然のミュージアムで学習会14・00～15・00―今辺坂―バス停16・00（解散）

梅雨の中休みの大快晴で頂上からは愛宕山、大峰山系・高見山などの大展望。ウツギ・ツルアジサイが満開でタイミングよく、それらの同定等を山小屋の大型ディスプレイにより学習会も楽しみました。

（参加者）高松雅子　猪狩美枝子　木村　豊　上山正一　光川二美子　西原辰夫　清川英三　清川陽子　前田初雄　○岩鶴健司　◎田中　明　（計11名）

白滝谷から蓬莱山

（比良を歩く32）

6月13日(日)　晴れ

（集合）JR撃田駅8・40～44（バス）坊村9・30～45―伊藤新道出合10・15―牛コバ10・25～30―スベリ石11・12―白滝滝11・32―夫婦滝11・58～12・11―途中広場12・30（昼食）13・00―汁谷13・17～25―笹平13・40―蓬莱山14・00～15―金ビラ峠14・36―蓬莱山登山口15・35～40―びわ湖バレイ前15・40（解散）16・02―JR志賀駅16・14

夏の山歩きは、やはり谷道がよい。白滝谷は終始木陰道のうえに滝も多く、水流を渡ってくる風も心地よい。蓬莱山頂からは、若狭の青葉山まで遠望できて満足だった。

（参加者）高山　雄　中嶋日出男　栗栖崇吉　栗栖君子　市井ユリエ　内田康夫　牧　和夫　柴田チヨコ　上阪知子　宮野琴子　小椋きぬ子　佐野信江　小谷和子　井上由紀晴　沖　伸　武部　剛　武部芙美子　谷川俊一　高岡富美子　多賀久子　久保田玲子　森澤照子　角田一江　青木一雄　川北恵美子　○宮下淳一　◎秦　康夫　（計27名）

信楽・笹ケ岳

（ファミリーハイク39）

6月17日(水)　晴れ

（集合）JR新大阪駅8・00（バス）南新田9・50～10・00―西登山道入口10・10―笹ヶ岳11・30（昼食）12・00―雨乞寺跡を往復―笹ヶ岳12・25～30―東登山道入口13・20～40（バス）サンピア伊賀琵琶の湯14・10（入浴）15・40（バス）新大阪駅18・00（解散）

沢道では水場に憩い、渡渉に立つと風が通り抜けた。笹ヶ岳山頂は切り開かれ、飯道山など北方の山々を眺めた。山中のササユリは数が少なくなっていたが、山麓の斜面まで寄り道をして群生のササユリを見て帰った。

（参加者）市野博文　田所貞里子

綱　徳保　柏木美子　金藤千恵子　本岡昭恵　村上吉子　中澤ちず子　古川正子　渡部和美　成川みさお　妹尾一正　木村　豊　本田久美子　松尾勝子　前田久子　中尾美智子　上田久子　西　悦子　山中あさみ　植木敏子　尾崎光子　秋葉宗正人　○西條良彦　◎木村太郎（計25名）

若狭・青葉山

6月19日(日)　晴れ

（集合）JR若狭高浜駅9・00（車）中山寺登山口9・25―展望台10・15―馬の背10・55―東峰11・10―西峰11・50（昼食）13・20―東峰13・50―展望台14・30―中山寺15・10（解散）

展望台からは高浜の入り江が、馬の背で絶壁の上に立つ。ジャコウソウが岩にくっついていた。東峰から西峰間の巨岩くぐりや岩の上り下りはスリル満点。西峰では昼食の後ハーモニカの合奏と歌の合唱で楽しんだ。

（参加者）光川修史　光川二美子　大槻俊章　村井寿和　井上由紀晴　石原君子　谷　守　船本裕巳子　川島勝美　加藤国計　平岡春代子　中山　勇　木戸雪江　北野和枝　◎高島伸浩　（計15名）

美濃・貝月山と小津権現山

6月19日(日)～20日(日)　1泊2日

（19日　くもりのち晴れ）（集合）JR京都駅7・40～55（バス）いこいの森11・00～10―貝月山12・10（昼食）12・50―牧の尾谷分岐13・15―少将滝15・00―長者平キャンプ場15・30（泊）

（20日　雨）キャンプ場9・00（バス）谷汲山10・15～11・30（バス）池田温泉12・00（入浴・昼食）14・00（バス）京都駅16・00（解散）

貝月山から深い樹林に包まれた美しい渓谷を見ながらの下山、そして夜はバーベキューで楽しんだ。翌日は雨になり、小津権現山は中止し、代わりに西国三十三ヶ所最終のお寺、谷汲山にお参りした。温泉を楽しんで早めに帰った。

（参加者）児島愛子　角田一江　塩尻吉織　白鳥宗子　中川光郎　金森節子　澤田浩治　小谷和子　佐野信江　中川節子　武部芙美子　小林　桂　中川勝雄　中嶋日出男　三角幸子　小松志信　高岡富美子　朝倉祝雄　高木忠夫　村田はる江　川田洋子　馬場中男　宮野哲郎　宮野琴子　○安倉正勝　◎村田智彦　（計26名）

鬼ヶ牙・長坂の頭・白井岳

（鈴鹿台山57）

6月20日(日)　◎山田明男

＊雨天のため中止しました。

奈良・大峯山から高峰山

6月20日(日)　くもり

（集合）近鉄橡原駅10・10～15（バス）高井10・30―赤稚乙の十字路10・50―大峯山11・50（昼食）12・30―高峰山13・10―唐戸山13・37―仏隆寺14・00―高井14・25～42（バス）橡原駅14・55（解散）

台風の接近でキャンセルも出たが、これだけ多くの参加があってよかった。峠から山道に入ると倒木とブッシュになるが、自然いっぱいの楽しいコースだった。室生古道の唐戸峠に降りて桜で有名な仏隆寺に立ち寄ってから陣路につ いた。

（参加者）吉長孝次　増田　正　西原俊弥　西原裕子　橋原良彦　植草次子　柳　敏弘　柳　雅代　市野博文　中村英雄　東久保勝彦　岩田育士　松田和恵　岩鶴健司　森　昌好　片山克博　片山喜代子　朽名生石　今井淑雄　川北恵美子　渡部和美　樋田隆子　○福嶋　章　○林　信男　◎小出良春（計19名）

東信・高峰山から竜ノ登山と湯ノ丸山から鳥帽子岳

（自然観察山行150）

6月25日(金)夜～27日(日)　前夜発1泊2日

（25日　雨）（集合）JR岐阜駅23・00（バス）

（26日　くもり）（バス）浅間高原ペンション4・45（朝食・休憩）6・45（バス）車坂峠8・10～20―高峰温泉分岐9・00―高峰山9・20～30―高峰温泉10・00―水ノ塔山11・00―竜ノ登山12・00（昼食）12・30―西竜ノ登山12・45―竜ノ登山13・10―三方ヶ峰14・15―見晴台14・45―地蔵峠15・35～16・00（バス）浅間高原ペンション16・35（泊）

（27日　くもり）浅間高原ペンション6・45（バス）地蔵峠7・20～30―つつじ平7・50―湯ノ丸山南峰8・25～35―北峰8・45―南峰9・00―鞍部9・20―烏帽子岳10・10～20―鞍部10・55―湯ノ丸キャンプ場11・25―地蔵峠湯ノ丸高原ホテル11・40（入浴・昼食）13・30（バス）岐阜駅18・00（解散）

雨を覚悟の山行だったが、幸い雨は降らず予定通り歩いた。華やかなレンゲツツジの群落と高山の

花を鑑賞し、湯ノ丸山南峰ではガスの切れ間に北アルプスなど360度の展望を楽しんだ。

（参加者）岡田直規　小嶋山利子　加藤天彦　金森節子　砂原東美子　冨田勝子　白浜忠子　林　えい子　仲谷礼司　長尾一令　森　美喜子　三井紘一　宮西和子　安田文美江　山蘇勝美　宮本真幸　宮本悦子　若松朝子　佐々木三千代　○荻野東彦　◎鷲見宗康（計19名）

湖北・伊吹山（花巡り山行6）

6月25日(土)　◎田中　明

＊雨天のため中止しました。

太尾の長池（鈴鹿を歩く196）

6月27日(日)　くもり

（集合）茶屋川林道ヘリポート広場8・30―太尾尼根10・05―長池10・25―白谷峠11・00―白谷源頭ガレ場11・15（昼食）12・00―又川谷出合12・40―茶屋川林道13・40―広場14・30（解散）

太尾の稜線にのると心洗われる深い樹林が続く。長池も深い緑に囲まれ、モリアオガエルの白い泡状の卵塊がいくつもぶらさがっていた。白谷の源頭のガレ場で昼食。下りの又川谷もさわやかな清流と緑のトンネルがどこまでも続き楽しい山行となった。

（参加者）後藤康幸　奥野太一郎　大石将美　高原芳彦　南　智恵子　栗本敏夫　宮野信郎　石田眞由美　永戸鉄治　村田紀生　的場たか子　桜田勝利　友田　毅　友田美保子　小林　桂　○山田崇三　◎宮野　明（計17名）

北摂・五月山と六甲山

6月27日(日)　くもり一時雨

（集合）阪急池田駅9・50～10・00―五月山公園10・15―烏帽子11・03―五月山11・25（昼食）12・00―六甲山13・50―ハート広場14・30―桜広場15・15―箕面駅15・40（解散）

五月山までの人は10名だったが、この後の六甲山が厳しかった。自然林の山でよかったが、五月山までの疲れがあって相当バテた人も出た。和田さんと山上さんが最後を締めてくれたので安心して歩けた。

（参加者）松尾芳洋　松尾雅子　吉植　清　中村英雄　植原良彦　岩田育士　郷川常雄　磯野重治　秋田楠蔵　山岸勝雄　倉田久子　藤本桂吉　東田幸子　本間　隆　岡田芳員　小林博子　中尾美智子　林　信男　松本勝子　櫻田隆子　岩本いすゞ　小田潤子　川上友愛　中嶋日出男　多賀久子　飯田良子　吉條孝次　嶋田民彦　○和田直樹　朝倉徹雄　○福嶋　章　◎小出晃春（計33名）

美濃・6月の舟伏山

6月27日(日)　くもり一時小雨

（集合）JR西岐阜駅8・15（車）夏坂林道車止9・45―あいの森登山口10・05―桜峠10・50―舟伏山12・10（昼食）12・50―阿弥陀如来の峰13・50―あいの森登山口14・40―夏坂林道車止15・30（車）西岐阜駅16・40（解散）

花はキツリフネが多く見られ、ヤマアジサイもきれいだった。6月の雨後でヤマヒル様が大発出現、4人が朝食になった。

（参加者）伊藤　明　伊藤恵美子　伊藤紀子　馬場桂子　山岸勝雄　山田妙子　◎山田　明（計7名）

美濃・坂から冥裏ヶ岳（北山ちょっと歩き58）

6月30日(水)　晴れ

（集合）京福嵯峨駅9・00―梨王坂9・30―静原10・35―冥裏ヶ岳11・00～25―鷲見坂11・55（昼食）12・55―老ノ杉社14・25―京都国際会館前14・25～15・02―大文字火床「法」15・40―16・00―地下鉄松ヶ崎駅16・40（解散）

今回は退院後初めての例会にもかかわらず大勢の方にご参加いただきありがとうございました。今後健康の続く限り一生懸命に努めますのでよろしくお願いします。

冥裏ヶ岳の尾根から左に比叡山右に京都の里山を眺めて歩いた。また大文字の火床にも登って京都市街を展望した。

（参加者）吉植　清　馬場忠男　堀江勝重　真木忠夫　柴田チョコ　宮野栄子　本間　隆　中村　保　森　和久　森　康夫　森　美代子　岩村春子　安達陽子　鷲見瑞子　秋尾一正　市野博文　山岸勝雄　磯部　純　谷　守　渡部和美　松本忠雄　林　弘毅　中川光郎　中嶋日出男　◎真山繁雄（計25名）

新ハイキングクラブ関西 入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」（隔月刊・年6号発行）の定期購読者を中心にしたハイキングの集いです。

この雑誌は紀行文やコースガイドなどで、関西のハイキングコースや山の情報を発信しています。山の知識を深め、健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをともに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和25年発足以来、東京を中心に50年間余、好評のうちに活動しています。関西は平成3年発足で13年目に入りますが、すでにたくさんの会員で活動しています。

会員は当会の山行例会に優先して参加できます。この山行例会を通じて正しい山歩きを、楽しい山仲間たちと味わいませんか。

リーダー（係）はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、密酒料もすべてワリカンです。

会員には「新ハイキング関西の山」を毎号お送りします。

四季の自然に触れながら歩き、若々しい心と健康をいつまでも持続するのはすばらしいことです。これから始めてみたい人も、すでにベテランの人もみなさんご入会いただけます。

入会金　500円（バッジ代）
年会費　3000円（送料共）

入会の申し込み（随時）はこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。氏名（ふりがな）及び第何号からの送本かを忘れずにご記入ください。

なお、定期購読をご希望される方も会員になっていただきますと、毎号確実にお手元に届きますので便利です。

切手530円分をお送りになれば、「新ハイキング関西の山」見本誌1冊送ります。

○山行リーダー募集

リーダーは2ヶ月に一～二回程度の山行例会を計画・実施していただきます。

無償の奉仕ですが、やりがいもあり、楽しいものです。経験のある方や、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。マニュアル「リーダー必携」をご参考に送ります。

○新入会員（定期購読者）紹介

新しいお仲間のみなさんです。会員番号7988番から5000番まで

【京都】小松弟人　山岡詠美子　志水南美

【大阪】塩見剛也　辻　静義　前田初雄　東　正泰

【奈良】鉢田二郎　山崎絢子　堀内雅智

【兵庫】田中博之　田中寿美恵　寺井孝治（13名）

訂正とお詫び

77号（盛夏）16ページ上段23行～24行「ヤマヒルガエル」は「ニホンヒキガエル」が正しい。また同ページ中段12行「急坂の登行」は「急坂の下行」が正しい。

77号（盛夏）82ページ上段4行～5行「右下に杉の木立が……」は「右上に杉の木立が……」が正しい。

第6回　京都山の会写真展

―山　その偉大な自然の中で―

とき　平成16年10月23日(土)～28日(木)
　　9時30分～18時30分
会場　エイエムエス A'BOX ギャラリー
　　京都市中京区御前通御池上ル
　　（JR・地下鉄二条駅西へ徒歩10分　P50台可）
　　TEL　075（841）1470
主催　京都山の会写真クラブ
　　TEL　075（641）9291（事務局）

毎号お求めになりたい方へ

前もって書店に毎号ほしいと「購読予約」をされますと、どこの書店でもお買い求めいただけます。偶数月の20日ごろ（隔月刊）の発売です。